第３章　事業実施想定区域及びその周囲の概況

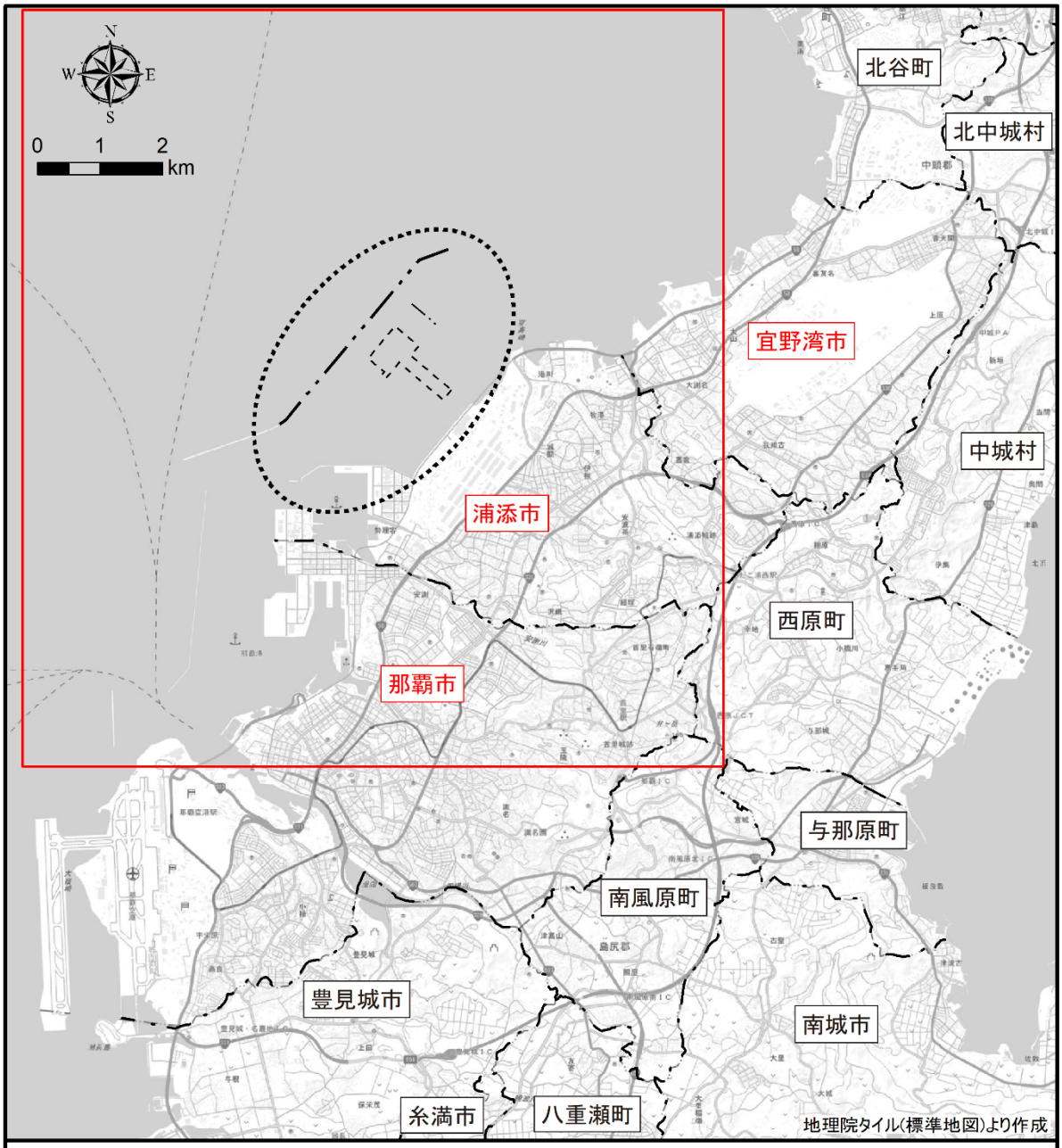
第3章　事業実施想定区域及びその周囲の概況

対象事業に係る調査の対象とする地域（以下「対象地域」という。）は、図 3-1 に示すとおり、事業実施想定区域を中心とした地域とした。

この範囲については、事業実施想定区域を中心として、環境要素のうち影響範囲が広い大気の拡散による影響、水環境への影響、眺望景観への影響などを考慮し、これらの影響を受けるおそれがあると想定される地域を含むよう設定した。

関係する自治体は、環境への影響を勘案して、浦添市、宜野湾市及び那覇市とした。

なお、地域特性の把握については、対象地域における環境情報の収集を基本としたが、調査項目の内容に応じては浦添市、宜野湾市及び那覇市を対象とした。



凡例

※対象とする地域は、□の浦添市、宜野湾市及び那覇市とした。

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

対象地域

図 3-1　調査の対象とする地域（対象地域）

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境

(1) 気象

対象地域に気象観測所はないが、事業実施想定区域から南へ約 6.5km の場所に那覇気象観測所（所在地：那覇市樋川 沖縄気象台）が設置されている。

那覇気象観測所における平年値の気象概況は表 3.1.1-1 に、同観測所の位置は図 3.1.1-1 に示すとおりである。

1) 気温

月別平均気温の平年値は 17.3～29.1℃であり、日最高気温は 1 月を除いて 20℃を上回り、日最低気温は年間を通して 10℃を上回っている。

2) 降水量

月別降水量の平年値は 101.6～284.4mm であり、梅雨の時期にかかる 5 月、6 月及び台風の時期にかかる 8 月、9 月の月別降水量は 200mm を超えている。

3) 風向・風速

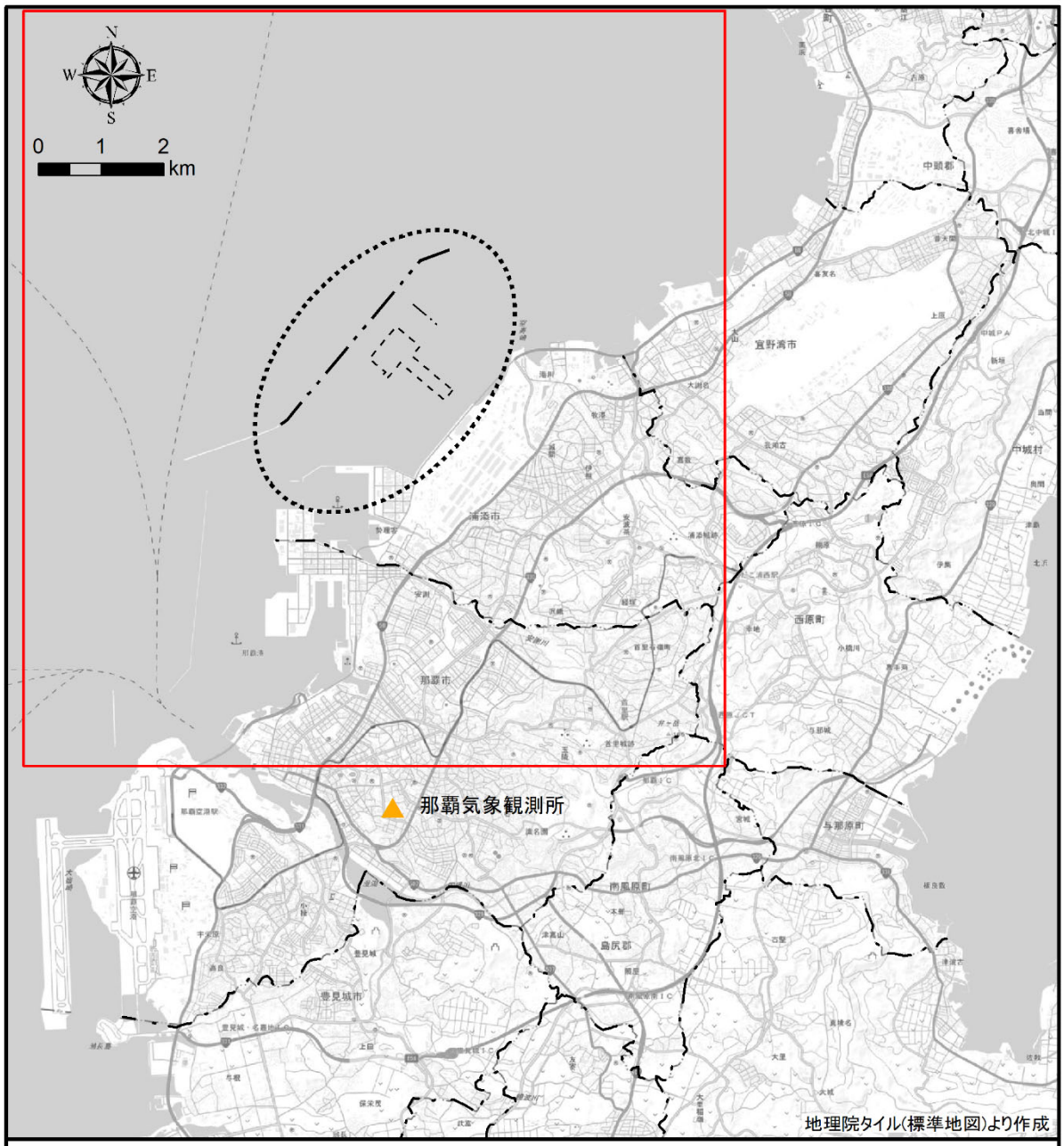
風向の平年値は 10 月から 3 月にかけては北寄りの風が卓越し、4 月から 9 月にかけては東から南寄りの風が卓越している。月平均風速の平年値は 4.8～5.5m/s であり、年間を通して大きな変化はない。

令和 5 年 4 月から令和 6 年 3 月までの 1 年間における月別及び年間の風配図は図 3.1.1-2 に示すとおりである。表 3.1.1-1 に示す平年値と同様に、10 月から 3 月にかけては北寄りの風が卓越し、4 月から 9 月にかけては南東寄りの風が卓越している。年間を通しての風向の頻度は南東寄りの風が卓越している。

表 3.1.1-1　那覇気象観測所における気象の概況（平年値）

項目 / 月	気温(℃)			風向・風速		降水量合計 (mm)
	日平均	日最高	日最低	最多風向	平均風速 (m/s)	
1 月	17.3	19.8	14.9	北北東	5.3	101.6
2 月	17.5	20.2	15.1	北	5.2	114.5
3 月	19.1	21.9	16.7	北	5.2	142.8
4 月	21.5	24.3	19.1	東南東	5.1	161.0
5 月	24.2	27.0	22.1	東	4.8	245.3
6 月	27.2	29.8	25.2	南西	5.5	284.4
7 月	29.1	31.9	27.0	南東	5.3	188.1
8 月	29.0	31.8	26.8	南東	5.2	240.0
9 月	27.9	30.6	25.8	東南東	5.3	275.2
10 月	25.5	28.1	23.5	北北東	5.5	179.2
11 月	22.5	25.0	20.4	北北東	5.3	119.1
12 月	19.0	21.5	16.8	北北東	5.3	110.0

注：平年値の統計期間は 1991～2020 年
出典：気象統計情報　過去の気象データ検索（気象庁 HP）



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

気象観測所

代替施設

防波堤

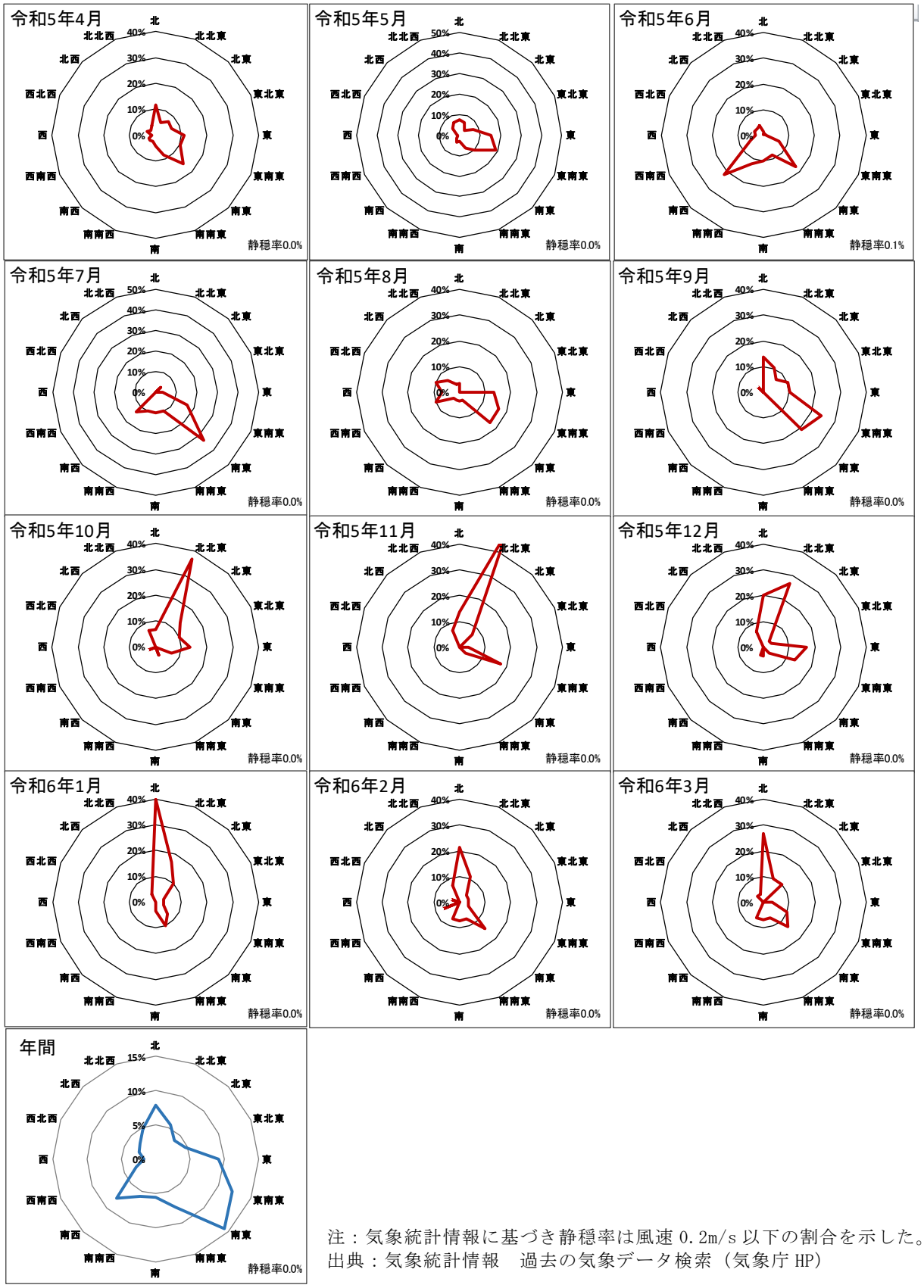
市町村界

対象地域

備考：対象地域内には気象観測所がなく、対象地域外のデータを使用しているため、広域の図面を使用。

出典：地域気象観測所一覧（気象庁 HP）

図 3.1.1-1　気象観測所位置図



注：気象統計情報に基づき静穏率は風速 0.2m/s 以下の割合を示した。
出典：気象統計情報　過去の気象データ検索（気象庁 HP）

図 3.1.1-2　那覇気象観測所の風配図（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）

4) 台風

那覇における月別台風接近数は、表 3.1.1-2 に示すとおりである。

台風は、平成 6 年から令和 5 年までの 30 年間で年平均 3.8 回接近している。また、接近する台風の多くは 7 月から 9 月に発生している。

表 3.1.1-2　月別台風接近数（平成 6 年～令和 5 年）

年＼月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計(回)
平成 6(1994)年							1						1
平成 7(1995)年							1	1	1				3
平成 8(1996)年								1	1				2
平成 9(1997)年					1	1		2					4
平成 10(1998)年									1	1			2
平成 11(1999)年							1	2	1				4
平成 12(2000)年							1	1	2	1			5
平成 13(2001)年					1				1	1			3
平成 14(2002)年						1	3	1	1				6
平成 15(2003)年				1	1	2		1	2				7
平成 16(2004)年						2		1	2	2			7
平成 17(2005)年													0
平成 18(2006)年							1	1	1				3
平成 19(2007)年							1		1				2
平成 20(2008)年									1				1
平成 21(2009)年										2			2
平成 22(2010)年								2*	2*	1			4
平成 23(2011)年					2			1	1				4
平成 24(2012)年						2	1	2	2	1			8
平成 25(2013)年						1		1	1	3			6
平成 26(2014)年						2	2*	1*	1	1			6
平成 27(2015)年					1		2	1					4
平成 28(2016)年									2	1			3
平成 29(2017)年									1	1			2
平成 30(2018)年						1	3	3	1	1			9
平成 31(2019)年									2	1			3
令和 2(2020)年								3*	1*				3
令和 3(2021)年						1	1	3					5
令和 4(2022)年							2	1*	1*				3
令和 5(2023)年						1		1					2
平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.5	0.7	1.0	1.0	0.6	0.0	0.0	3.8
合計	0	0	0	1	6	14	20	30	30	17	0	0	114
平年値 1991～2020 年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.6	0.9	1.1	0.6	0.0	0.0	4.0

注 1：那覇への接近：台風の中心が沖縄気象台の 300km 以内に入ることをいう。
注 2：* 印は台風が二つの月にまたがって接近（両月に加算）したことを示す。接近数は月合計と年で異なることがある。
注 3：平年値とは、1991 年から 2020 年までの 30 年を平均した値。
注 4：台風の発生数・接近数の年や月の統計期間は日本標準時を基準にしている。
注 5：この表は、気象庁大気海洋部気象リスク対策課アジア太平洋気象防災センターの事後解析で確定した台風資料により作成。
出典：台風の那覇への接近数（1951 年～2023 年）（気象庁沖縄気象台 HP）

(2) 大気質

1) 特定施設の届出状況

(a) 大気汚染防止法に基づくばい煙・粉じん発生施設の届出状況

浦添市、宜野湾市及び那覇市の大気汚染防止法（昭和 43 年 6 月 10 日 法律第 97 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日）に基づくばい煙・粉じん発生施設の届出状況は、表 3.1.1-3 に示すとおりである。

ばい煙発生施設はボイラー施設が多く、粉じん発生施設は堆積場が多い。

表 3.1.1-3　大気汚染防止法に基づくばい煙・粉じん発生施設の届出状況

（令和 5 年 3 月末現在）

項目			浦添市		宜野湾市		那覇市	
			事業所	施設	事業所	施設	事業所	施設
ばい煙発生施設	大気汚染防止法	ボイラー	22	55	12	25	45	91
		溶解炉	－	－	－	－	－	－
		金属加熱炉	1	2	－	－	－	－
		石油加熱炉	－	－	－	－	－	－
		燃焼炉	－	－	－	－	－	－
		焼成炉	－	－	－	－	－	－
		直火炉	－	－	－	－	－	－
		乾燥炉	1	1	－	－	－	－
		電気炉	－	－	－	－	－	－
		廃棄物焼却炉	2	5	－	－	－	－
		塩素反応炉	－	－	－	－	－	－
		ディーゼル機関	－	－	－	－	－	－
		施設種類不明	5	5	－	－	－	－
	電気ガス事業法	電気工作物	31	55	15	29	91	104
		ガス工作物	－	－	－	－	－	－
	合計		62	123	27	54	136	195
粉じん発生施設	大気汚染防止法	堆積場	2	2	1	1	3	5
		ベルトコンベア バケットコンベア	1	5	－	－	1	1
		破砕機・摩砕機	1	1	－	－	－	－
		ふるい	－	－	－		－	－
	合計		4	8	1	1	4	6

備考：環境関連施設（大気汚染防止法に規定するばい煙発生施設）が「電気工作物」、「ガス工作物」である場合には、大気汚染防止法の手続きに変わり、「電気事業法」、「ガス事業法」に基づく手続きが必要となる。

出典：令和 5 年度版 環境白書（令和 6 年 3 月　沖縄県）

(b) 沖縄県生活環境保全条例に基づくばい煙・粉じん発生施設の届出状況

沖縄県生活環境保全条例（平成 20 年 12 月 26 日 沖縄県条例第 43 号<最終改正>令和 4 年 3 月 31 日）に基づくばい煙・粉じん発生施設の届出状況は、表 3.1.1-4 に示すとおりである。

ばい煙発生施設はボイラー施設が多く、粉じん発生施設は堆積場のみである。

表 3.1.1-4 沖縄県生活環境保全条例に基づくばい煙・粉じん発生施設の届出状況

（令和 5 年 3 月末現在）

項目		浦添市		宜野湾市		那覇市	
		事業所	施設	事業所	施設	事業所	施設
ばい煙発生施設	ボイラー	6	11	3	4	64	89
	溶解炉	－	－	－	－	1	2
	焼成炉及び溶解炉	－	－	－	－	－	－
	反応炉及び直火炉	－	－	－	－	－	－
	廃棄物焼却炉	－	－	1	1	2	2
	合計	6	11	4	5	67	93
粉じん発生施設	堆積場	2	2	1	2	5	5
	ベルトコンベア・バケットコンベア（鉱物、土石、セメント）	該当なし					
	ベルトコンベア・バケットコンベア（おがくず、木材チップ）						
	破砕機・摩砕機（鉱物、岩石、セメントの用に供するもの）						
	破砕機・摩砕機（木材、コンクリートの用に供するもの）						
	ふるい（鉱物、岩石、セメントの用に供するもの）						
	ふるい（木材、コンクリートの用に供するもの）						
	粉砕施設・ふるい（飼料、有機質肥料の製造の用に供するもの）						
	合計	2	2	1	2	5	5

出典：令和 5 年度版 環境白書（令和 6 年 3 月　沖縄県）

2) 大気汚染常時監視測定局の設置状況

対象地域及びその周辺の大気汚染常時監視測定局は図 3.1.1-3 に示すとおりであり、一般環境大気測定局として那覇局の 1 か所、自動車排出ガス測定局として牧港局と松尾局の 2 か所が設置されている。

また、ダイオキシン類については、ダイオキシン類常時監視地点として那覇市役所で測定が行われており、有害大気汚染物質については、国際通り及び那覇市保健所で測定が行われている。

各測定局の測定状況は、表 3.1.1-5 に示すとおりである。

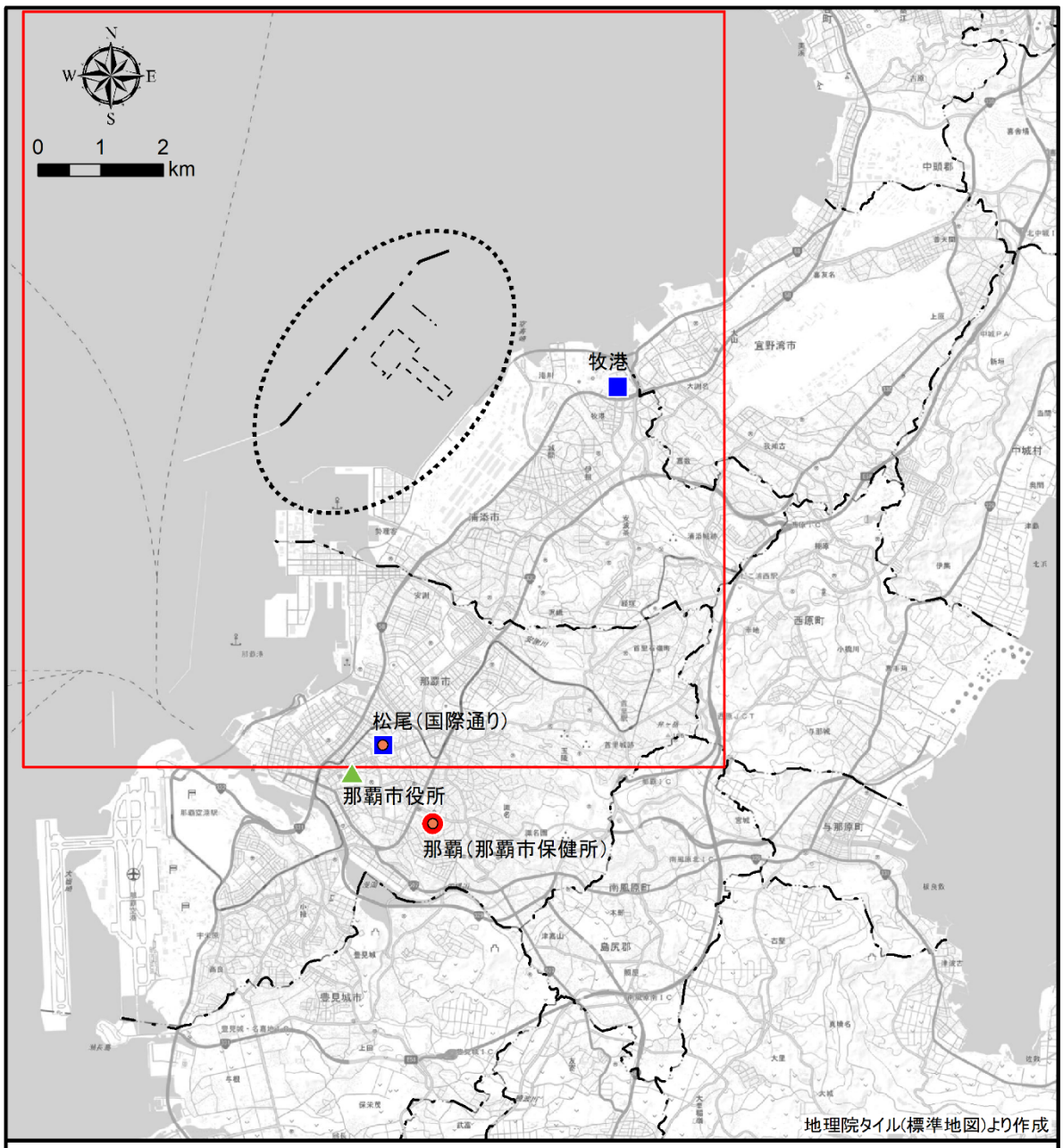
表 3.1.1-5　大気汚染常時監視測定局の測定項目（令和 4 年度末現在）

測定局名称		所在地		測定項目							
		市町村	設置場所	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	光化学オキシダント	微小粒子状物質	ダイオキシン類	有害大気汚染物質
一般環境大気測定局	那覇	那覇市	那覇市保健所	○	○	○		○	○		
自動車排出ガス測定局	牧港	浦添市	（株）琉薬		○	○					
	松尾	那覇市	琉球銀行松尾支店		○		○				
ダイオキシン類常時監視地点		那覇市	那覇市役所							○	
有害大気汚染物質測定地点		那覇市	那覇市保健所								○
			国際通り								○

注 1：対象地域内には一般環境大気測定局とダイオキシン類常時監視地点がなく、対象地域外となるが那覇市内に存在する測定局を示す。

注 2：ダイオキシン類の測定については、令和 3 年度までは那覇局と同じ那覇市保健所で行われていたが、令和 4 年度より那覇市役所で行われている。

出典：令和 5 年度版 環境白書（令和 6 年 3 月　沖縄県）



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 対象地域
- 一般環境大気測定局
- 自動車排出ガス測定局
- ダイオキシン類常時監視地点
- 有害大気汚染物質測定地点
  ※測定地点名は( )書きで記載。

備考：対象地域内には一般環境大気測定局とダイオキシン類常時監視地点がなく、那覇市内に存在する測定局のデータを使用しているため、広域の図面を使用。

出典：令和５年度版 環境白書（令和６年３月　沖縄県）

図 3.1.1-3 大気汚染常時監視測定局位置図

3) 大気質の状況

(a) 二酸化硫黄（SO_2）

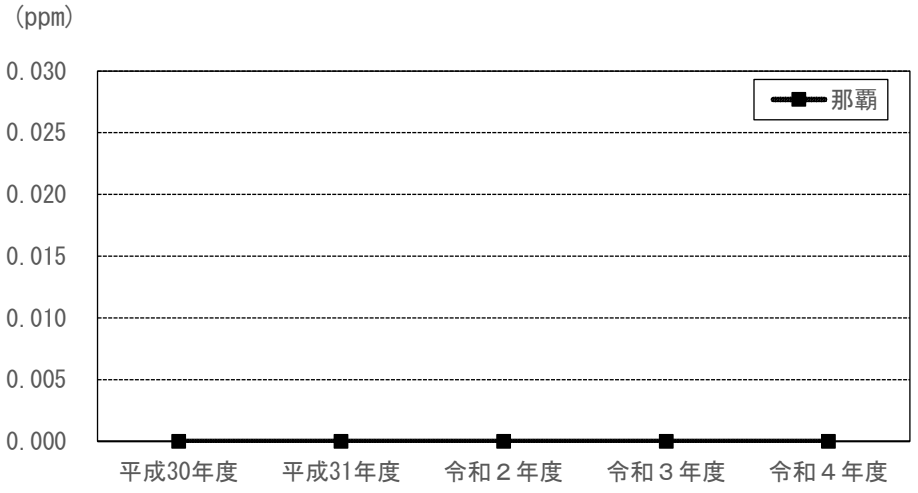
過去5年間における二酸化硫黄の測定結果は表 3.1.1-6 に、年平均値の経年変化は図 3.1.1-4 に示すとおりである。

那覇局における日平均値の2%除外値は、長期的評価による環境基準を満足している。

表 3.1.1-6　二酸化硫黄の測定結果（平成30年度～令和4年度）

測定局	年度	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数		日平均値が0.04ppmを超えた日数、その割合及び2日以上連続したことの有無			日平均値の2%除外値	長期的評価による環境基準の適否
		(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(有・無)	(ppm)	(○・×)
那覇（一般局）	平成30年度	8,423	0.000	0.014	0	0	0	0	無	0.002	○
	平成31年度	8,598	0.000	0.010	0	0	0	0	無	0.002	○
	令和2年度	8,330	0.000	0.016	0	0	0	0	無	0.001	○
	令和3年度	8,337	0.000	0.007	0	0	0	0	無	0.001	○
	令和4年度	8,597	0.000	0.007	0	0	0	0	無	0.002	○

注：長期的評価による環境基準の適否の○は、環境基準（0.04ppm以下であること）を満足していることを示す。
出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月　沖縄県）



出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月　沖縄県）

図 3.1.1-4　二酸化硫黄（年平均値）の経年変化

(b) 二酸化窒素（NO_2）

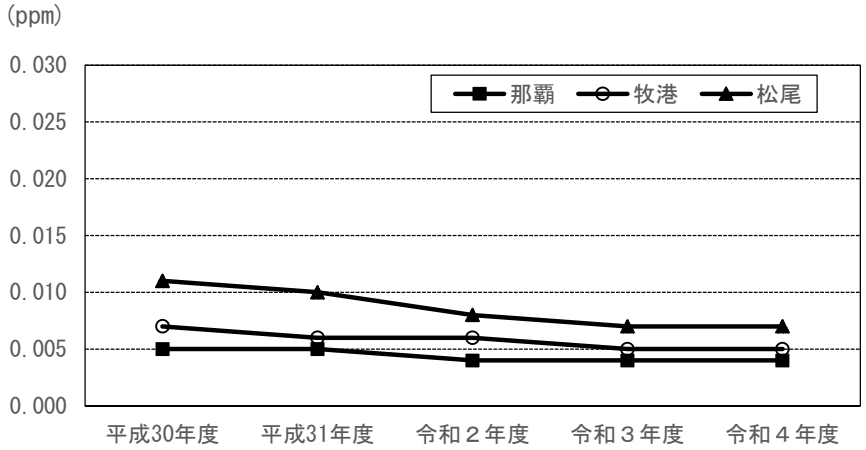
過去５年間における二酸化窒素の測定結果は表 3.1.1-7 に、年平均値の経年変化は図 3.1.1-5 に示すとおりである。

各局における日平均値の年間 98%値は、長期的評価による環境基準を満足している。

表 3.1.1-7　二酸化窒素の測定結果（平成 30 年度～令和４年度）

測定局	年度	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上、0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	長期的評価による環境基準の適否
		(時間)	(ppm)	(ppm)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(○・×)
那覇(一般局)	平成30年度	8,410	0.005	0.050	0	0	0	0	0.012	○
	平成31年度	8,547	0.005	0.047	0	0	0	0	0.010	○
	令和２年度	8,294	0.004	0.037	0	0	0	0	0.009	○
	令和３年度	8,550	0.004	0.040	0	0	0	0	0.008	○
	令和４年度	8,571	0.004	0.036	0	0	0	0	0.008	○
牧港(自排局)	平成30年度	8,391	0.007	0.056	0	0	0	0	0.015	○
	平成31年度	8,596	0.006	0.052	0	0	0	0	0.015	○
	令和２年度	8,517	0.006	0.048	0	0	0	0	0.013	○
	令和３年度	8,510	0.005	0.048	0	0	0	0	0.013	○
	令和４年度	8,572	0.005	0.047	0	0	0	0	0.011	○
松尾(自排局)	平成30年度	2,434	(0.011)	(0.051)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0.026)	－
	平成31年度	6,792	0.010	0.055	0	0	0	0	0.020	○
	令和２年度	8,466	0.008	0.043	0	0	0	0	0.015	○
	令和３年度	8,441	0.007	0.046	0	0	0	0	0.016	○
	令和４年度	8,314	0.007	0.044	0	0	0	0	0.015	○

注１：長期的評価による環境基準の適否の○は、環境基準（0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること）を満足していることを示す。
注２：測定時間が 6,000 時間未満の測定局の値は（）で示し、参考値とする。
出典：令和元年度版 環境白書～令和５年度版 環境白書（令和２年３月～令和６年３月　沖縄県）



出典：令和元年度版 環境白書～令和５年度版 環境白書（令和２年３月～令和６年３月　沖縄県）

図 3.1.1-5　二酸化窒素（年平均値）の経年変化

(c) 浮遊粒子状物質（SPM）

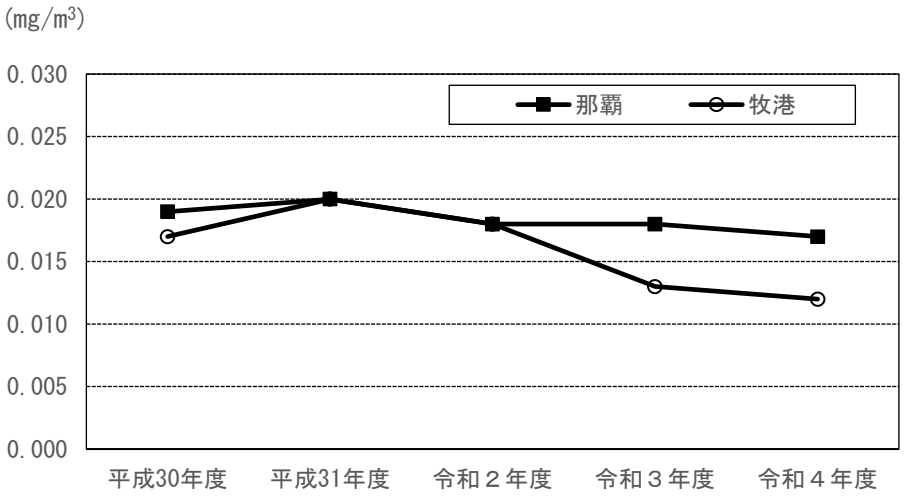
過去5年間における浮遊粒子状物質の測定結果は表 3.1.1-8に、年平均値の経年変化は図 3.1.1-6に示すとおりである。

各局における日平均値の2%除外値は、長期的評価による環境基準を満足している。

表 3.1.1-8　浮遊粒子状物質の測定結果（平成30年度～令和4年度）

測定局	年度	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.20mg/m³を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m³を超えた日数、その割合及び2日以上連続したことの有無			日平均値の2%除外値	長期的評価による環境基準の適否
		(時間)	(mg/m³)	(mg/m³)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(有・無)	(mg/m³)	(○・×)
那覇(一般局)	平成30年度	8,429	0.019	0.122	0	0	0	0	無	0.045	○
	平成31年度	8,564	0.020	0.094	0	0	0	0	無	0.044	○
	令和2年度	8,311	0.018	0.182	0	0	1	0.3	無	0.037	○
	令和3年度	8,567	0.018	0.140	0	0	0	0	無	0.043	○
	令和4年度	8,597	0.017	0.098	0	0	0	0	無	0.034	○
牧港(自排局)	平成30年度	7,638	0.017	0.095	0	0	0	0	無	0.032	○
	平成31年度	8,462	0.020	0.114	0	0	0	0	無	0.038	○
	令和2年度	2,735	(0.018)	(0.072)	(0)	(0)	(0)	(0)	(無)	(0.032)	－
	令和3年度	8,529	0.013	0.113	0	0	0	0	(無)	0.024	○
	令和4年度	8,579	0.012	0.063	0	0	0	0	(無)	0.025	○

注1：長期的評価による環境基準の適否の○は、環境基準（0.10mg/m³以下であること）を満足していることを示す。
注2：測定時間が6,000時間未満の測定局の値は（）で示し、参考値とする。
出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月　沖縄県）



出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月　沖縄県）

図 3.1.1-6　浮遊粒子状物質（年平均値）の経年変化

(d) 一酸化炭素（CO）

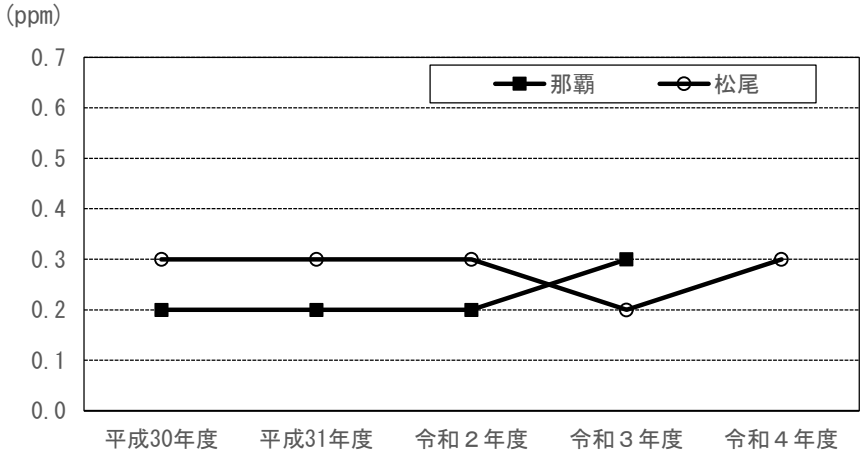
過去5年間における一酸化炭素の測定結果は表 3.1.1-9に、年平均値の経年変化は図 3.1.1-7に示すとおりである。

各局における日平均値の2%除外値は、長期的評価による環境基準を満足している。

表 3.1.1-9 一酸化炭素の測定結果（平成30年度～令和4年度）

測定局	年度	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値の8時間平均値が20ppmを超えた回数とその割合		日平均値が10ppmを超えた日数、その割合及び2日以上連続したことの有無			日平均値の2%除外値	長期的評価による環境基準の適否
		(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(有・無)	(ppm)	(○・×)
那覇(一般局)	平成30年度	8,441	0.2	1.5	0	0	0	0	無	0.4	○
	平成31年度	8,545	0.2	1.6	0	0	0	0	無	0.4	○
	令和2年度	8,511	0.2	1.1	0	0	0	0	無	0.3	○
	令和3年度	109	(0.3)	(0.5)	(0)	(0)	(0)	(0)	(無)	(0.4)	-
	令和4年度	測定実施無し									
松尾(自排局)	平成30年度	8,090	0.3	1.7	0	0	0	0	無	0.6	○
	平成31年度	6,453	0.3	3.7	0	0	0	0	無	0.6	○
	令和2年度	6,401	0.3	1.3	0	0	0	0	無	0.5	○
	令和3年度	8,318	0.2	1.0	0	0	0	0	無	0.4	○
	令和4年度	8,579	0.3	1.0	0	0	0	0	無	0.4	○

注1：長期的評価による環境基準の適否の○は、環境基準（10ppm以下であること）を満足していることを示す。
注2：測定時間が6,000時間未満の測定局の値は（）で示し、参考値とする。
注3：一酸化炭素の測定は、令和4年は松尾局のみで測定している。
出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月 沖縄県）



出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月 沖縄県）

図 3.1.1-7 一酸化炭素（年平均値）の経年変化

(e) 光化学オキシダント（OX）

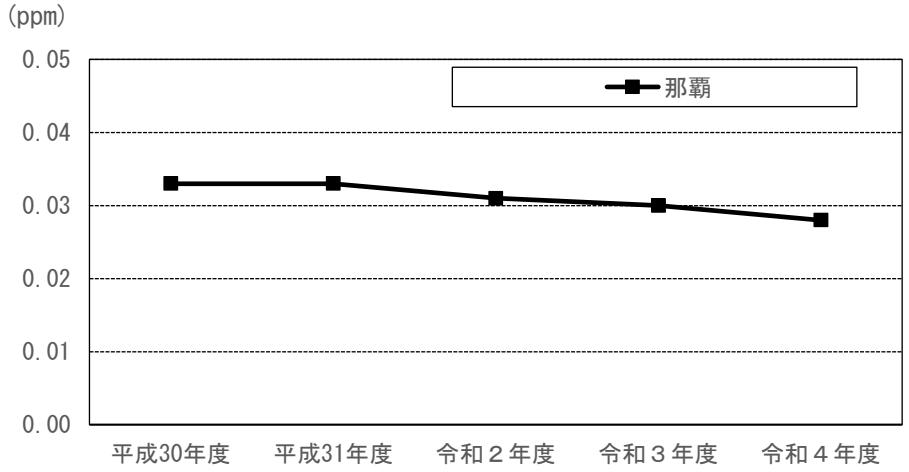
過去5年間における光化学オキシダントの測定結果は表 3.1.1-10に、年平均値の経年変化は図 3.1.1-8に示すとおりである。

那覇局における昼間の1時間値は環境基準を超過した日があり、令和4年度の超過日数は7日、超過時間は27時間となっている。

表 3.1.1-10　光化学オキシダントの測定結果（平成30年度～令和4年度）

測定局	年度	昼間の測定日数と時間		昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値の最高値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間		昼間の1時間値が0.12ppmを超えた日数と時間		環境基準の適否
		(日数)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(日数)	(時間)	(日数)	(時間)	(○・×)
那覇（一般局）	平成30年度	358	5,277	0.033	0.095	26	136	0	0	×
	平成31年度	365	5,439	0.033	0.081	30	186	0	0	×
	令和2年度	332	4,898	0.031	0.078	23	142	0	0	×
	令和3年度	342	5,045	0.030	0.065	3	19	0	0	×
	令和4年度	346	5,138	0.028	0.074	7	27	0	0	×

注1：昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。
注2：環境基準の適否の○は、環境基準（1時間値が0.06ppm以下であること）を満足していることを示す。
注3：光化学オキシダントの1時間値が0.12ppm以上で、気象条件からみてその状態が継続すると認められる場合には、大気汚染防止法により都道府県知事等が注意報を発令する。
出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月　沖縄県）



出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月　沖縄県）

図 3.1.1-8　光化学オキシダント（年平均値）の経年変化

(f) 微小粒子状物質（PM2.5）

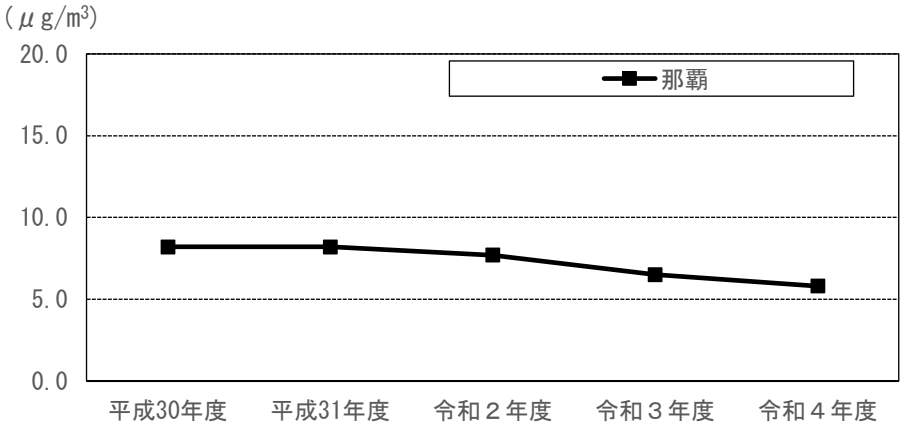
過去5年間における微小粒子状物質の測定結果は表 3.1.1-11 に、年平均値の経年変化は図 3.1.1-9 に示すとおりである。

那覇局における日平均値の年間98%値は、環境基準を満足している。

表 3.1.1-11　微小粒子状物質の測定結果（平成30年度～令和4年度）

測定局	年度	年平均値 (μg/m³)	日平均値の年間98%値 (μg/m³)	環境基準の適否 (○・×)
那覇 (一般局)	平成30年度	8.2	20.4	○
	平成31年度	8.2	17.5	○
	令和2年度	7.7	19.1	○
	令和3年度	6.5	13.4	○
	令和4年度	5.8	15.5	○

注：環境基準の適否の○は、環境基準（1年平均値 15μg/m³以下であり、かつ1日平均値 35μg/m³以下であること）を満足していることを示す。
出典：令和5年度版 環境白書（令和6年3月　沖縄県）



出典：令和5年度版 環境白書（令和6年3月　沖縄県）

図 3.1.1-9　微小粒子状物質（年平均値）の経年変化

(g) ダイオキシン類

過去5年間におけるダイオキシン類の測定結果は、表 3.1.1-12 に示すとおりである。

常時監視測定地点におけるダイオキシン類の測定結果は、環境基準を満足している。

表 3.1.1-12　ダイオキシン類（大気）の測定結果（平成30年度～令和4年度）

測定場所	年度	検体数	平均値	濃度範囲 (pg-TEQ/m³)		環境基準の適否
			(pg-TEQ/m³)	最小	最大	(○・×)
那覇市保健所	平成30年度	4	0.0073	0.0051	0.0110	○
	平成31年度	4	0.0035	0.0020	0.0045	○
	令和2年度	4	0.0091	0.0040	0.0160	○
	令和3年度	4	0.0056	0.0040	0.0079	○
那覇市役所	令和4年度	4	0.0050	0.0035	0.0061	○

注1：環境基準の適否の○は、環境基準（年間平均値 0.6pg-TEQ/m³以下であること）を満足していることを示す。
注2：那覇市保健所は那覇局と同一地点である。令和4年度からは、那覇市役所で実施されている。
出典：令和元年度版 環境白書～令和5年度版 環境白書（令和2年3月～令和6年3月　沖縄県）

(h) 有害大気汚染物質

令和4年度に行われた有害大気汚染物質の測定結果は、表 3.1.1-13 に示すとおりであり、大気の汚染に係る環境基準が定められているベンゼン等 4 物質の測定結果については全ての地点で有害大気汚染物質に係る環境基準を満足している。また、指示値が定められているアクリロニトリル等11物質は、全ての地点で指示値に適合しており、ホルムアルデヒド等6物質の測定結果は、全国平均値以下の数値となっている。

表 3.1.1-13　有害大気汚染物質の測定結果（令和4年度）

測定項目(単位)	那覇市保健所	満足の有無	国際通り	満足の有無	全国平均値 (R3)	環境基準値 (指示値)
ベンゼン　(μg/m³)	0.39	○	0.36	○	0.70	3
トリクロロエチレン　(μg/m³)	0.020	○	-	○	1.100	130
テトラクロロエチレン　(μg/m³)	0.020	○	-	○	0.090	200
ジクロロメタン　(μg/m³)	0.73	○	-	○	1.50	150
アクリロニトリル　(μg/m³)	0.0270	○	-	○	0.061	2
塩化ビニルモノマー　(μg/m³)	0.0160	○	-	○	0.041	10
水銀及びその化合物　(μg/m³)	0.0010	○	-	○	0.0017	0.04
ニッケル化合物　(μg/m³)	0.00062	○	-	○	0.0025	0.025
クロロホルム　(μg/m³)	0.140	○	-	○	0.250	18
1,2－ジクロロエタン　(μg/m³)	0.300	○	-	○	0.14	1.6
1,3－ブタジエン　(μg/m³)	0.021	○	0.029	○	0.075	2.5
ヒ素及びその化合物　(μg/m³)	0.00019	○	-	○	0.00110	0.006
マンガン及びその化合物　(μg/m³)	0.0016	○	-	○	0.020	0.14
アセトアルデヒド　(μg/m³)	1.5	○	1.6	○	2.1	120
塩化メチル　(μg/m³)	1.3	○	-	○	1.4	94
ホルムアルデヒド　(μg/m³)	2.10	○	2.00	○	2.5	-
酸化エチレン　(μg/m³)	0.020	○	-	○	0.066	-
トルエン　(μg/m³)	1.5	○	1.7	○	6.2	-
ベリリウム及びその化合物　(ng/m³)	0.006	○	-	○	0.015	-
クロム及びその化合物　(ng/m³)	0.41	○	-	○	4.3	-
ベンゾ[a]ピレン　(ng/m³)	0.0065	○	0.0065	○	0.15	-

出典：令和5年度版 環境白書（令和6年3月　沖縄県）

(3) 騒音

1) 特定施設及び特定建設作業の届出状況

浦添市、宜野湾市及び那覇市では、環境基本法（平成 5 年 11 月 19 日 法律第 91 号〈最終改正〉令和 3 年 9 月 1 日）に基づき騒音に係る環境基準の類型を当てはめる地域を指定している。また、騒音規制法（昭和 43 年 6 月 10 日 法律第 98 号〈最終改正〉令和 4 年 6 月 17 日）に基づき特定施設及び特定建設作業に伴って発生する騒音について、規制地域及び規制基準を定めている。

対象地域の一部は、環境基本法に基づく騒音に係る環境基準の類型に当てはまる地域であり、騒音規制法に基づく規制地域に指定されている（詳細については、図 3.2.9-2、図 3.2.9-3 参照）。

騒音規制法に基づく届出件数は、表 3.1.1-14 に示すとおりである。特定施設については、金属加工機械、空気圧縮機等に係る届出が多く、特定建設作業については、さく岩機を使用する作業に係る届出が多い。

表 3.1.1-14 騒音規制法に基づく届出件数

（令和 4 年度末現在）

種類		浦添市	宜野湾市	那覇市
特定施設	金属加工機械	118	14	34
	空気圧縮機等	540	354	669
	土石用破砕機等	2	－	－
	織機	－	－	－
	建設用資材製造機械	12	2	2
	穀物用製粉機	3	18	－
	木材加工機械	38	－	4
	抄紙機	－	2	－
	印刷機	26	12	－
	合成樹脂用射出成型機	9	－	－
	鋳型製造型機	－	－	－
	合計	748	402	709
特定工場等		187	91	95
特定建設作業	くい打機等を使用する作業	1	7	28
	びょう打機等を使用する作業	－	－	1
	さく岩機を使用する作業	24	7	137
	空気圧縮機を使用する作業	4	2	19
	コンクリートプラントを設けて行う作業	－	－	－
	バックホウを使用する作業	7	21	19
	トラクターショベルを使用する作業	1	－	-
	ブルドーザーを使用する作業	－	－	1
	合計	37	37	205

出典：令和 5 年度版 環境白書（令和 6 年 3 月 沖縄県）

2) 騒音の状況

浦添市、宜野湾市及び那覇市では、騒音規制法第 18 条に基づいて平成 24 年度から自動車交通騒音の常時監視を行っている。

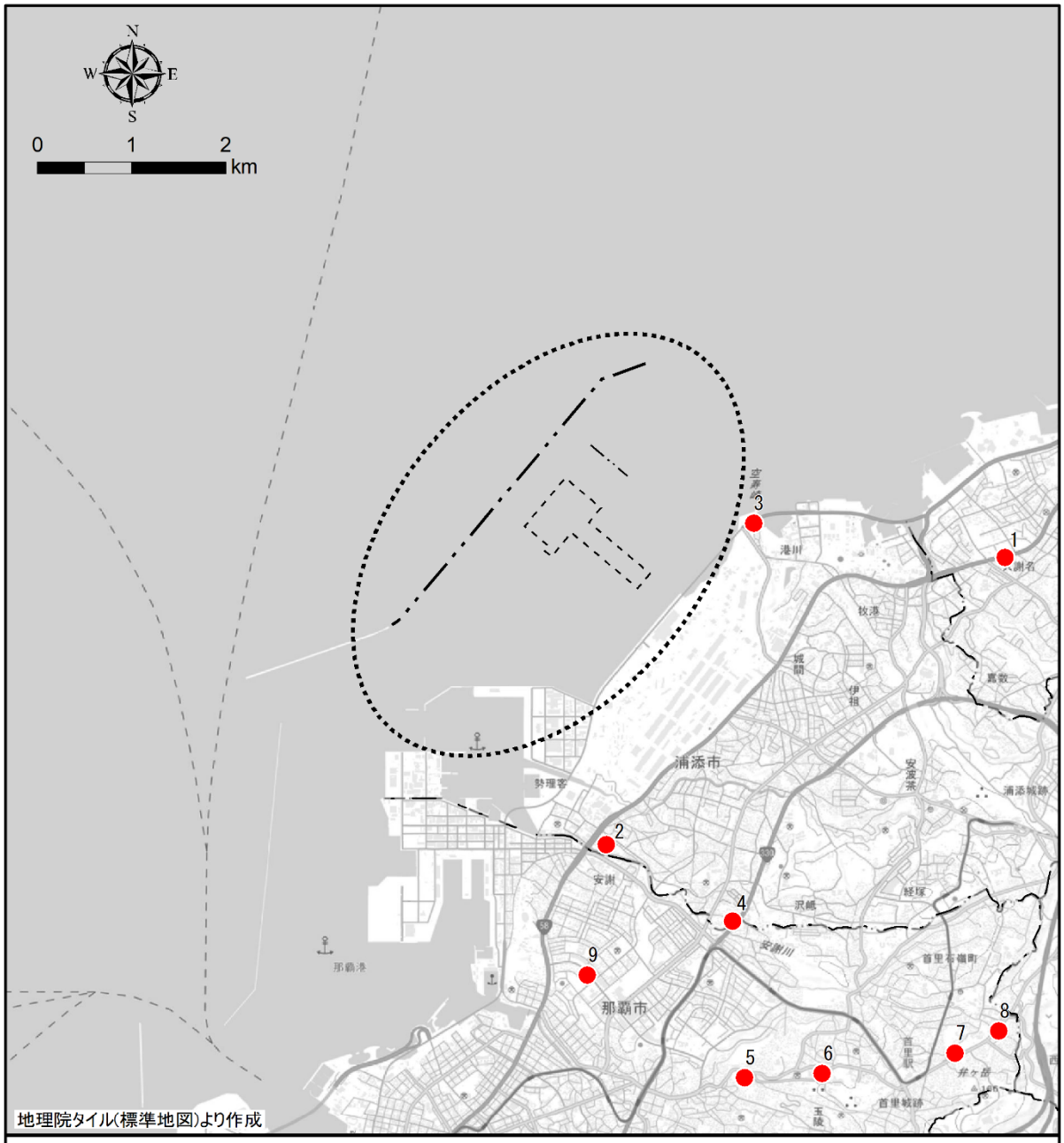
対象地域における自動車交通騒音の測定結果は、表 3.1.1-15 に示すとおりであり、全地点とも道路交通騒音の要請限度を満足している。自動車交通騒音測定地点の位置を図 3.1.1-10 に示す。

なお、対象地域において環境騒音に係る定期測定は行われていない。

表 3.1.1-15　自動車交通騒音測定結果（令和 4 年度）

番号	測定地点	類型	測定日	道路名	車線数	測定値 (dB)		要請限度値 (dB)		達成状況	
						昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
1	宜野湾市字大謝名	C	R4.12.19～R4.12.20	一般国道 58 号	6	70	66	75	70	○	○
2	浦添市勢理客 3 丁目 11	C	R5.1.31～R5.2.1	一般国道 58 号	6	65	60	75	70	○	○
3	浦添市字港川	B	R5.2.7～R5.2.8	一般国道 58 号 浦添北道路	2	62	56	75	70	○	○
4	那覇市首里末吉町 3-45-1	B	R4.11.16～R4.11.17	一般国道 330 号	4	69	66	75	70	○	○
5	那覇市松川 40	B	R4.11.8～R4.11.9	那覇北中城線	3	64	60	75	70	○	○
6	那覇市首里真和志町 1-67	C	R4.11.8～R4.11.9	那覇北中城線	3	62	54	75	70	○	○
7	那覇市首里汀良町 3-111-7	B	R4.11.8～R4.11.9	那覇北中城線	2	63	58	75	70	○	○
8	那覇市首里石嶺町 2-160-1	B	R4.11.16～R4.11.17	那覇北中城線	3	64	58	75	70	○	○
9	那覇市上之屋 1-1	C	R4.11.16～R4.11.17	天久安里線	4	64	60	75	70	○	○

注：達成状況の○は、要請限度(昼間 75 dB、夜間 70 dB)を満足していることを示す。
出典：令和 5 年度版 環境白書（令和 6 年 3 月　沖縄県）



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

自動車交通騒音測定地点

出典：令和５年度版 環境白書（令和６年３月　沖縄県）

図 3.1.1-10　自動車交通騒音測定地点位置図

(4) 振動

1) 特定施設及び特定建設作業の届出状況

浦添市、宜野湾市及び那覇市では、振動規制法（昭和 51 年 6 月 10 日 法律第 64 号〈最終改正〉令和 4 年 6 月 17 日）に基づき特定施設及び特定建設作業に伴って発生する振動について、規制地域及び規制基準を定めている。

対象地域の一部は、振動規制法に基づく規制地域に指定されている（詳細については、図 3.2.9-5 参照）。

振動規制法に基づく届出件数は、表 3.1.1-16 に示すとおりである。特定施設については金属加工機械、圧縮機等に係る届出が多く、特定建設作業についてはブレーカーを使用する作業に係る届出が多い。

表 3.1.1-16 振動規制法に基づく届出件数

（令和 4 年度末現在）

種類		浦添市	宜野湾市	那覇市
特定施設	金属加工機械	149	2	－
	圧縮機	302	80	25
	破砕機等	2	－	－
	織機	－	－	－
	コンクリートブロックマシン等	6	－	－
	木材加工機械	1	－	－
	印刷機械	13	－	－
	ゴム練用又は合成樹脂練用ロール機	－	－	－
	合成樹脂用射出成型機	－	－	－
	鋳型造成機	－	－	－
	特定施設総数	473	82	25
特定工場等総数		122	18	11
特定建設作業	くい打機等を使用する作業	2	5	26
	鋼球を使用して破壊する作業	－	－	－
	舗装版破砕機を使用する作業	3	－	－
	ブレーカーを使用する作業	28	18	107
	合計	33	23	133

出典：令和 5 年度版 環境白書（令和 6 年 3 月 沖縄県）

2) 振動の状況

「令和 5 年度版 環境白書」（令和 6 年 3 月 沖縄県）によると、対象地域において振動に係る定期測定は実施されていない。

(5) 悪臭

浦添市、宜野湾市及び那覇市では、悪臭防止法（昭和 46 年 6 月 1 日 法律第 91 号〈最終改正〉令和 4 年 6 月 17 日）に基づき工場その他事業場における事業活動に伴って発生する特定悪臭物質について、規制地域及び規制基準を定めている。

対象地域の一部は、悪臭防止法に基づく規制地域に指定されている（詳細については、図 3.2.9-1 参照）。

令和 4 年度の悪臭に係る苦情件数は、浦添市では 11 件、宜野湾市では 4 件、那覇市では 27 件となっている。

3.1.2 水環境

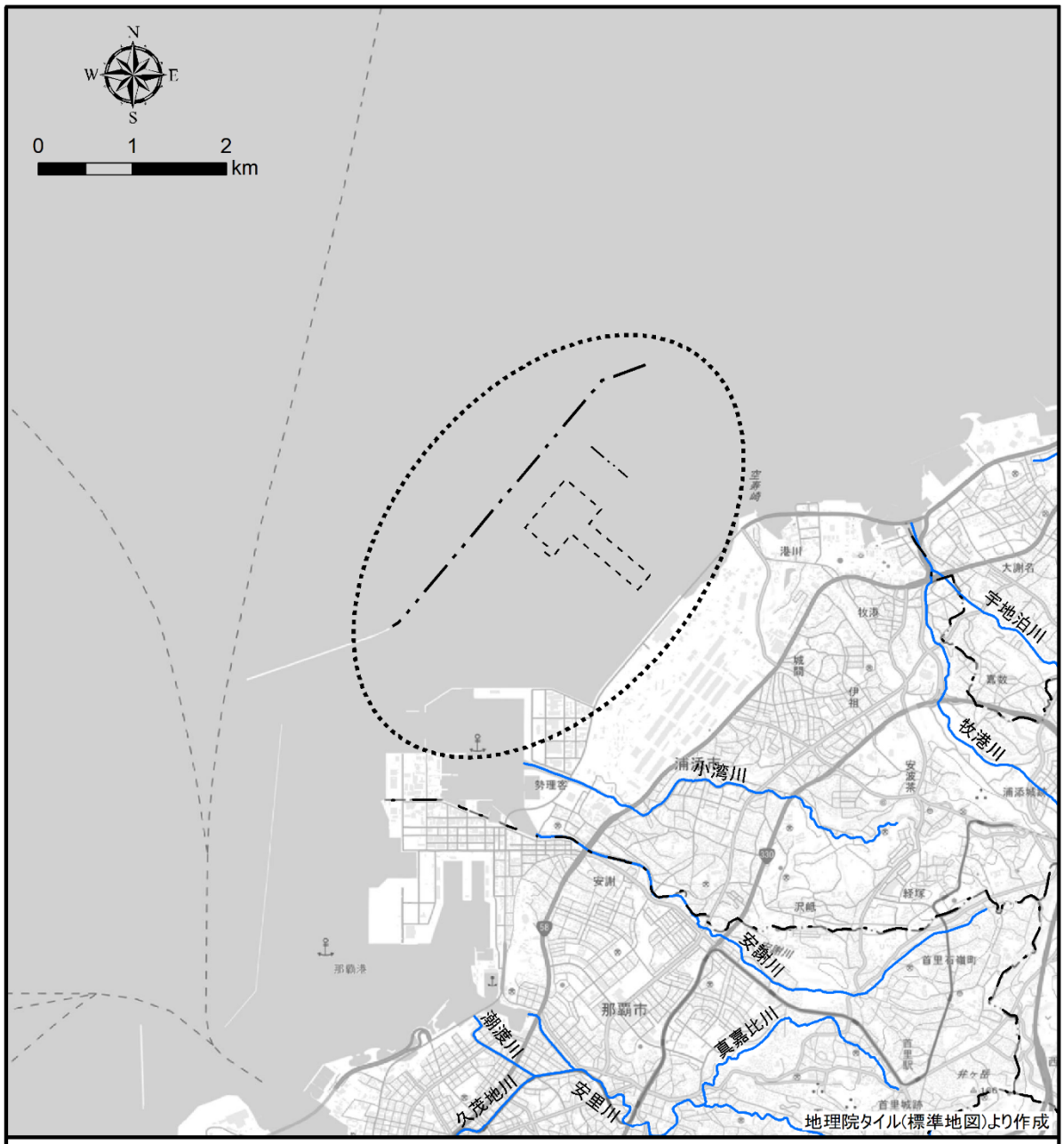
(1) 水象（河川）

対象地域を流れる主要な河川は、表 3.1.2-1 及び図 3.1.2-1 に示すとおりであり、二級河川が 8 河川存在する。

表 3.1.2-1　主要な河川

指定状況	地域	水系名	河川名	指定延長(m)	流域面積(km^2)
二級河川	浦添市	牧港川	牧港川	3,300	15.17
		小湾川	小湾川	4,300	4.83
	宜野湾市	牧港川	宇地泊川	6,000	8.05
	那覇市	安里川	潮渡川	1,000	0.50
			久茂地川	2,000	3.25
			真嘉比川	1,400	2.30
			安里川	7,260	8.57
		安謝川	安謝川	5,200	8.10

出典：令和 5 年度沖縄県水防計画（沖縄県土木建築部海岸防災課 HP）



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

二級河川

出典：国土数値情報ダウンロードサービス（河川）
（2024 年 4 月時点　国土交通省国土政策局国土情報課 HP）
沖縄本島中南部　利水現況図（平成元年 3 月　沖縄県）

図 3.1.2-1　主要な河川位置図

(2) 水象（海域）

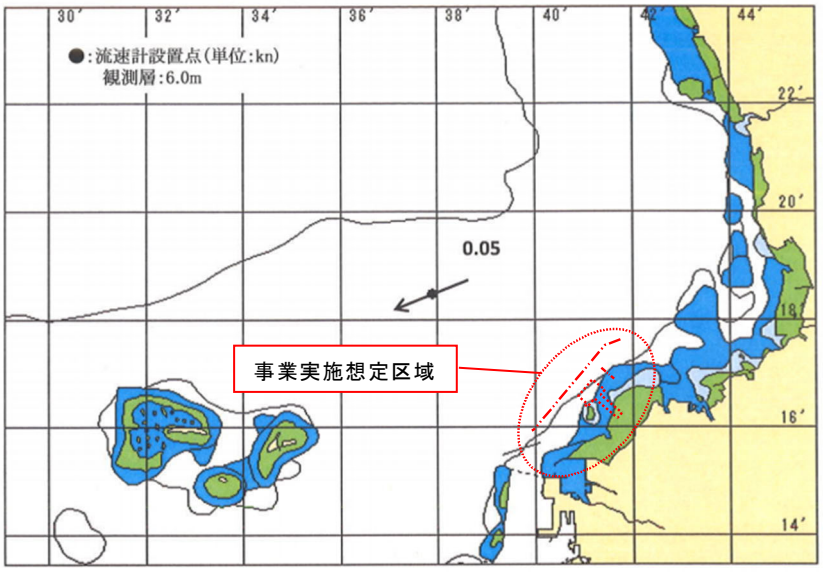
1) 潮流

対象地域周辺における潮流観測地点として、第十一管区海上保安本部により慶伊瀬島付近が設定されている。平均流図は図 3.1.2-2 に、大潮平均流況図は図 3.1.2-3 に示すとおりである。

平成 23 年度の平均流速は地形に沿った 0.05kn（ノット）の西南西流となっている。

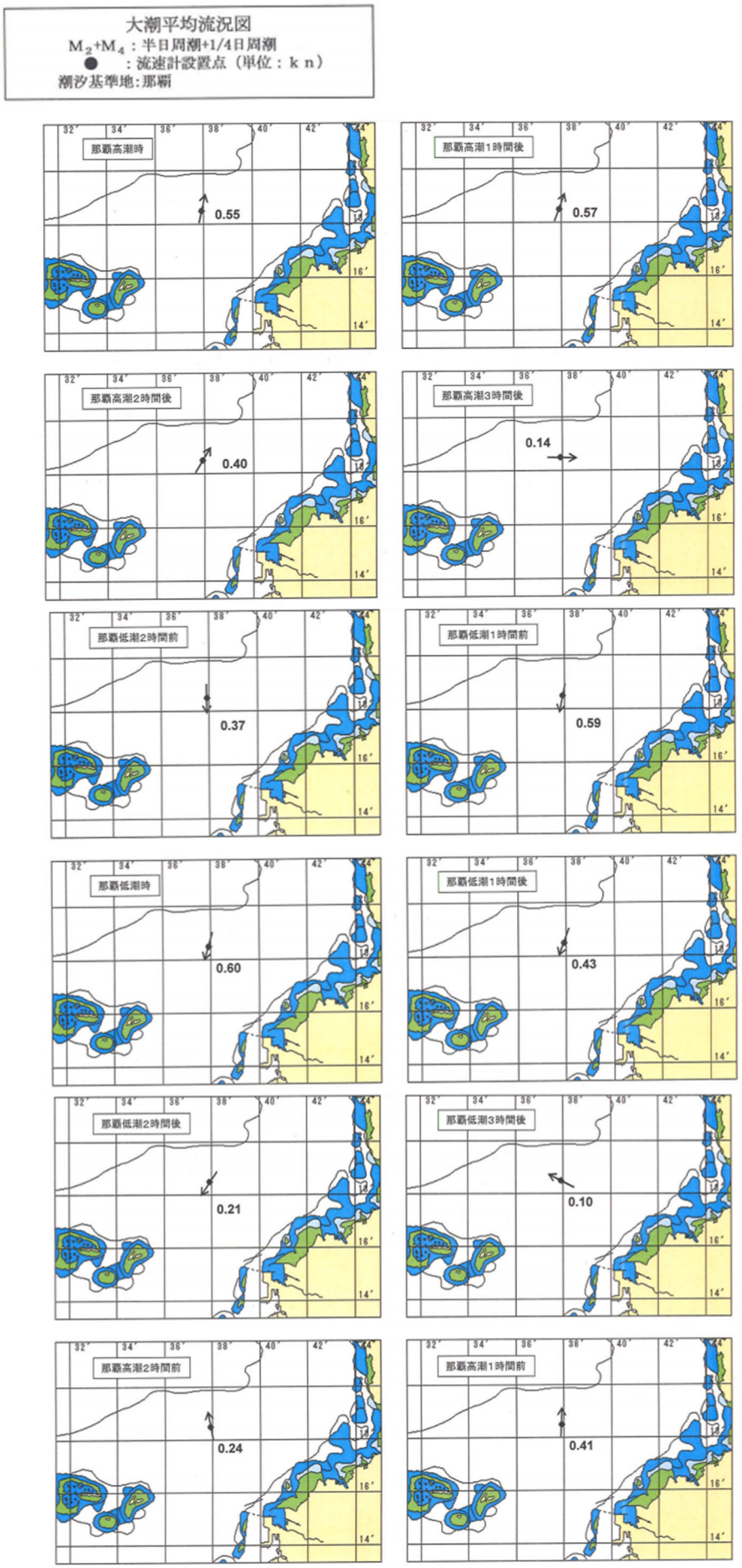
大潮平均流況については、下げ潮時は、高潮後 3 時間を境に北北東方向への流れから南南西方向への流れに転流する結果を示している。下げ潮全般における最大流速は、低潮 1 時間前で流速は 0.59kn（ノット）である。

上げ潮時には、低潮後 3 時間を境に南南西方向への流れから北北東方向への流れに転流する結果を示している。上げ潮全般における最大流速は、低潮 1 時間後で流速は 0.43kn（ノット）である。



注：1kn は、約 0.51m/s を示す。
出典：慶伊瀬島付近潮流観測報告書　南西諸島（平成 23 年　第十一管区海上保安本部）

図 3.1.2-2　平均流図



出典：慶伊瀬島付近潮流観測報告書　南西諸島（平成 23 年　第十一管区海上保安本部）

図 3.1.2-3　大潮平均流況図

2) 波浪

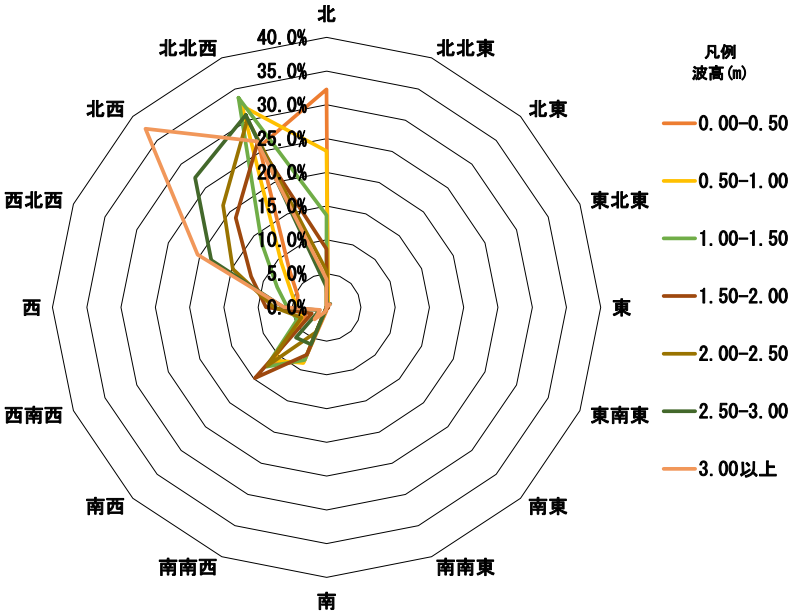
対象地域における波浪観測地点として、国土交通省港湾局により那覇観測地点が設定されている。波浪観測地点は図 3.1.2-6 に示すとおりである。令和 3 年の波高・波向別の波浪出現頻度は表 3.1.2-2 及び図 3.1.2-4 に示すとおりである。

波高は 0.50～1.00m 未満が 28.9%、次いで 1.00～1.50m 未満が 22.9%である。波向は北北西が全体の 30.3%と卓越しており、次いで北西が 16.6%、北が 15.1%の順で多く出現している。

表 3.1.2-2　波高・波向別の波浪出現頻度（令和 3 年確定値）

波高階級 (m)	波高・波向別の波浪出現頻度																
	北	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	合計件数 (%)
0.50 未満	127 (32.3)	2 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.5)	34 (8.7)	47 (12.0)	13 (3.3)	17 (4.3)	18 (4.6)	30 (7.6)	101 (25.7)	393 (9.2)
0.50-1.00	285 (23.2)	7 (0.6)	4 (0.3)	3 (0.2)	2 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	110 (8.9)	136 (11.1)	48 (3.9)	54 (4.4)	68 (5.5)	115 (9.3)	397 (32.3)	1230 (28.9)
1.00-1.50	133 (13.7)	0 (0.0)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	82 (8.4)	121 (12.4)	45 (4.6)	56 (5.8)	76 (7.8)	130 (13.4)	327 (33.6)	973 (22.9)
1.50-2.00	48 (8.7)	1 (0.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (7.6)	82 (14.8)	13 (2.3)	49 (8.8)	66 (11.9)	104 (18.8)	146 (26.4)	554 (13.0)
2.00-2.50	19 (5.4)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (4.0)	43 (12.3)	14 (4.0)	27 (7.7)	52 (14.8)	75 (21.4)	106 (30.2)	351 (8.3)
2.50-3.00	8 (3.0)	1 (0.4)	2 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (5.9)	17 (6.3)	3 (1.1)	17 (6.3)	49 (18.2)	73 (27.1)	83 (30.9)	269 (6.3)
3.00 以上	20 (4.2)	0 (0.0)	3 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.2)	4 (0.8)	12 (2.5)	5 (1.0)	30 (6.2)	98 (20.4)	180 (37.4)	128 (26.6)	481 (11.3)
合計	640 (15.1)	11 (0.3)	12 (0.3)	3 (0.1)	4 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	5 (0.1)	302 (7.1)	458 (10.8)	141 (3.3)	250 (5.9)	427 (10.0)	707 (16.6)	1288 (30.3)	4251 (100.0)

注：本表は、全国港湾海洋波浪情報網（ナウファス）　波浪観測データ（国土交通省港湾局 HP）を基に作成した。



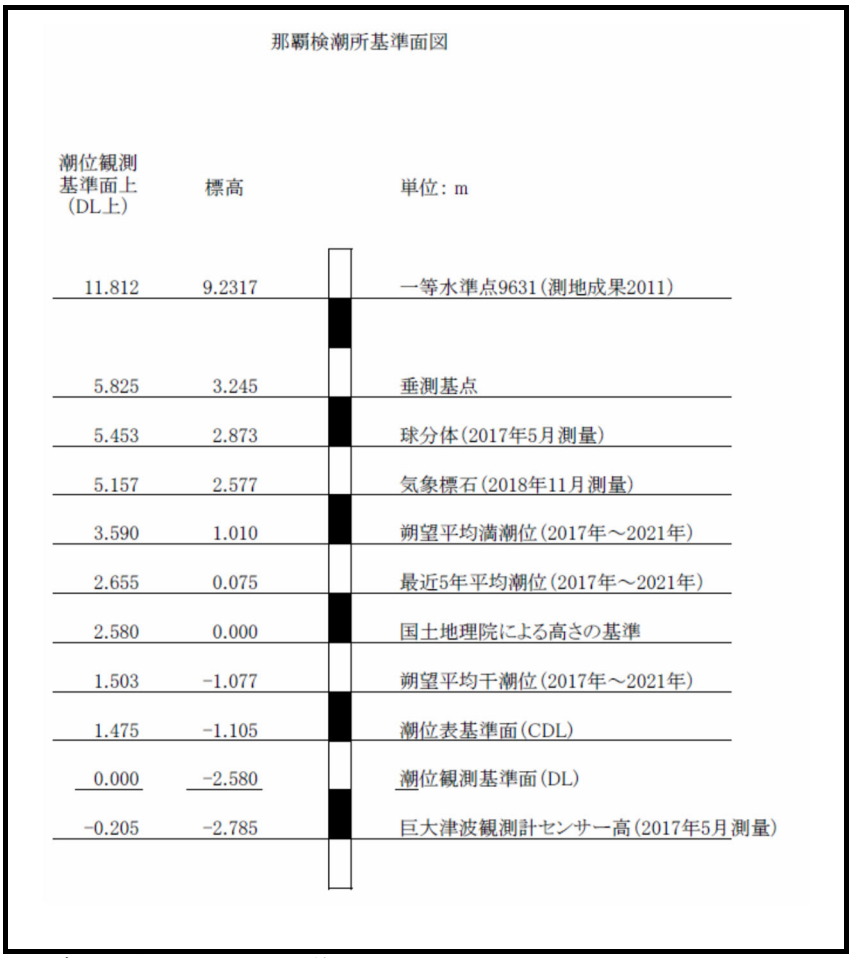
注：本図は、全国港湾海洋波浪情報網（ナウファス）　波浪観測データ（国土交通省港湾局HP）を基に作成した。

図 3.1.2-4　波高・波向別の波浪出現頻度

3) 潮位

対象地域における潮位観測地点として、気象庁により那覇検潮所が設定されている。検潮所基準面図は図 3.1.2-5 に、検潮所の位置は図 3.1.2-6 に示すとおりである。

那覇検潮所における潮位は、朔望平均満潮位が国土地理院による高さの基準から+1.010m、平均潮位が国土地理院による高さの基準から+0.075m、朔望平均干潮位が国土地理院による高さの基準から-1.077m であり、朔望平均干満差（朔望平均満潮位-朔望平均干潮位）は 2.087m となっている。

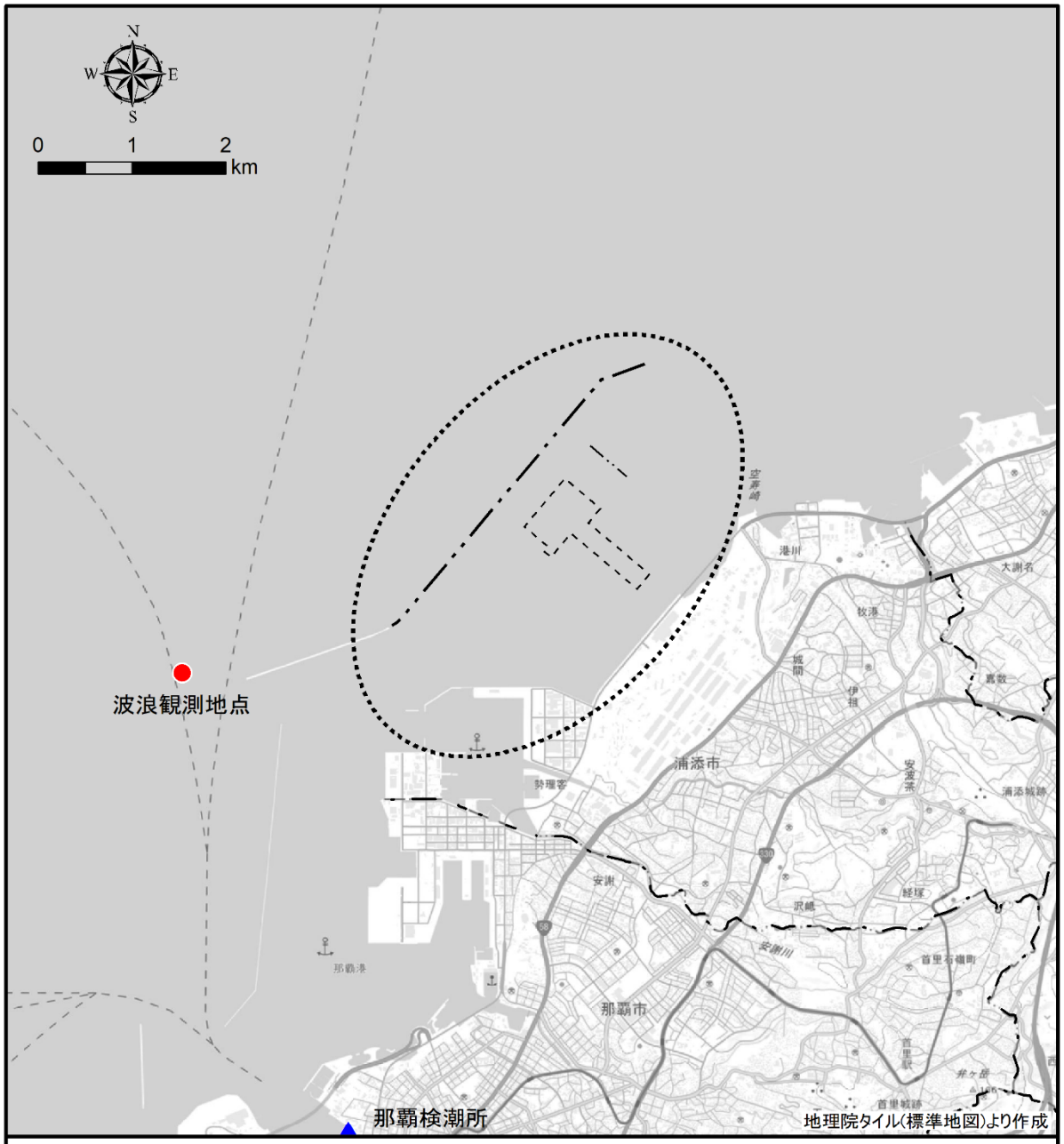


注：令和 5 年 1 月 1 日から使用。
出典：沖縄地方の潮位の基準図面（沖縄気象台 HP）

図 3.1.2-5　那覇検潮所基準面図

4) 水深

対象地域周辺における水深の状況は、図 3.1.2-7 に示すとおりであり、事業実施想定区域は概ね水深 10m 以下から 30m の海域となっている。

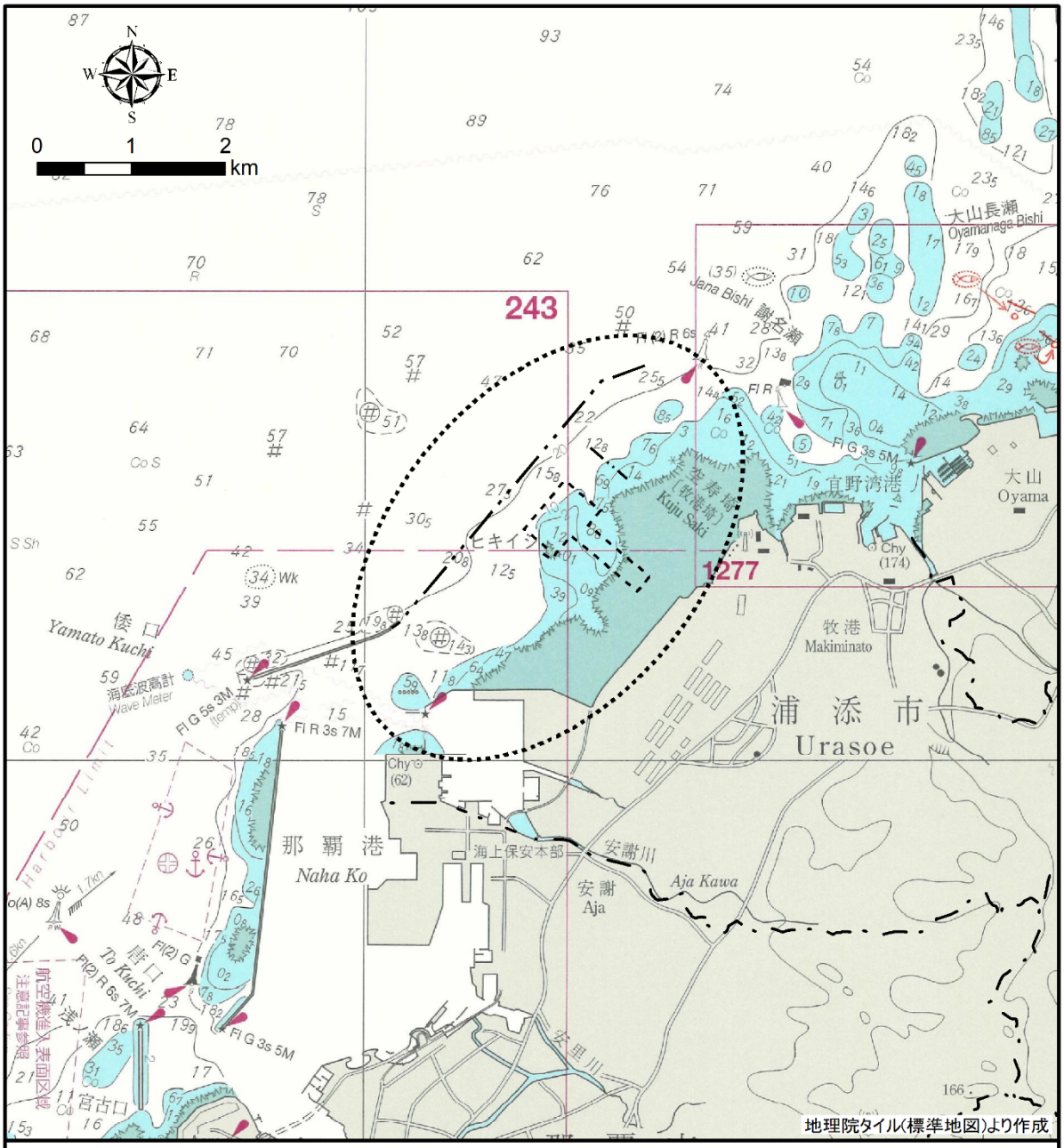


凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 波浪観測地点
- 那覇検潮所

出典：2021 年　全国港湾海洋波浪情報網 波浪観測地点一覧（国土交通省港湾局 HP）
那覇港港湾計画　令和 5 年 3 月　改訂（那覇港管理組合 HP）
海岸昇降検知センター/登録験潮/那覇（海岸昇降検知センターHP）

図 3.1.2-6　波浪観測地点及び潮位観測地点位置図



凡例

注：図中の海域上の数値は水深を示す。（単位：m）

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

出典：海図（沖縄島南部）（平成 23 年 6 月 16 日　海上保安庁）

図 3.1.2-7　水深の状況

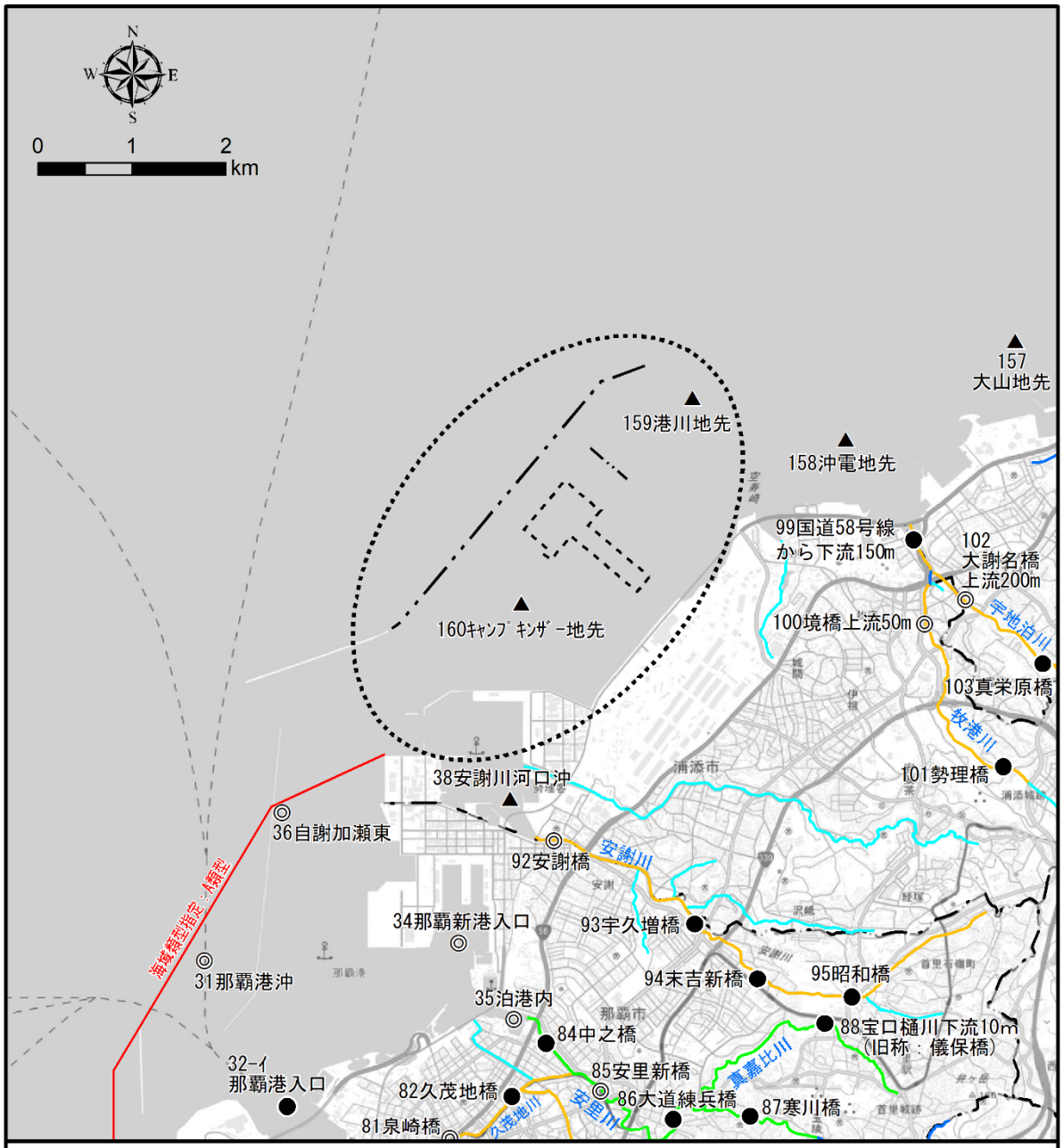
(3) 水質

対象地域における水質測定地点は、表 3.1.2-3 及び図 3.1.2-8 に示すとおりであり、水域として河川 16 地点、海域 10 地点において、環境基本法による環境基準が定められた項目について水質測定が実施されている。

表 3.1.2-3 水質測定地点及び調査項目

区分	河川・海域名	県地点番号	地点名	類型	調査項目	
					生活環境	健康
河川	久茂地川	81	泉崎橋	C	○	○
		82	久茂地橋	(C)	―	
	安里川	84	中之橋	(D)	―	
		85	安里新橋	D	○	○
		86	大道練兵橋	(D)	○	○[2]
		87	寒川橋	(D)	―	
		88	宝口樋川下流 10m(旧称：儀保橋)	(D)	○	
	安謝川	92	安謝橋	C	○	○
		93	宇久増橋	(C)	○	○[2]
		94	末吉新橋	(C)	―	
		95	昭和橋	(C)	―	
	牧港川	99	国道 58 号線から下流 150m	(C)	―	
		100	境橋上流 50m	C	○	○
		101	勢理橋	(C)	○	
		102	大謝名橋上流 200m	C	○	○
		103	真栄原橋	(C)	○	
海域	那覇港湾海域	31	那覇港沖	A	○	
		32-ｲ	那覇港入口	(A)	○	
		34	那覇新港入口	A	○	
		35	泊港内	A	○	
		36	自謝加瀬東	A	○	
		38	安謝川河口沖	-	○	
	伊佐海域	157	大山地先	-	○	
		158	沖電地先	-	○	
		159	港川地先	-	○	
		160	キャンプキンザー地先	-	○	○

注 1：「類型」の欄の“（ ）”が付いていないものは環境基準点、“（ ）”付きは補助測定点、「-」は参考測定点を表す。参考測定点の伊佐海域は類型未指定。
注 2：「調査項目」の欄の“－”が付いている地点は、令和 4 年度に測定されなかったことを表す。
“○[2]”が付いている地点は、健康項目のふっ素、ほう素の 2 項目を実施した地点を表す。
備考：環境基準の類型指定における詳細については、図 3.2.9-6 参照。
出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月 沖縄県環境部環境保全課）



注：図中の番号は、表 3.1.2-3 に対応する。

凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

水質測定点

◎ 環境基準点

● 環境補助点

▲ 参考測定点(類型未指定)

海域類型指定

A類型

河川類型指定

C類型

D類型

類型指定なし

出典：令和４年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）
（令和６年３月　沖縄県環境部環境保全課）

図 3.1.2-8　水質測定地点位置図

1) 生活環境項目

対象地域における生活環境項目の水質測定結果は、表 3.1.2-4 に示すとおりである。

河川については、安里川の大道錬兵橋で水素イオン濃度、久茂地川の泉崎橋及び安謝川の安謝橋、牧港川の勢理橋で溶存酸素量が環境基準を満足していない測定日がある。また、牧港川の勢理橋では、生物化学的酸素要求量を満足していない測定日もみられるが、環境基準達成の判定に係る 75%値は基準値を満足している。

海域については、類型指定されている地点のうち、那覇港海域の全ての地点で溶存酸素量を満足していない（類型指定されていない安謝川河口沖を除く）。また、那覇港海域の那覇港沖以外の地点では、化学的酸素要求量を満足していない測定日がみられるが、那覇港入口以外の地点は、環境基準達成の判定に係る 75%値は基準値を満足している。

表 3.1.2-4(1)　水質測定結果（生活環境項目：河川）

調査項目（生活環境項目）		久茂地川		安里川						安謝川				環境基準値	
		81		85		86		88		92		93			
		泉崎橋		安里新橋		大道練兵橋		宝口樋川下流 10m		安謝橋		宇久増橋			
		環境基準地点		環境基準地点		補助測定地点		補助測定地点		環境基準地点		補助測定地点			
		C 類型		D 類型		D 類型		D 類型		C 類型		C 類型			
		最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	C 類型	D 類型
水素イオン濃度（pH）	-	7.8～8.1	-	8.0～8.2	-	8.8	-	8.0～8.4	-	7.8～8.1	-	8.2	-	6.5 以上 8.5 以下	6.0 以上 8.5 以下
溶存酸素量（DO）	(mg/L)	3.5～5.9	5.2	5.9～8.5	7.4	10.0	10.0	5.0～8.3	6.9	3.7～6.7	4.9	6.7	6.7	5mg/L 以上	2mg/L 以上
生物化学的酸素要求量（BOD）	(mg/L)	<0.5～0.7	(0.6)	<0.5～3.2	(0.9)	0.7	(0.7)	0.9～2.1	(1.6)	<0.5～1.8	(1.5)	<0.5	<0.5	5mg/L 以下	8mg/L 以下
浮遊物質量（SS）	(mg/L)	4～18	10	<1～7	3	1	1	1～2	2	1～29	9	1	1	50mg/L 以下	100mg/L 以下
大腸菌数	(CFU/100ml 以下)	400～15000	(15000)	580～36000	(36000)	580	(580)	12000～50000	(50000)	160～7900	(7900)	980	(980)	－	－

備考：基準値は、日間平均値を示す。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90%水質値のデータ値を示す。全窒素、全燐の基準値は、年間平均値を示す。
注 1：「<」は定量下限値未満を示す。
注 2：「平均」は、日平均値の年間平均値を示す。
注 3：BOD の（　）は、75%水質値を示し、環境基準値との比較に使用する。
注 4：75%水質値とは、日平均値の 75%値のことを示す。
注 5：大腸菌数の（　）は、90%水質値を示す。90%水質値とは、年間の日間平均値の全データを小さいものから順に並べた際の 0.9×n 番目のデータ値を示す。
注 6：網掛けは環境基準を満足していないことを示す。
出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

表 3.1.2-4(2)　水質測定結果（生活環境項目：河川）

調査項目（生活環境項目）		牧港川								環境基準値	
		100		101		102		103			
		境橋上流 50m		勢理橋		大謝名橋上流 200m		真栄原橋			
		環境基準地点		補助測定地点		環境基準地点		補助測定地点			
		C 類型		C 類型		C 類型		C 類型			
		最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	最小値～最大値	C 類型	D 類型
水素イオン濃度（pH）	-	8.0～8.3	-	7.7～8.1	-	7.9～8.4	-	7.8～8.2	-	6.5 以上 8.5 以下	6.0 以上 8.5 以下
溶存酸素量（DO）	(mg/L)	7.4～9.3	8.5	3.5～7.3	5.4	8.4～9.4	9.0	6.5～8.4	7.5	5mg/L 以上	2mg/L 以上
生物化学的酸素要求量（BOD）	(mg/L)	<0.5～2.5	(1.9)	1.4～5.2	(3.9)	0.5～2.5	(2.0)	1.4～4.7	(3.3)	5mg/L 以下	8mg/L 以下
浮遊物質量（SS）	(mg/L)	1～18	5	1～30	8	1～13	6	1～18	5	50mg/L 以下	100mg/L 以下
大腸菌数	(CFU/100ml 以下)	170～5100	(5100)	790～3400	(3400)	120～2000	(2000)	470～33000	(33000)	－	－

備考：基準値は、日間平均値を示す。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90％水質値のデータ値を示す。全窒素、全燐の基準値は、年間平均値を示す。

注 1：「<」は定量下限値未満を示す。
注 2：「平均」は、日平均値の年間平均値を示す。
注 3：BOD の（　）は、75％水質値を示し、環境基準値との比較に使用する。
注 4：75％水質値とは、日平均値の 75％値のことを示す。
注 5：大腸菌数の（　）は、90％水質値を示す。90％水質値とは、年間の日間平均値の全データを小さいものから順に並べた際の 0.9×ｎ番目のデータ値を示す。
注 6：網掛けは環境基準を満足していないことを示す。
出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

表 3.1.2-4(3)　水質測定結果（生活環境項目：海域）

調査項目（生活環境項目）		那覇港海域												環境基準値（A 類型）
		31		32-ｲ		34		35		36		38		
		那覇港沖		那覇港入口		那覇新港入口		泊港内		自謝加瀬東		安謝川河口沖		
		環境基準点		補助測定地点		環境基準点		環境基準点		環境基準点		参考測定点		
		A 類型		A 類型		A 類型		A 類型		A 類型		－		
		最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	
水素イオン濃度（pH）	－	8.1～8.2	－	8.0～8.3	－	8.1～8.2	－	8.1～8.2	－	8.1～8.2	－	8.0～8.2	－	7.8 以上 8.3 以下
溶存酸素量（DO）	(mg/L)	6.6～7.5	7.1	6.6～7.9	7.1	6.5～7.7	7.1	6.2～8.0	7.0	6.5～7.7	7.2	6.1～7.8	6.9	7.5mg/L 以上
化学的酸素要求量（COD）	(mg/L)	1.2～1.9	(1.8)	1.9～2.5	(2.4)	1.3～2.3	(1.6)	1.5～2.1	(1.8)	1.2～2.1	(1.6)	1.2～1.8	(1.7)	2mg/L 以下
大腸菌数	(CFU/100ml 以下)	<1～3	(3)	<1～40	(40)	<1～10	(8)	2～110	(110)	<1～6	(6)	3～2900	(2900)	300CFU/100mL 以下
n-ヘキサン抽出物質	－	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	検出されないこと。
全窒素	(mg/L)	0.13～0.19	0.16	－～－	－	－～－	－	－～－	－	－～－	－	－～－	－	－
全燐	(mg/L)	0.009～0.012	0.011	－～－	－	－～－	－	－～－	－	－～－	－	－～－	－	－

備考：基準値は、日間平均値を示す。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90％水質値のデータ値を示す。全窒素、全燐の基準値は、年間平均値を示す。

注 1：「<」は定量下限値未満を示す。　注 2：「平均」は、日平均値の年間平均値を示す。

注 3：COD の（　）は、75％水質値を示し、環境基準値との比較に使用する。　注 4：75％水質値とは、日平均値の 75％値のことを示す。

注 5：大腸菌数の（　）は、90％水質値を示す。90％水質値とは、年間の日間平均値の全データを小さいものから順に並べた際の 0.9×ｎ番目のデータ値を示す。

注 6：網掛けは環境基準を満足していないことを示す。注 7：那覇港海域の測定地点の全窒素、全燐はローリング方式で実施。令和 4 年度は、31 那覇港沖で調査実施。

出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

表 3.1.2-4(4)　水質測定結果（生活環境項目：海域）

調査項目（生活環境項目）		伊佐海域								環境基準値（A 類型）
		157		158		159		160		
		大山地先		沖電地先		港川地先		キャンプキンザー地先		
		参考測定点		参考測定点		参考測定点		参考測定点		
		－		－		－		－		
		最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	
水素イオン濃度（pH）	-	8.1～8.1	-	8.1～8.1	-	8.1～8.1	-	8.1～8.1	-	7.8 以上 8.3 以下
溶存酸素量（DO）	(mg/L)	6.4～7.3	6.9	6.2～7.4	6.8	6.1～7.3	6.7	6.4～7.2	6.8	7.5mg/L 以上
化学的酸素要求量（COD）	(mg/L)	1.1～1.4	(1.4)	1.0～1.3	(1.3)	1.1～1.2	(1.2)	1.1～1.5	(1.5)	2mg/L 以下
大腸菌数	(CFU/100ml 以下)	<1～2	(2)	<1～2	(2)	<1～<1	(<1)	<1～<1	(<1)	300CFU/100mL 以下
n-ヘキサン抽出物質	-	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	<0.5～<0.5	<0.5	検出されないこと。
全窒素	(mg/L)	-～-	-	-～-	-	-～-	-	-～-	-	－
全燐	(mg/L)	-～-	-	-～-	-	-～-	-	-～-	-	－

備考：基準値は、日間平均値を示す。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90%水質値のデータ値を示す。全窒素、全燐の基準値は、年間平均値を示す。

注 1：「<」は定量下限値未満を示す。

注 2：「平均」は、日平均値の年間平均値を示す。

注 3：COD の（　）は、75%水質値を示し、環境基準値との比較に使用する。

注 4：75%水質値とは、日平均値の 75%値のことを示す。

注 5：大腸菌数の（　）は、90%水質値を示す。90%水質値とは、年間の日間平均値の全データを小さいものから順に並べた際の 0.9×ｎ番目のデータ値を示す。

出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

2) 健康項目及び全亜鉛

対象地域における健康項目及びその他の水質測定結果は、表 3.1.2-5 に示すとおりである。

河川については、久茂地川の泉崎橋、安里川の安里新橋、大道練兵橋、安謝川の安謝橋、宇久増橋、牧港川の境橋上流 50m、大謝名橋上流 200m のいずれも測定した全ての項目で環境基準を満足している。

海域については、参考測定点である伊佐海域のキャンプ・キンザー地先で測定した全ての項目で環境基準を満足している。

表 3.1.2-5(1)　水質測定結果（健康項目及び全亜鉛：河川）

分類	項目名	単位	久茂地川	安里川		安謝川		牧港川		環境基準値
			81	85	86	92	93	100	102	
			泉崎橋	安里新橋	大道練兵橋	安謝橋	宇久増橋	境橋上流 50m	大謝名橋上流 200m	
			採取日 R4.8.9	採取日 R4.8.9	採取日 R4.8.9	採取日 R4.8.9	採取日 R4.8.9	採取日 R4.7.20	採取日 R4.7.20	
健康項目	カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	－	<0.0003	－	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
	全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	－	<0.1	－	<0.1	<0.1	検出されないこと
	鉛	mg/L	<0.002	<0.002	－	<0.002	－	<0.002	<0.002	0.01 以下
	六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	－	<0.005	－	<0.02	<0.02	0.02 以下
	砒素	mg/L	0.002	<0.002	－	0.002	－	<0.002	<0.002	0.01 以下
	総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	－	<0.0005	－	<0.0005	<0.0005	0.005 以下
	アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	－	<0.0005	－	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
	PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	－	<0.0005	－	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.02 以下
	四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.002 以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.004 以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.1 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.04 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	1 以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.006 以下
	トリクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.03 以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.002 以下
	チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	－	<0.0006	－	<0.001	<0.001	0.006 以下
	シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	－	<0.0003	－	<0.001	<0.001	0.003 以下
	チオベンカルブ	mg/L	<0.001	<0.001	－	<0.001	－	<0.002	<0.002	0.02 以下
	ベンゼン	mg/L	<0.0002	<0.0002	－	<0.0002	－	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
	セレン	mg/L	<0.002	<0.002	－	<0.002	－	<0.002	<0.002	0.01 以下
	硝酸性窒素	mg/L	0.16	1.4	－	0.15	－	1.5	2.1	－
	亜硝酸性窒素	mg/L	0.012	0.020	－	0.033	－	<0.05	<0.05	－
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.17	1.4	－	0.18	－	1.5	2.1	10 以下
	ふっ素	mg/L	-	－	<0.05	－	0.08	0.08	0.13	0.8 以下
	ほう素	mg/L	-	－	0.04	－	0.05	0.05	<0.05	1 以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	－	<0.005	－	<0.005	<0.005	0.05 以下
その他	電気伝導度	μS/cm	－	－	－	－	－	504	606	－
	全亜鉛	mg/L	－	－	－	－	－	0.009	－	－

注 1：「<」は定量下限値未満を示す。

注 2：久茂地川の泉崎橋、安里川の安里新橋、安謝川の安謝橋では、ふっ素、ほう素の測定は行われていない。また、安里川の大道練兵橋、安謝川の宇久増橋では、ふっ素及びほう素以外の健康項目（25 項目）の測定は行われていない。電気伝導度の測定は、牧港川の境橋上流 50m、大謝名橋上流 200m、全亜鉛の測定は、牧港川の境橋上流 50m でのみ行われている。

出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

表 3.1.2-5(2)　水質測定結果（健康項目及び全亜鉛：海域）

分類	項目名	単位	伊佐海域 160 キャンプ・キンザー地先 採取日 R4.7.22	環境基準値
健康項目	カドミウム	mg/L	<0.0003	0.003 以下
	全シアン	mg/L	<0.1	検出されないこと
	鉛	mg/L	<0.002	0.01 以下
	六価クロム	mg/L	<0.005	0.02 以下
	砒素	mg/L	0.002	0.01 以下
	総水銀	mg/L	<0.0005	0.005 以下
	アルキル水銀	mg/L	<0.0005	検出されないこと
	PCB	mg/L	<0.0005	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	<0.0002	0.02 以下
	四塩化炭素	mg/L	<0.0002	0.002 以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0002	0.004 以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0002	0.1 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0002	0.04 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0002	1 以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0002	0.006 以下
	トリクロロエチレン	mg/L	<0.0002	0.03 以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0002	0.01 以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.002 以下
	チウラム	mg/L	<0.0006	0.006 以下
	シマジン	mg/L	<0.0003	0.003 以下
	チオベンカルブ	mg/L	<0.001	0.02 以下
	ベンゼン	mg/L	<0.0002	0.01 以下
	セレン	mg/L	0.002	0.01 以下
	硝酸性窒素	mg/L	<0.02	－
	亜硝酸性窒素	mg/L	<0.004	－
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	<0.024	10 以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	0.05 以下
その他	全亜鉛	mg/L	－	－

注 1：「<」は定量下限値未満を示す。
注 2：参考測定点である伊佐海域のキャンプ・キンザー地先では、ふっ素、ほう素の測定は行われていない。
出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

(4) 底質

対象地域における底質測定地点は、表 3.1.2-6 及び図 3.1.2-9 に示すとおりである。

測定結果は、表 3.1.2-7 に示すとおりであり、総水銀と PCB のいずれも暫定除去基準を満足している。

表 3.1.2-6 底質測定地点

河川・海域名		県地点番号	地点名	類型
河川	久茂地川	81	泉崎橋[注1]	C
	安里川	85	安里新橋[注1]	D
	安謝川	92	安謝橋[注1]	C
海域	那覇港海域	34	那覇新港入口[注2]	A

注 1：81 泉崎橋、85 安里新橋、92 安謝橋の底質は、ローリング方式で実施(令和 4 年度調査は、85 安里新橋で実施)

注 2：那覇海域 33 那覇港内(対象地域外地点)、34 那覇新港入口の底質は、ローリング方式で実施(令和 4 年度は、33 那覇港内(対象地域外地点)で実施)

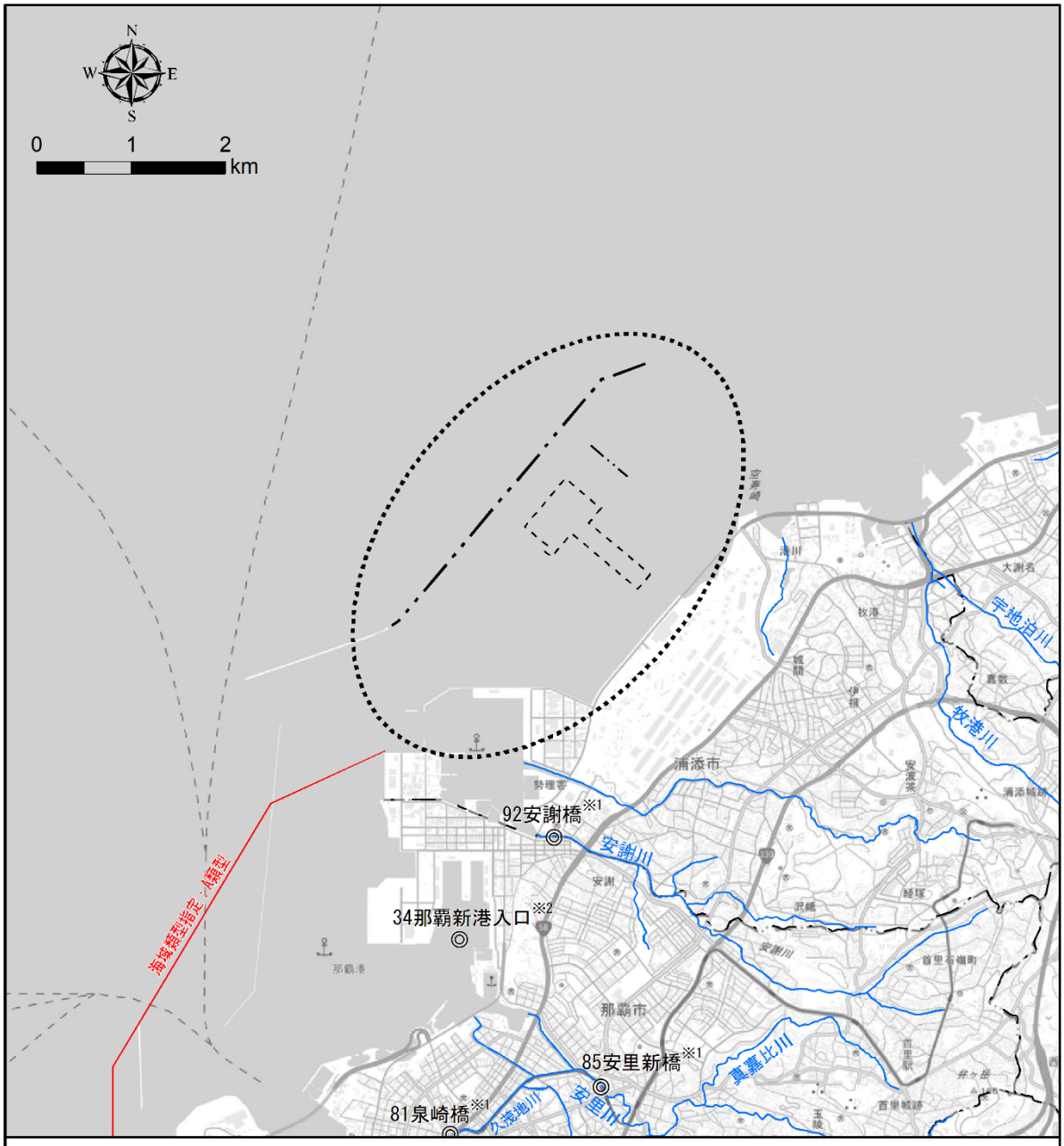
出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

表 3.1.2-7 底質測定結果

河川・海域名（地点名）			安里川（85 安里新橋）	暫定除去基準（mg/kg）
採取年月日			R4.10.13	
測定項目	乾燥減量	%	24.2	－
	強熱減量	%	5.4	－
	COD	mg/g	6.3	－
	カドミウム	mg/kg	0.24	－
	鉛	mg/kg	24.9	－
	シアン	mg/kg	－	－
	六価クロム	mg/kg	<2	－
	砒素	mg/kg	6.26	－
	総水銀	mg/kg	0.04	25
	アルキル水銀	mg/kg	<0.01	－
	PCB	mg/kg	0.02	10

注 1：「<」は定量下限値未満を示す。

出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 河川

底質測定点

- ◎ 環境基準点
- ● 環境補助点

※1：81 泉崎橋、85 安里新橋、92 安謝橋の底質は、ローリング方式で実施
（令和 4 年度調査は、85 安里新橋で実施）

※2：那覇海域 33 那覇港内（対象地域外地点）、34 那覇新港入口の底質は、ローリング方式で実施
（令和 4 年度は、33 那覇港内（対象地域外地点）で実施）

出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）
（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

図 3.1.2-9　底質測定地点位置図

(5) 地下水

対象地域における地下水の測定は、那覇市の首里において概況調査が実施されており、浦添市の屋富祖及び当山においては、継続監視調査が実施されている。両調査とも詳細な調査地点は公表されていない。

地下水測定結果は、表 3.1.2-8 及び表 3.1.2-9 に示すとおりである。継続監視調査の屋富祖及び当山においては、砒素が環境基準を満足していない。

表 3.1.2-8 地下水の概況調査結果

市区町村名		那覇市	環境基準値
地区名		首里	
採水年月日		R4.8.19	
pH	mg/L	7.6	-
カドミウム	mg/L	不検出	0.003 以下
全シアン	mg/L	不検出	検出されないこと
鉛	mg/L	不検出	0.01 以下
六価クロム	mg/L	不検出	0.02 以下
砒素	mg/L	不検出	0.01 以下
総水銀	mg/L	不検出	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	不検出	検出されないこと
ポリ塩化ビフェニル（PCB）	mg/L	不検出	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	不検出	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	不検出	0.002 以下
クロロエチレン（塩化ビニルモノマー）	mg/L	不検出	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	不検出	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	不検出	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	不検出	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン（MC）	mg/L	不検出	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	不検出	0.006 以下
トリクロロエチレン（TCE）	mg/L	不検出	0.01 以下
テトラクロロエチレン（PCE）	mg/L	不検出	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	不検出	0.002 以下
チウラム	mg/L	不検出	0.006 以下
シマジン	mg/L	不検出	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	不検出	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	不検出	0.01 以下
セレン	mg/L	不検出	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	1.9	10 以下
ふっ素	mg/L	0.05	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.03	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	不検出	0.05 以下

注：詳細な調査地点は公表されていない。
出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）
令和 4 年度市内公共用水域及び地下水の水質測定結果（那覇市 HP）

表 3.1.2-9　地下水の継続監視調査結果

市区町村名		浦添市	浦添市	環境基準値
地区名		屋富祖	当山	
採水年月日		R4.10.18	R4.10.18	
砒素	mg/L	0.029	0.035	0.01 以下
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	1 以下
クロロエチレン （塩化ビニルモノマー）	mg/L	-	-	1 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	0.004 以下
ほう素	mg/L	-	-	1 以下

注 1：詳細な調査地点は公表されていない。
注 2：網掛けは環境基準を満足していないことを示す。
出典：令和 4 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）（令和 6 年 3 月　沖縄県環境部環境保全課）

3.1.3 土壌及び地盤環境

(1) 土壌

対象地域における土壌図は、図 3.1.3-1 に示すとおりであり、国道 58 号東側の一部に灰色台地土壌（石灰質）及び乾性塩基系暗赤色土壌が分布している。その他の多くは市街地、埋立地等である。

「土壌汚染対策防止法に基づく要措置区域等一覧」（環境省）によると、対象地域においては、土壌汚染対策法（平成 14 年 5 月 29 日 法律第 53 号〈最終改正〉令和 4 年 6 月 17 日）に基づく要措置区域は存在しない。一方で、同法に基づく形質変更時要届出区域が表 3.1.3-1 に示すとおり、浦添市、宜野湾市の一部に指定されているが、事業実施想定区域には存在しない。

「最終処分場跡地に係る指定区域一覧」（沖縄県）によると、対象地域においては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年 12 月 25 日 法律第 137 号〈最終改正〉令和 4 年 6 月 17 日）に基づく指定区域は存在しない。

「令和 3 年度農用地土壌汚染防止法の施行状況」（環境省水・大気環境局）によると、対象地域においては、農用地の土壌の汚染防止等に関する法律（昭和 45 年 12 月 25 日 法律第 139 号〈最終改正〉平成 23 年 8 月 30 日）に基づく農用地土壌汚染対策地域は存在しない。

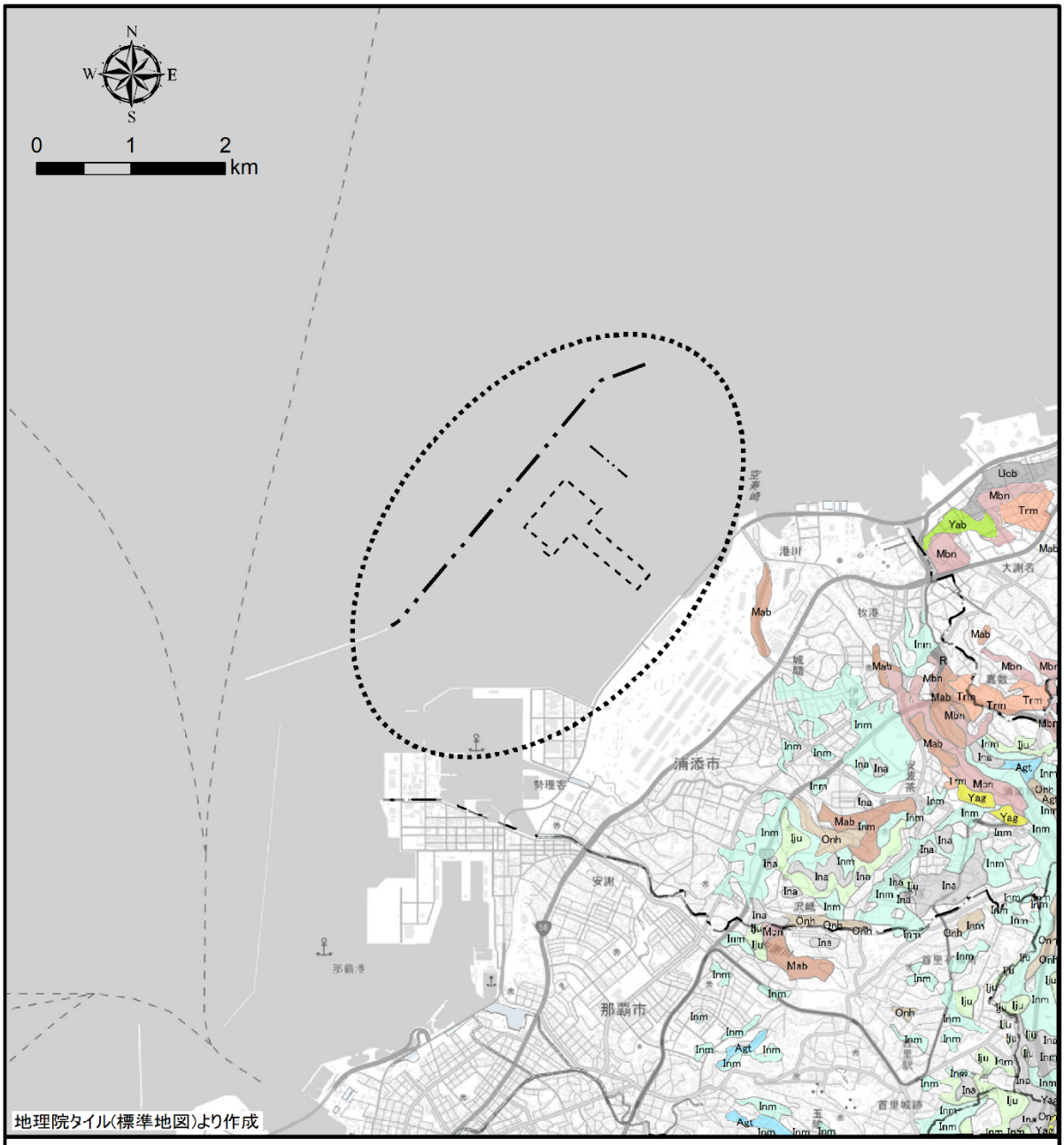
表 3.1.3-1 形質変更時要届出区域

形質変更時要届出区域	土壌溶出量基準に適合していない特定有害物質の種類	区域指定を行った日
浦添市牧港五丁目 982 番、1059 番及び 1139 番の各一部（300 ㎡）	ふっ素及びその化合物	令和 4 年 11 月 8 日
宜野湾市字真志喜松川原 624 番の一部、真志喜一丁目 630 番 14 の一部及び 650 番 2 の一部、真志喜三丁目 1 番の一部、2 番 2、3 番 2 の一部、102 番 2 の一部及び 651 番 5 並びに真志喜一丁目 630 番 14 から真志喜三丁目 3 番 2 までの地先の里道（500 ㎡）	ベンゼン	平成 27 年 10 月 13 日

出典：土壌汚染対策法に基づく要措置区域等の指定状況について（沖縄県環境部環境保全課水環境・赤土対策班 HP）

(2) 地盤沈下

「令和 5 年度版 環境白書」（沖縄県）によると、県内の地盤沈下については、令和 5 年度までのところ認められていない。



凡例

出典：沖縄県地図情報システム　オープンデータ一覧_土地分類基本調査図（土壌図）
（沖縄県企画部県土・跡地利用対策課 HP）

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

乾性黄色土壌
Yag, 屋宜原1統

乾性塩基系暗赤色土壌
Mab, 摩文仁統

埴質未熟土壌
Ina, 稲嶺統

岩屑性土壌
R, 岩石地統

Urb,灰色台地土壌(石灰質)
Inm, 稲嶺統
Iju, 伊集統

細粒暗赤色土壌
Trm, 多良間統

礫質暗赤色土壌
Mbn, 摩文仁統

細粒褐色低地土壌、斑紋なし
Onh, 小那覇統

中粗粒褐色低地土壌、斑紋なし
Yab, 屋部統

細粒灰色低地土壌、灰色系
Agt, 安慶田統

中粗粒強グライ土壌
Ucb, 内花統

海・ダム・池など
海・ダム・池など

図 3.1.3-1　土壌図

3.1.4 地形及び地質

(1) 地形

対象地域の地形分類図、海図及び海底地形の状況は図 3.1.4-1(1)～(3)に示すとおりである。

海岸沿岸部では主に海抜 10m 以下の海岸低地及び埋立地が分布している。

内陸部では、丘陵地の「小起伏丘陵」、「丘陵上を刻む浅谷（盆状谷）」や台地・段丘の「下位面」、低地の「谷底低地」等が分布している。浦添市港川の一部においては「石灰岩堤」が分布している。

事業実施想定区域には、「さんご礁（干瀬）」、「さんご礁（イノー礁池）」が分布しており、沖に向かって広がるイノー礁池の礁縁に沿って干瀬が堤防状に形成されている。

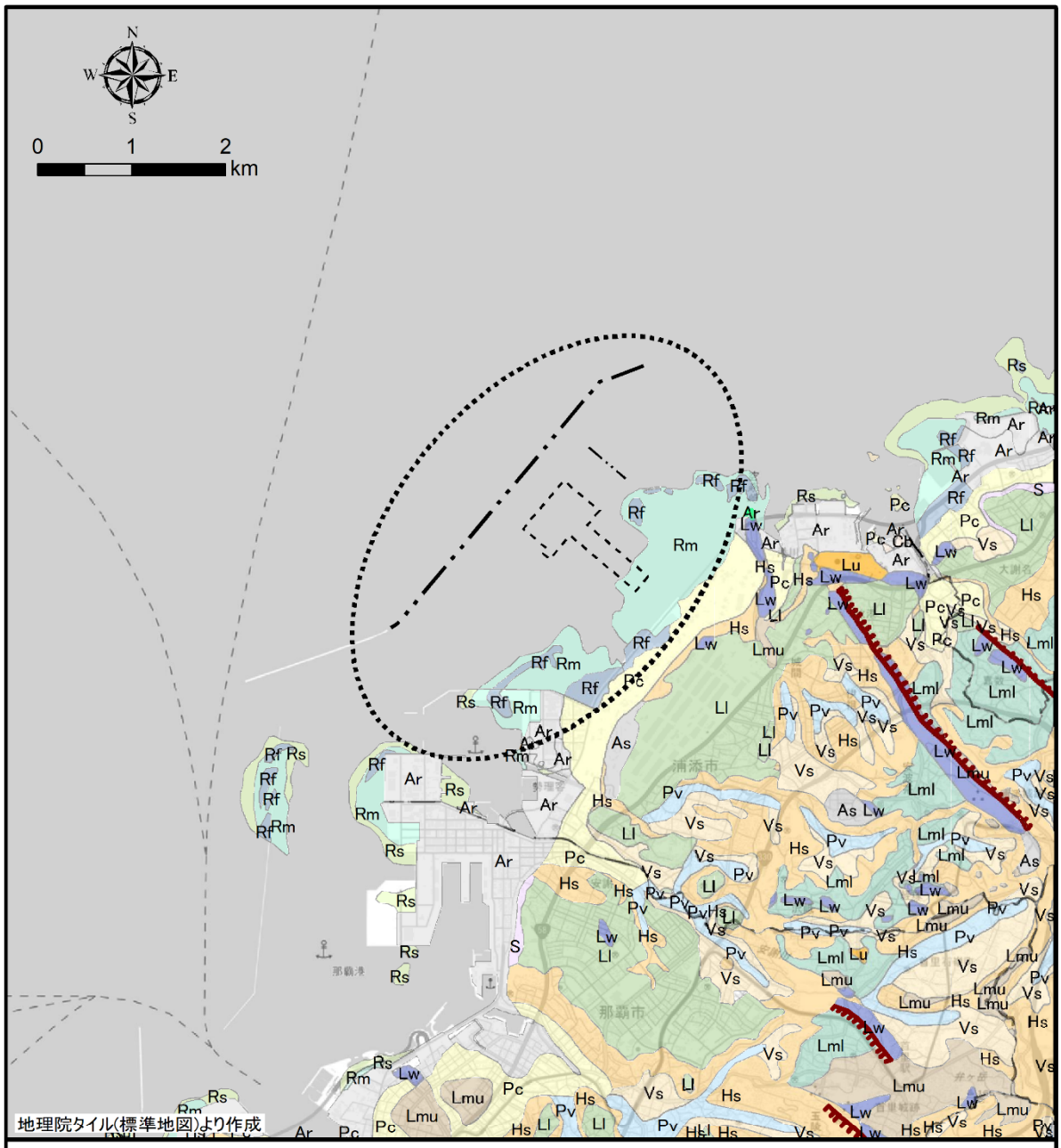
なお、対象地域においては、「日本の典型地形について」（国土地理院）に掲載されている典型地形は分布していない。

(2) 地質

対象地域の表層地質図、海底地質図は図 3.1.4-2(1)、(2)、横断図は図 3.1.4-3 に示すとおりである。

国道 58 号を境として海岸沿いは主に第四紀の「沖積層（未固結堆積物）粘土・シルト・礫」、「琉球層群琉球石灰岩（固結堆積物、一部未固結～半固結）」が広がり、内陸部は主に新第三紀～第四紀の「島尻層群泥岩（固結堆積物）」、「島尻層群砂岩（固結堆積物・半固結堆積物）」が広がっている。

また、浦添市港川の空寿崎付近においては、第四紀の「琉球層群段丘石灰岩（固結堆積物）砂質石灰岩“粟石”」が広がっている。



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 2, ノッチ
- 9, 断層崖

2 丘陵地

- Hs, 小起伏丘陵
- Vs, 丘陵上を刻む浅谷(盆状谷)

4 台地・段丘

- Lu, 上位面
- Ll, 下位面
- Lmu, 中位面(上位) or 中位段丘上位面
- Lml, 中位面(下位) or 中位段丘下位面
- Lw, 石灰岩堤

5 低地

- Pv, 谷底低地
- Pc, 海岸低地

6 海岸

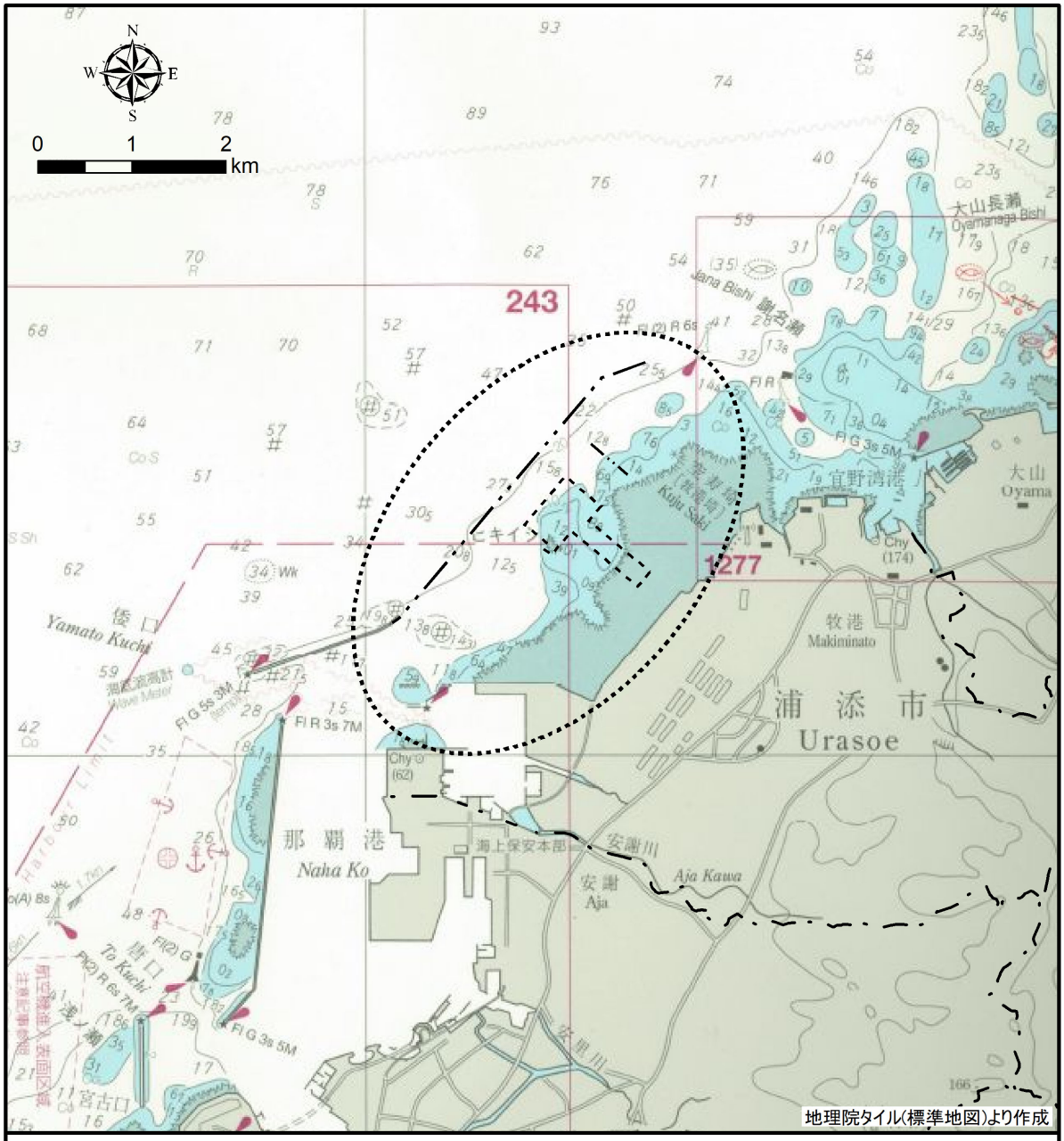
- Cb, 海浜
- Rf, さんご礁(干瀬)
- Rm, さんご礁(イノー礁池)
- Rs, 礁斜面

7 その他

- As, 人工平坦地
- Ar, 埋立地
- S, 崖(海崖・段丘崖)
- 海・ダム・池

出典：沖縄県地図情報システム　オープンデータ一覧_土地分類基本調査図（地形分類図）
（沖縄県企画部県土・跡地利用対策課 HP）

図 3.1.4-1(1)　地形分類図



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

水深・・・メートル
（水深の基準は、その場所の最大干潮時の水面である最低水面）

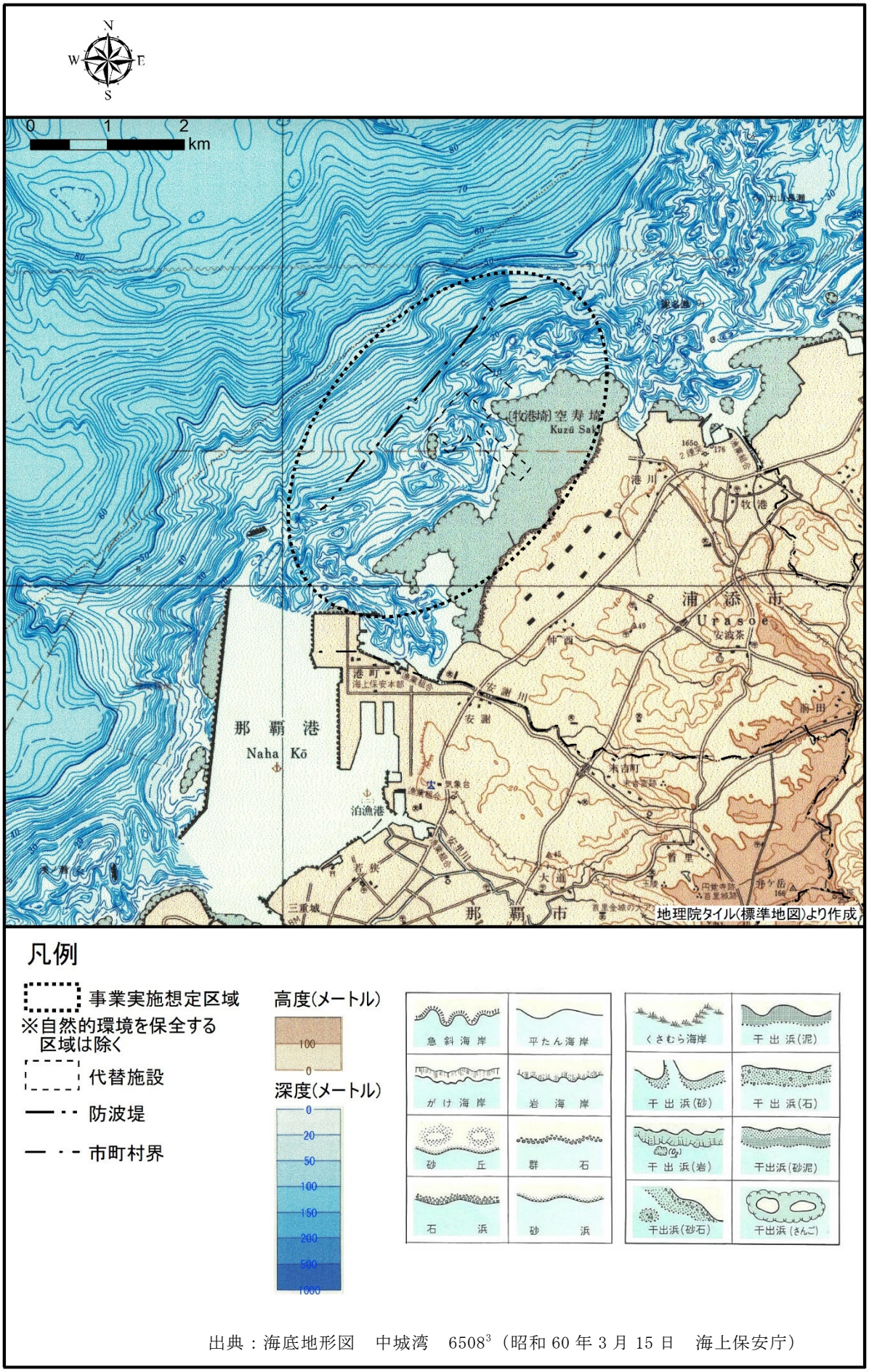
代替施設

防波堤

市町村界

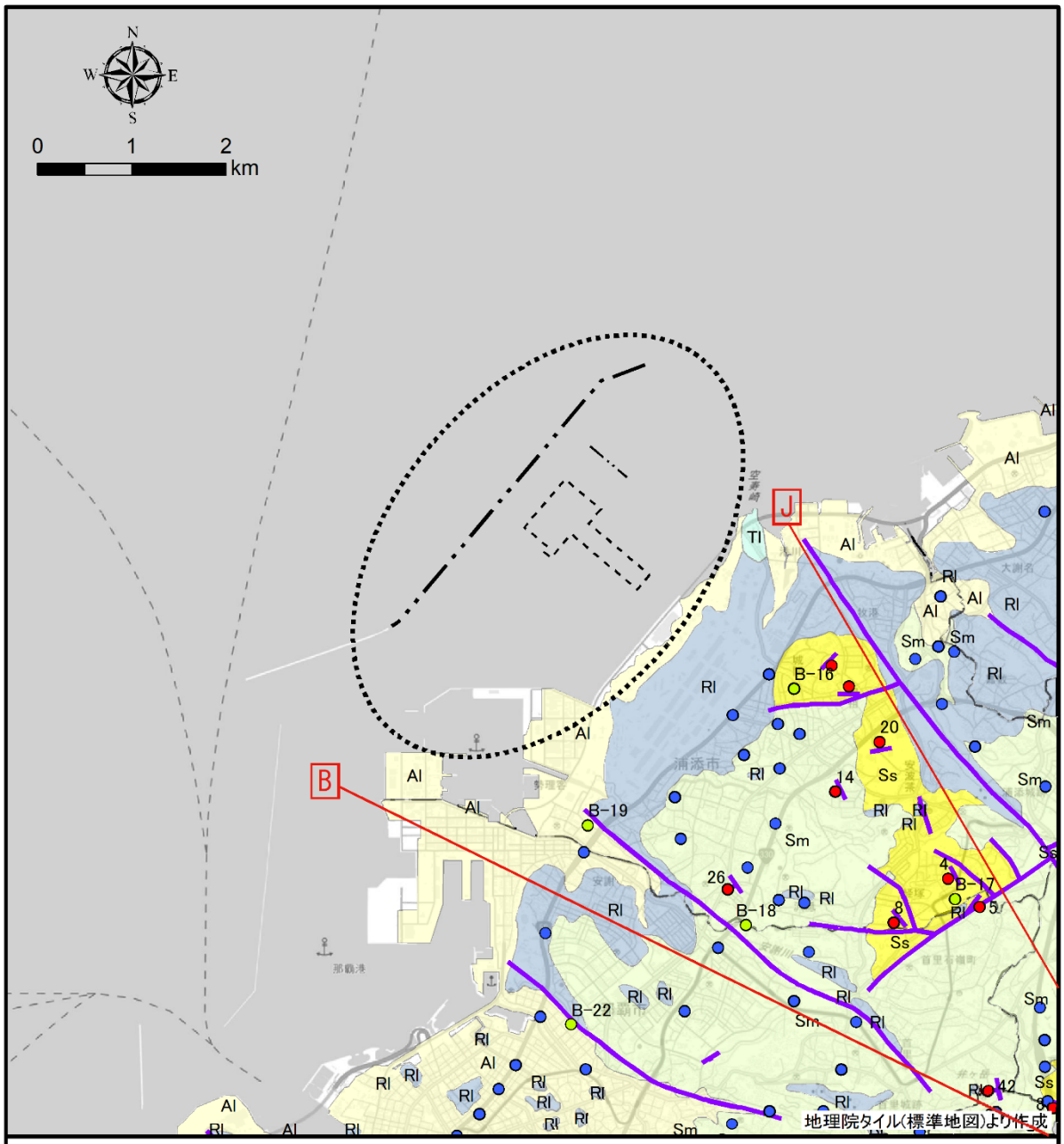
出典：海図　沖縄島南部　W222A（平成 23 年 6 月 16 日　海上保安庁）

図 3.1.4-1(2)　海図



出典：海底地形図　中城湾　6508[3]（昭和 60 年 3 月 15 日　海上保安庁）

図 3.1.4-1(3)　海底地形の状況



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 地層の走向・傾斜の値
- 地質ボーリング地点
- 地質柱状図地点とその番号
- 断層

新第三紀～第四紀

- Sm, 島尻層群泥岩（固結堆積物）
- Ss, 島尻層群砂岩（固結堆積物・半固結堆積物）

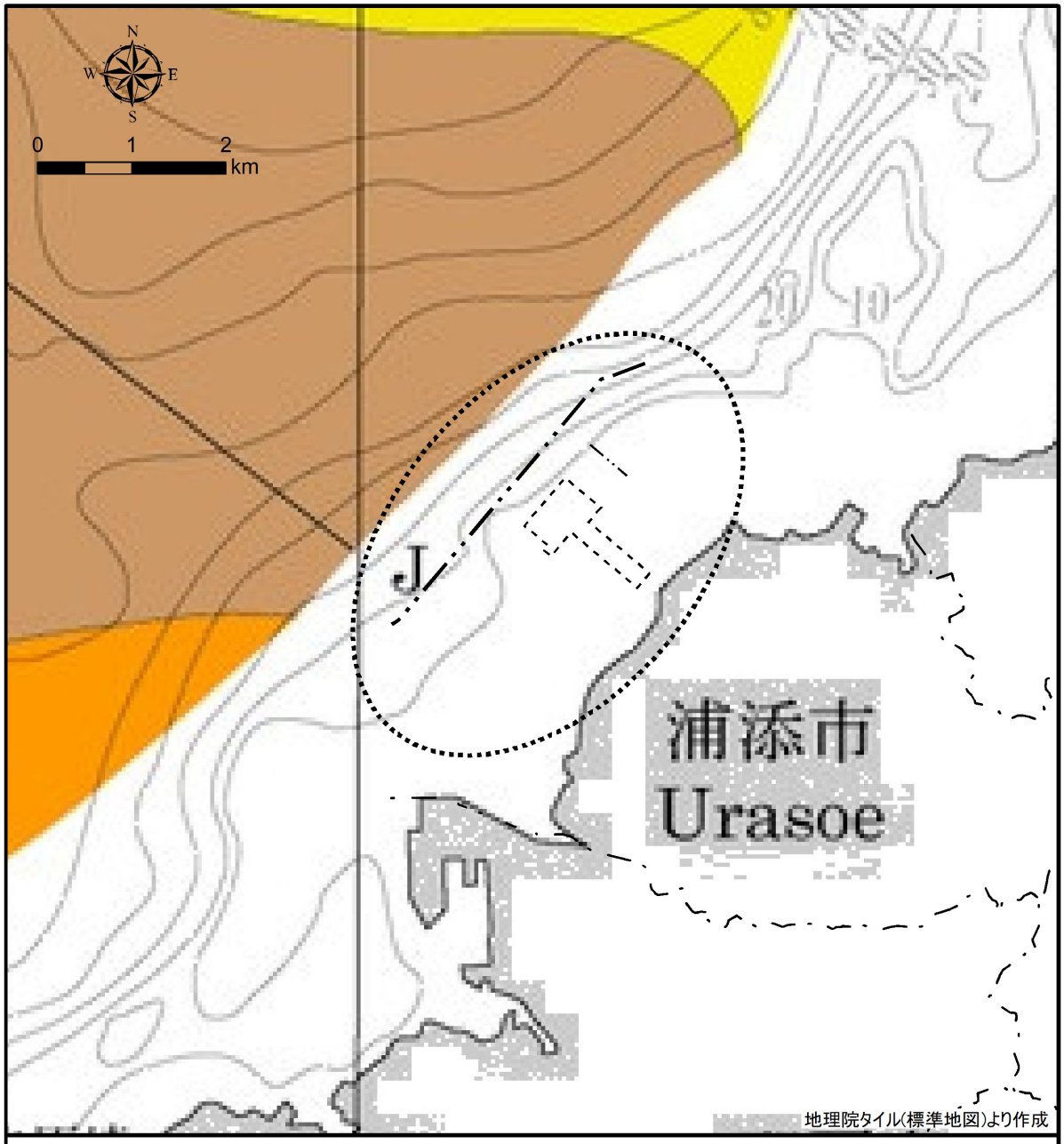
第四紀

- Al, 沖積層（未固結堆積物）粘土・シルト・礫
- Tl, 琉球層群段丘石灰岩（固結堆積物）砂質石灰岩“粟石”
- Rl, 琉球層群琉球石灰岩（固結堆積物、一部未固結～半固結）

- B, J 横断図ライン

出典：沖縄県地図情報システム　オープンデータ一覧_土地分類基本調査図（表層地質図）
（沖縄県企画部県土・跡地利用対策課 HP）

図 3.1.4-2(1)　表層地質図



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界

It	糸満沖層群	中期更新世-完新世	第四紀
Nj	南城沖層群	更新世	第四紀
Ur	うるま沖層群	後期中新世-鮮新世	新第三紀
Kg	国頭沖層群	始新世	先新第三紀
Bs	音響基盤		先新第三紀

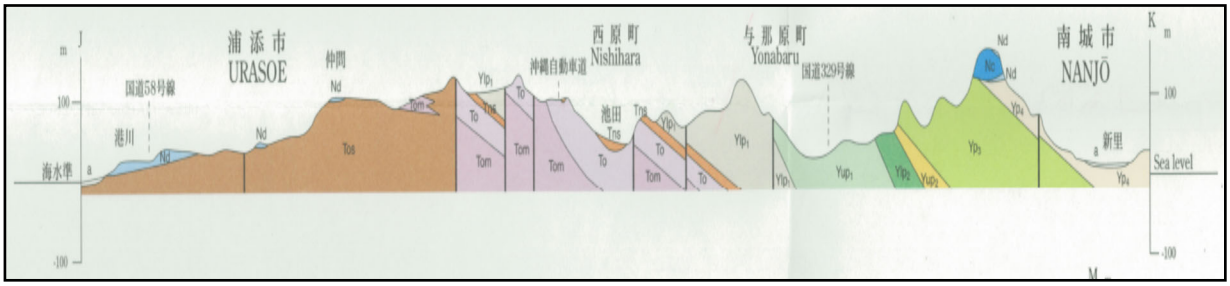
出典：沖縄島南部周辺海底地質図（平成 30 年 10 月 31 日
国立研究開発法人　産業技術総合研究所　地質調査総合センター）

図 3.1.4-2(2)　海底地質図

【B ライン】

出典：地形分類図（中南部）（昭和 58 年 3 月沖縄県企画部県土・跡地利用対策課 HP）

【J ライン】



出典：那覇及び沖縄市南部地域の地質
（平成 18 年　独立行政法人産業技術総合研究所　地質査総合センター）

図 3.1.4-3　横断図

(3) 重要な地形及び地質

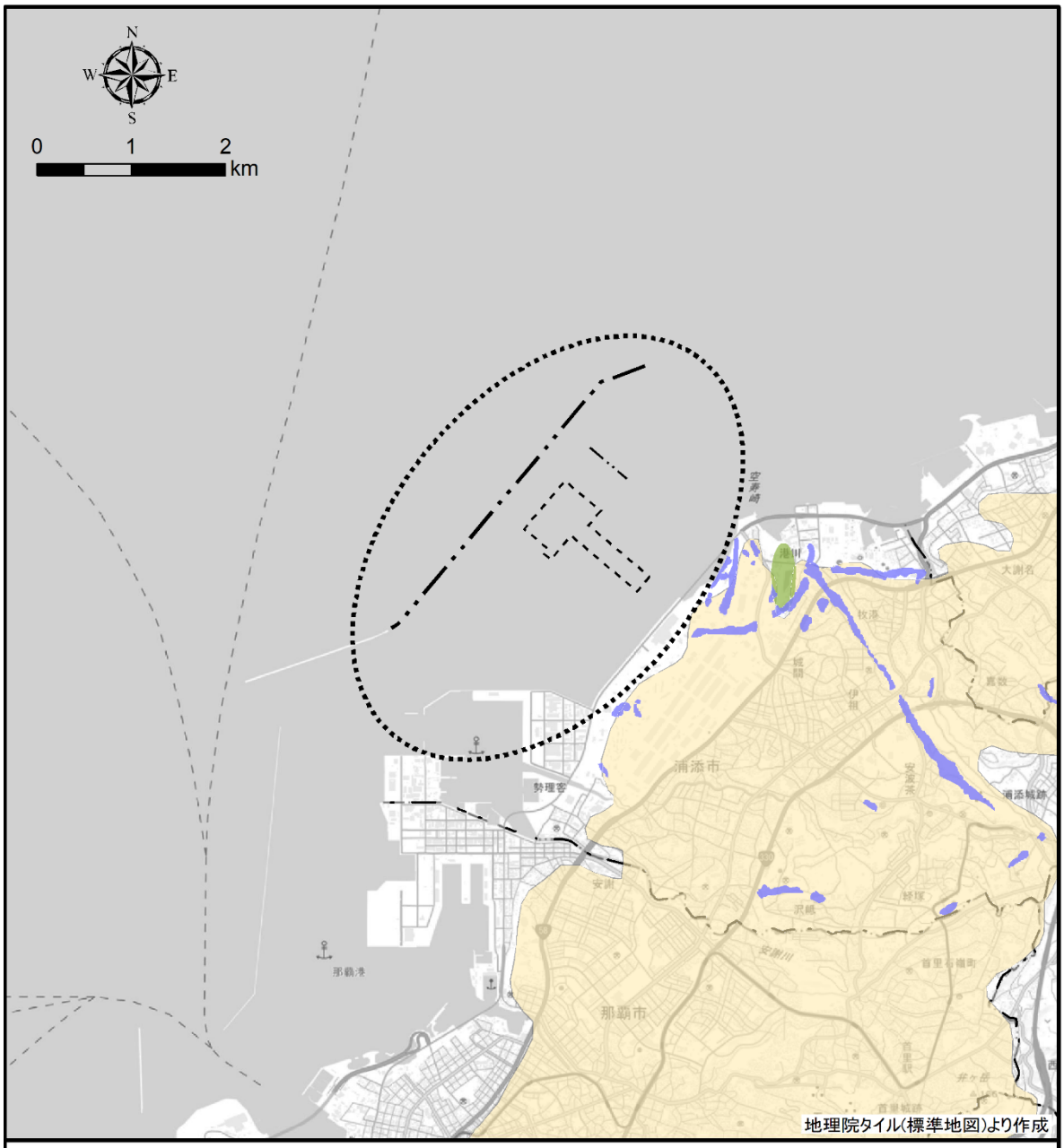
対象地域の重要な地形及び地質は表 3.1.4-1 及び図 3.1.4-4 に示すとおりである。

対象地域においては、海成段丘、石灰岩堤、ポットホール状地形が存在する。

表 3.1.4-1　重要な地形及び地質

番号	場所	地形・地質名	出典						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	浦添市域内	海成段丘	－	－	－	○	－	－	－
2	港川～伊祖～仲間、浦添、那覇市内点在	石灰岩堤	－	－	－	－	－	○	○
3	シリン川周辺	ポットホール状地形	－	－	－	－	－	－	○

出典：①文化財保護法（昭和 25 年 5 月 30 日、法律第 214 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日）
②世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（平成 4 年条約第 7 号）
③自然環境保全法（昭和 47 年 6 月 22 日、法律第 85 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日）
④第 3 回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図（平成元年）（環境省自然環境局生物多様性センターHP）
⑤日本の地形レッドデータブック第 1 集-危機にある地形-（平成 12 年　株式会社古今書院）、日本の地形レッドデータブック第 2 集-保存すべき地形（平成 14 年　株式会社古今書院）
⑥自然環境の保全に関する指針　沖縄島編（沖縄県環境部自然保護課 HP）
⑦浦添市環境マップ（浦添市市民部環境保全課 HP）



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 海成段丘
- 石灰岩堤
- ポットホール状地形

出典：第３回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図（平成元年）
（環境省自然環境局生物多様性センターHP）
自然環境の保全に関する指針 沖縄島編（沖縄県環境部自然保護課 HP）
浦添市環境マップ（浦添市市民部環境保全課 HP）

図 3.1.4-4　重要な地形及び地質図

3.1.5 動物及び植物

(1) 動物

動物の生息状況は、表 3.1.5-1 に示す文献により把握した。重要な動物の選定基準は、表 3.1.5-2 に示すとおりである。

対象地域における重要な動物は表 3.1.5-3 に示すとおりであり、哺乳類 7 種、鳥類 48 種、爬虫類 7 種、両生類 2 種、魚類 19 種、昆虫類 19 種、クモ形類 7 種、多足類 1 種、陸産貝類 15 種、水生貝類 64 種、甲殻類 22 種、サンゴ類 1 種、星口動物 1 種、環形動物 1 種の計 214 種の重要な動物が生息している可能性が考えられる。重要な動物の主な生息域を表 3.1.5-4 に示す。

表 3.1.5-1　文献一覧(動物)

番号	文献名	発行元	発行年
1	自然環境保全基礎調査　全国鳥類繁殖分布調査（第 3 回目、H28～R3)	環境省自然環境局生物多様性センター　いきものログ HP	-
2	自然環境保全基礎調査 第 5 回動物分布調査報告書(生物多様性調査 種の多様性調査 第 1 期)平成 9、10 年度	環境省自然環境局生物多様性センターHP	-
3	沖縄県環境利用ガイド	沖縄県	平成 4 年
4	自然環境の保全に関する指針　沖縄島編	沖縄県環境部自然保護課 HP	-
5	浦添市環境マップ	浦添市市民部環境保全課 HP	平成 28 年
6	浦添市環境マップ 空寿崎の生き物リスト	浦添市市民部環境保全課 HP	-
7	浦添市環境マップ 浦添市生きもの図鑑	浦添市市民部環境保全課 HP	-
8	城間字誌 第一巻「城間の風景」	浦添市城間自治会	平成 12 年
9	新都心の自然で遊ぼう	なはエコネットワーク	平成 16 年
10	宜野湾市史 第九巻 資料編 八 自然	宜野湾市教育委員会文化課	平成 12 年
11	宜野湾市自然環境調査報告書	宜野湾市	平成 16 年
			平成 17 年
			平成 25 年
12※	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区 環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書	浦添市土地開発公社	-
13	那覇港港湾計画資料（その 2)	那覇港管理組合	令和 5 年
14	カーミージーの海の生きものたち	カーミージーの海で遊び隊	平成 31 年
15	しらべにいこう！カーミージーの海	浦添市民里浜ネットワーク	平成 21 年
16	海のがっこう	東海大学出版会	平成 25 年

※:那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業に係る環境影響評価方法書(令和 5 年 12 月　浦添市土地開発公社、那覇港管理組合)より引用した。

表 3.1.5-2　重要な動物の選定基準

番号	選定基準となる法律・文献等
Ⅰ	文化財保護法（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日）、沖縄県文化財保護条例（昭和 47 年 5 月 15 日条例第 25 号<最終改正>平成 17 年 7 月 26 日）、浦添市文化財保護条例（昭和 48 年 10 月 22 日条例第 24 号<最終改正>平成 8 年 3 月 21 日）、那覇市文化財保護条例（昭和 48 年 4 月 11 日条例第 24 号<最終改正>平成 20 年 3 月 28 日）、宜野湾市文化財保護条例（昭和 62 年 12 月 24 日条例第 23 号最終改正>平成 23 年 12 月 26 日） 【区分】特別：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：県指定天然記念物、市天：市指定天然記念物 ※令和 5 年度版　文化財課要覧（令和 6 年 3 月　沖縄県）を参照
Ⅱ	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日） 【区分】国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
Ⅲ	沖縄県希少野生動植物保護条例（令和元年 10 月 31 日沖縄県条例第 46 号） 【区分】希少：県内希少
Ⅳ	環境省レッドリスト 2020（令和 2 年　環境省）の掲載種 【区分】EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA 類、EN：絶滅危惧ⅠB 類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅴ	改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物第 3 版（動物編）-レッドデータおきなわ-（平成 29 年　沖縄県環境部自然保護課）の掲載種 【区分】EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA 類、EN：絶滅危惧ⅠB 類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅵ	環境省版海洋生物レッドリスト 2017（平成 29 年　環境省）の掲載種 【区分】EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA 類、EN：絶滅危惧ⅠB 類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅶ	干潟の絶滅危惧動物図鑑－海岸ベントスのレッドデータブック（平成 24 年　日本ベントス学会）の掲載種 【区分】EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA 類、EN：絶滅危惧ⅠB 類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

表 3.1.5-3(1)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
哺乳類	ワタセジネズミ				NT	NT				○			○	○	○	○ 注3		○	○	○				
	ジャコウネズミ					DD							○		○	○		○	○	○				
	オリイオオコウモリ					NT				○	○	○	○		○			○						
	オキナワコキクガシラコウモリ		国内		EN	EN						○						○	○					
	イエコウモリ					VU												○	○					
	リュウキュウユビナガコウモリ		国内		EN	EN			○									○	○					
	オキナワハツカネズミ					DD												○		○				
鳥類	ヒシクイ	国天			VU 注4	VU 注4												○ 注4						
	マガン	国天			NT	NT												○						
	ツクシガモ				VU	VU												○						
	アカツクシガモ				DD				○									○						
	オシドリ				DD	EN												○						
	カイツブリ					NT			○									○						
	カラスバト	国天			NT	VU						○												
	クロウミツバメ				NT													○						
	カツオドリ					NT			○															

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(2)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
鳥類	リュウキュウヨシゴイ					NT							○		○			○	○					
	ムラサキサギ					VU												○						
	チュウサギ				NT	NT			○		○	○					○	○	○		○			
	クロツラヘラサギ		国内		EN	EN			○															
	リュウキュウヒクイナ					NT											○	○	○					
	ヨタカ				NT													○						
	ケリ				DD				○									○						
	シロチドリ				VU	VU			○				○	○	○			○	○	○	○			
	メダイチドリ		国際						○				○	○	○			○			○			
	オオメダイチドリ		国際						○															
	セイタカシギ				VU 注4	VU 注4			○				○		○		○	○						
	オオソリハシシギ		国際 注4		VU 注4	VU			○											○	○			
	ホウロクシギ		国際		VU	VU			○															
	ツルシギ				VU	VU												○						
	アカアシシギ				VU	VU			○				○		○			○			○			
	タカブシギ				VU	VU			○									○						
	サルハマシギ		国際						○															

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(3)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準[注1]							分布状況確認資料[注1]															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4[注2]		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
鳥類	ハマシギ				NT	NT			○									○			○			
	ヘラシギ		国内		CR	CR												○						
	タマシギ				VU	VU												○	○					
	ミフウズラ					VU										○		○						
	ツバメチドリ				VU	VU												○						
	ズグロカモメ				VU	VU			○									○						
	オオアジサシ				VU	VU												○						
	コアジサシ				VU	VU			○	○			○	○	○			○		○	○			
	マミジロアジサシ					NT			○															
	ベニアジサシ				VU	VU			○	○			○	○	○			○		○	○			
	エリグロアジサシ				VU	VU			○	○			○	○	○			○	○		○			
	ミサゴ				NT	NT			○			○	○	○	○			○	○	○	○			
	ツミ					DD			○	○[注5]		○[注5]	○		○		○[注5]	○[注5]						
	サシバ				VU	VU			○				○		○			○		○	○			
	リュウキュウアオバズク					NT			○[注6]				○		○			○[注6]						
	リュウキュウオオコノハズク				VU	VU			○[注6]															
	カワセミ					NT			○		○	○	○		○		○	○	○		○			

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(4)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
鳥類	リュウキュウコゲラ					NT			○ 注6				○		○			○ 注6	○ 注6					
	ハヤブサ		国内		VU	VU			○					○				○	○	○				
	サンショウクイ				VU	VU												○						
	アカモズ（亜種アカモズ）		国内		EN													○ 注7						
	ウグイス（亜種ダイトウウグイス）				DD				○ 注7					○ 注7		○ 注7	○ 注7	○ 注7			○ 注7			
爬虫類	クロイワトカゲモドキ	県天	国内		VU	VU			○	○	○	○				○		○	○					
	オキナワキノボリトカゲ				VU	VU			○				○	○	○	○	○	○ 注6	○					
	オキナワトカゲ				VU	VU			○				○		○			○		○				
	アマミタカチホヘビ				NT	NT			○	○	○	○						○	○					
	ハイ				NT	NT			○	○	○	○												
	ヒロオウミヘビ				VU	NT							○	○	○									
	イイジマウミヘビ				VU								○	○	○									○
両生類	イボイモリ	県天	国内		VU	VU				○						○								
	シリケンイモリ				NT	NT										○		○						

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種（琉球列島）として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種（琉球列島）として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(5)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
魚類	マダラトビエイ						DD													○				
	ニホンウナギ				EN	EN												○ 注8	○					
	モバウツボ						NT													○				
	ギンブナ				CR 注9	CR 注9										○								
	タウナギ				CR 注10	CR				○		○	○		○	○								
	ミナミメダカ			希少	VU	CR				○						○								
	カスリフサカサゴ						NT													○				
	ニラミカサゴ						NT													○				
	ダンゴオコゼ						NT													○				
	ヒトミハタ						NT													○				
	コクハンアラ						VU													○				
	ニセクラカオスズメダイ						DD														○			
	セジロクマノミ						NT													○				
	シロクラベラ						NT													○	○			
	クロベラ						NT													○				
	タナゴモドキ				EN	VU													○					
	ホシマダラハゼ				VU	NT							○		○									

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(6)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
魚類	コバンハゼ						NT													○				
	タイワンキンギョ				CR	CR				○		○				○								
昆虫類	ヒメイトトンボ				NT								○		○			○						
	トビイロヤンマ				EN	EN												○	○					
	シオカラトンボ					VU												○						
	クロイワゼミ				VU	NT						○												
	ハイイロ イボサシガメ				NT															○				
	サンゴアメンボ				NT	NT								○										
	タガメ		国内		VU	CR						○												
	イワカワシジミ				NT				○	○	○	○	○		○	○		○	○					
	コノハチョウ	県天			NT							○					○							
	フタオチョウ	県天			NT								○		○			○						
	リュウキュウ ウラナミジャノメ				NT				○			○												
	オキナワ シロヘリハンミョウ				NT	LP							○	○	○					○				
	コガタノゲンゴロウ				VU							○								○				
	コマルケシ ゲンゴロウ				NT													○						

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(7)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
昆虫類	マルケシゲンゴロウ				NT													○	○					
	オキナワカブトムシ				DD	NT												○						
	オオテントウ					DD										○								
	オキナワ センノキカミキリ					DD										○								
	ヤマト アシナガバチ 注11				DD															○				
クモ形類	オヒキコシビロ ザトウムシ					NT													○					
	ウデナガサワダムシ	市天																	○					
	ヤンバルキムラグモ				VU 注12	VU						○ 注12							○ 注12					
	オキナワキムラグモ				VU	VU 注13												○						
	キノボリトタテグモ				NT	NT													○ 注14					
	オキナワマシラグモ					NT					○													
	ヤマトウシオグモ				DD	CR					○						○							
多足類	ホラオビヤスデ					NT													○					

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(8)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
陸産貝類	フクダ ゴマオカタニシ				NT				○				○		○									
	リュウキュウ ゴマガイ				VU													○						
	クニガミゴマガイ				VU	NT												○						
	アオミオカタニシ				NT	NT			○				○		○		○	○						
	ヒラセアツブタガイ				EN	CR+EN												○						
	ホラアナ ゴマオカチグサ				CR+EN	VU 注15													○					
	ナガケシガイ				NT								○		○			○						
	オオカサマイマイ				NT				○				○		○			○						
	ノミガイ				VU				○															
	アマノ ヤマタカマイマイ		国内		CR+EN	CR+EN													○					
	オキナワ ヤマタカマイマイ			希少	VU	CR+EN			○								○	○	○					
	シラユキ ヤマタカマイマイ			希少	EN	VU							○		○									
	シュリケマイマイ				NT	NT			○				○		○			○	○					
	イトマンマイマイ				VU	CR+EN			○									○						
	パンダナマイマイ					NT			○				○		○		○	○		○				

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(9)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
水生貝類	ヤジリスカシガイ				NT	NT		NT												○				
	シマカノコ				NT			NT					○		○			○ 注16	○ 注16					
	キジビキカノコ				NT			NT										○ 注16						
	ヒロクチカノコ				NT			NT	○				○		○			○ 注16	○ 注16					
	ツバサカノコ				NT			NT										○ 注16						
	レモンカノコ				NT	NT		NT															○	
	クサイロカノコ				NT			NT												○	○		○	
	キンランカノコ				NT			NT												○	○		○	
	ベッコウフネアマガイ				NT													○						
	マルタニシ				VU	CR+EN												○						
	コゲツノブエ				VU			NT													○			
	カヤノミカニモリ				NT			NT												○				
	ヌノメカワニナ				NT								○		○				○					
	イボアヤカワニナ				NT								○		○				○					
	イロタマキビ				NT													○						
	マンガルツボ				NT			NT	○															
	オイランカワザンショウ				NT	NT		NT										○						

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(10)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
水生貝類	オキナワ ミズゴマツボ				NT								○		○			○	○					
	マルシロネズミ					NT												○						
	ヒロクチリスガイ				NT	NT		NT										○						
	アラゴマフダマ				VU	NT		VU										○						
	フロガイダマシ				VU			VU												○				
	イワカワトキワガイ					DD												○						
	テングニシ				NT			NT														○		
	ヨウラク レイシダマシ					NT														○	○			
	ツヤイモ				VU	VU		VU										○ 注16						
	シチクガイ				NT			NT										○						
	タケノコガイ							NT										○				○		
	オオシイノミ クチキレ				NT	NT		NT												○				
	クリイロコミミガイ				VU			VU	○															
	ウラシマミミガイ				NT	NT		NT	○															
	ヒヅメガイ				NT			NT										○ 注17						
	キヌメハマ シイノミガイ				NT	VU		NT	○															

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(11)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
水生貝類	モノアラガイ				NT														○					
	タイワン モノアラガイ				DD				○				○		○			○	○					
	ヒラマキミズ マイマイ				DD				○															
	リュウキュウ ヒラマキモドキ				NT 注18	NT												○	○ 注19					
	アサヒキヌタレガイ				VU			VU												○				
	スエヒロガイ				VU	VU		VU												○ 注20			○ 注20	
	ウラキツキガイ				VU	VU		VU												○	○			
	カブラツキガイ					NT														○	○			
	ミナミウロコガイ				NT	NT		NT												○ 注21				
	ツマベニ マメアゲマキ				NT	NT		NT												○				
	タガソデモドキ				NT			NT										○ 注22						
	イレズミザルガイ				VU	VU		VU										○						
	カワラガイ				NT	NT		NT										○		○			○	
	オキナワヒシガイ				NT			NT												○	○			
	オウギカノコアサリ					NT														○				
	トモシラオガイ					NT												○						
	シラオガイ				NT			NT										○						

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(12)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
水生貝類	オミナエシハマグリ				NT			NT												○				
	オトコエシハマグリ							NT 注23												○			○	
	オイノカガミ				NT	NT		NT						○				○ 注16		○	○			
	リュウキュウアサリ				VU	VU		VU										○		○				
	スダレハマグリ				NT	NT		NT										○						
	リュウキュウサラガイ					VU														○				
	ハツヒザクラ					NT												○ 注16						
	ヒラセザクラ				NT	VU		NT										○ 注16						
	モチヅキザラ				VU	VU		VU										○ 注16						
	ミクニシボリザクラ				NT	NT		NT												○	○			
	ハスメザクラ				NT	NT		NT												○	○			
	アシガイ				NT			NT										○						
	リュウキュウマテガイ				NT	NT		NT										○						
	イソハマグリ				NT			NT															○	

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(13)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
甲殻類	オオナキ オカヤドカリ	国天			NT															○				
	オカヤドカリ	国天											○	○	○			○	○	○				
	ムラサキ オカヤドカリ	国天											○	○	○	○				○				
	ナキオカヤドカリ	国天											○	○	○			○		○			○	
	ショウグンエビ						DD												○					
	リュウキュウ カクエンコウガニ					NT	DD	VU												○				
	フジテガニ						NT	NT						○										
	イワトビ ベンケイガニ					NT								○										
	ベンケイガニ						NT	VU					○		○				○					
	ハマガニ						NT	NT										○						
	ミナミアシハラガニ						NT	NT					○		○				○					
	タイワン ヒライソモドキ						NT	NT										○						
	ニセモクズガニ					NT		VU					○		○									
	アラモトサワガニ				VU	NT												○						
	サカモトサワガニ				NT	NT						○												
	ツノメチゴガニ							NT					○		○			○						

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-3(14)　重要な動物種一覧

分類	種名	選定基準 注1							分布状況確認資料 注1															
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	出典1、2	出典3	出典4 注2		出典5	出典6	出典7	出典8	出典9	出典10	出典11	出典12	出典13	出典14	出典15	出典16
											大謝名	那覇												
甲殻類	リュウキュウシオマネキ					NT	NT	VU					○		○									
	ルリマダラシオマネキ							NT					○		○							○	○	
	ヒメシオマネキ							NT					○		○			○					○	
	ヒメカクオサガニ						NT													○	○			
	メナガオサガニ					NT		NT												○				
	ヒメヤマトオサガニ						NT	NT					○		○									
サンゴ類	ヒユサンゴ						VU														○			
星口動物	スジホシムシ						NT	NT												○				
環形動物	ツバサゴカイ						EN	VU													○			

注 1:表中の出典番号は、表 3.1.5-1 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-2 を参照。
注 2:出典 4 の「大謝名」、「那覇」は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図と対応する。
注 3:ワイゼンネズミと掲載されているが、そのような種は存在しないため、本種名の誤記であると判断した。
注 4:本種と同じ和名の亜種が選定種として掲載されている。
注 5:別亜種リュウキュウツミとして掲載されているが、新知見では沖縄島には亜種ツミのみが分布する。
注 6:種名で掲載されているが、沖縄島に分布するのは本亜種のみである。
注 7:種名で掲載されているが、本亜種の可能性があるため重要な種として扱った。
注 8:別称ウナギとして掲載されている。
注 9:フナ属の1種(琉球列島)として掲載されている。
注 10:別称タウナギ属の一種(琉球列島)として掲載されている。
注 11:現在、沖縄県で確認される本種はタイワンアシナガバチであるとされ、普通種となっている。
注 12:キムラグモとして掲載されているが、沖縄島南部に分布する同属の種は本種のみである。
注 13:オキナワキムラグモ属として掲載されている。
注 14:キノボリトタテグモ属の一種として掲載されているが、日本産は本種のみである。
注 15:ホラアナゴマオカチグサ種群として掲載されている。
注 16:種名は末尾に「ガイ」がつく名称で掲載されている。
注 17:ヒズメガイと掲載されているが、本種名の誤記であると判断した。
注 18:別称リュウキュウヒラマキガイモドキとして掲載されている。
注 19:ヒラマキガイモドキとして掲載されているが、本種に該当するものとして扱った。
注 20:ハボウキガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はスエヒロガイとされた。
注 21:ウロコガイとして掲載されているが、新知見では琉球列島に分布する種はミナミウロコガイとされた。
注 22:別称タガソデガイモドキとして掲載されている。
注 23:オトコエシハマグリは、オミナエシハマグリの外洋・砂礫底生態型と見なされている。

表 3.1.5-4(1)　重要な動物の主な生息域

分類	種名	主な生息域注										
		陸域					海域				陸域・海域	
		草地・耕作地・市街地	森林(樹林)	開放水系(河川・湖沼)	洞窟	海岸・岩礁(干出)	サンゴ分布域	海草(藻場)	岩盤(沈水)	礫・砂	干潟	マングローブ
哺乳類	ワタセジネズミ	○										
	ジャコウネズミ	○										
	オリイオオコウモリ		○									
	オキナワコキクガシラコウモリ		○		○							
	イエコウモリ	○										
	リュウキュウユビナガコウモリ		○		○							
	オキナワハツカネズミ	○	○									
鳥類	ヒシクイ	○		○		○						
	マガン	○		○		○						
	ツクシガモ										○	
	アカツクシガモ	○		○		○						
	オシドリ			○								
	カイツブリ			○								
	カラスバト	○	○									
	クロウミツバメ	○	○									
	カツオドリ					○	○	○	○	○		
	リュウキュウヨシゴイ	○		○								
	ムラサキサギ	○		○								
	チュウサギ	○		○							○	
	クロツラヘラサギ	○		○							○	
	リュウキュウヒクイナ	○		○								
	ヨタカ	○	○								○	
	ケリ	○		○								
	シロチドリ					○						
	メダイチドリ					○					○	
	オオメダイチドリ										○	
	セイタカシギ	○									○	
	オオソリハシシギ					○					○	
	ホウロクシギ	○									○	
	ツルシギ	○		○							○	
	アカアシシギ	○									○	
	タカブシギ	○		○								
	サルハマシギ	○				○					○	
	ハマシギ	○		○		○					○	
	ヘラシギ										○	
	タマシギ	○		○								
	ミフウズラ	○										
	ツバメチドリ	○		○							○	
	ズグロカモメ					○					○	
	オオアジサシ					○	○	○				
	コアジサシ					○	○	○				
	マミジロアジサシ					○	○	○				
	ベニアジサシ					○	○	○				
	エリグロアジサシ					○	○	○				
	ミサゴ			○		○	○	○				
	ツミ		○									
	サシバ	○	○									
	リュウキュウアオバズク		○									
	リュウキュウオオコノハズク		○									
	カワセミ			○		○						
	リュウキュウコゲラ		○									
	ハヤブサ	○		○								
	サンショウクイ	○	○									

注：あくまで主な生息域であり、この表に示す環境に限定されるものではない。

表 3.1.5-4(2)　重要な動物の主な生息域

分類	種名	主な生息域注										
		陸域					海域				陸域・海域	
		草地・耕作地・市街地	森林(樹林)	開放水系(河川・湖沼)	洞窟	海岸・岩礁(干出)	サンゴ分布域	海草(藻場)	岩盤(沈水)	礫・砂	干潟	マングローブ
鳥類	アカモズ(亜種アカモズ)		○									
	ウグイス(亜種ダイトウウグイス)	○	○									
爬虫類	クロイワトカゲモドキ		○									
	オキナワキノボリトカゲ		○									
	オキナワトカゲ	○				○						
	アマミタカチホヘビ		○									
	ハイ		○									
	ヒロオウミヘビ						○			○		
	イイジマウミヘビ						○					
両生類	イボイモリ		○	○								
	シリケンイモリ		○	○								
魚類	マダラトビエイ						○		○			
	ニホンウナギ			○								
	モバウツボ						○	○	○			
	ギンブナ			○								
	タウナギ			○								
	ミナミメダカ			○								
	カスリフサカサゴ						○		○			
	ニラミカサゴ						○		○			
	ダンゴオコゼ						○		○			
	ヒトミハタ						○		○			
	コクハンアラ						○		○			
	ニセクラカオスズメダイ						○		○			
	セジロクマノミ						○		○			
	シロクラベラ						○			○		
	クロベラ						○		○			
	タナゴモドキ			○								
	ホシマダラハゼ			○								○
	コバンハゼ						○		○			
	タイワンキンギョ			○								
昆虫類	ヒメイトトンボ			○								
	トビイロヤンマ			○								
	シオカラトンボ	○		○								
	クロイワゼミ		○									
	ハイイロイボサシガメ	○										
	サンゴアメンボ						○		○			
	タガメ			○								
	イワカワシジミ	○	○									
	コノハチョウ		○									
	フタオチョウ		○									
	リュウキュウウラナミジャノメ		○									
	オキナワシロヘリハンミョウ					○						
	コガタノゲンゴロウ			○								
	コマルケシゲンゴロウ			○								
	マルケシゲンゴロウ			○								
	オキナワカブトムシ		○									

注：あくまで主な生息域であり、この表に示す環境に限定されるものではない。

表 3.1.5-4(3)　重要な動物の主な生息域

分類	種名	主な生息域注										
		陸域					海域				陸域・海域	
		草地・耕作地・市街地	森林(樹林)	開放水系(河川・湖沼)	洞窟	海岸・岩礁(干出)	サンゴ分布域	海草(藻場)	岩盤(沈水)	礫・砂	干潟	マングローブ
昆虫類	オオテントウ	○	○									
	オキナワセンノキカミキリ		○									
	ヤマトアシナガバチ	○	○									
クモ形類	オヒキコシビロザトウムシ				○							
	ウデナガサワダムシ				○							
	ヤンバルキムラグモ		○									
	オキナワキムラグモ		○									
	キノボリトタテグモ		○									
	オキナワマシラグモ				○							
	ヤマトウシオグモ					○						
多足類	ホラオビヤスデ				○							
陸産貝類	フクダゴマオカタニシ		○									
	リュウキュウゴマガイ		○									
	クニガミゴマガイ		○									
	アオミオカタニシ		○									
	ヒラセアツブタガイ		○									
	ホラアナゴマオカチグサ				○							
	ナガケシガイ		○									
	オオカサマイマイ		○									
	ノミガイ		○									
	アマノヤマタカマイマイ		○									
	オキナワヤマタカマイマイ		○									
	シラユキヤマタカマイマイ		○									
	シュリケマイマイ		○									
	イトマンマイマイ		○									
	パンダナマイマイ	○	○									
水生貝類	ヤジリスカシガイ							○			○	
	シマカノコ											○
	キジビキカノコ			○								○
	ヒロクチカノコ			○							○	
	ツバサカノコ			○								○
	レモンカノコ			○								
	クサイロカノコ							○				
	キンランカノコ							○				
	ベッコウフネアマガイ			○								
	マルタニシ			○								
	コゲツノブエ											○
	カヤノミカニモリ								○			
	ヌノメカワニナ			○								
	イボアヤカワニナ			○								
	イロタマキビ											○
	マンガルツボ											○
	オイランカワザンショウ											○
	オキナワミズゴマツボ			○								
	マルシロネズミ								○			
	ヒロクチリスガイ							○		○		
	アラゴマフダマ							○		○		

注：あくまで主な生息域であり、この表に示す環境に限定されるものではない。

表 3.1.5-4(4)　重要な動物の主な生息域

分類	種名	主な生息域[注]										
		陸域					海域				陸域・海域	
		草地・耕作地・市街地	森林(樹林)	開放水系(河川・湖沼)	洞窟	海岸・岩礁(干出)	サンゴ分布域	海草(藻場)	岩盤(沈水)	礫・砂	干潟	マングローブ
水生貝類	フロガイダマシ									○	○	
	イワカワトキワガイ									○		
	テングニシ									○	○	
	ヨウラクレイシダマシ						○		○			
	ツヤイモ							○			○	
	シチクガイ									○		
	タケノコガイ										○	
	オオシイノミクチキレ							○			○	
	クリイロコミミガイ											○
	ウラシマミミガイ											○
	ヒヅメガイ											○
	キヌメハマシイノミガイ											○
	モノアラガイ			○								
	タイワンモノアラガイ			○								
	ヒラマキミズマイマイ			○								
	リュウキュウヒラマキモドキ			○								
	アサヒキヌタレガイ							○				
	スエヒロガイ							○			○	
	ウラキツキガイ							○				
	カブラツキガイ							○			○	
	ミナミウロコガイ										○	
	ツマベニマメアゲマキ									○		
	タガソデモドキ								○			
	イレズミザルガイ							○		○		
	カワラガイ							○			○	
	オキナワヒシガイ							○			○	
	オウギカノコアサリ									○		
	トモシラオガイ									○		
	シラオガイ									○		
	オミナエシハマグリ							○				
	オトコエシハマグリ							○				
	オイノカガミ									○	○	
	リュウキュウアサリ							○		○		
	スダレハマグリ										○	
	リュウキュウサラガイ									○		
	ハツヒザクラ							○				
	ヒラセザクラ							○				
	モチヅキザラ							○				
	ミクニシボリザクラ							○				
	ハスメザクラ							○				
	アシガイ									○		
	リュウキュウマテガイ							○				
	イソハマグリ									○		
甲殻類	オオナキオカヤドカリ					○						
	オカヤドカリ					○						
	ムラサキオカヤドカリ					○						
	ナキオカヤドカリ					○						
	ショウグンエビ						○					
	リュウキュウカクエンコウガニ										○	
	フジテガニ			○								

注：あくまで主な生息域であり、この表に示す環境に限定されるものではない。

表 3.1.5-4(5)　重要な動物の主な生息域

分類	種名	主な生息域 注										
		陸域					海域				陸域・海域	
		草地・耕作地・市街地	森林(樹林)	開放水系(河川・湖沼)	洞窟	海岸・岩礁(干出)	サンゴ分布域	海草(藻場)	岩盤(沈水)	礫・砂	干潟	マングローブ
甲殻類	イワトビベンケイガニ					○						
	ベンケイガニ			○								
	ハマガニ			○								
	ミナミアシハラガニ			○								○
	タイワンヒライソモドキ			○								
	ニセモクズガニ			○								
	アラモトサワガニ			○								
	サカモトサワガニ			○								
	ツノメチゴガニ											○
	リュウキュウシオマネキ										○	○
	ルリマダラシオマネキ					○					○	
	ヒメシオマネキ										○	
	ヒメカクオサガニ										○	
	メナガオサガニ									○	○	
	ヒメヤマトオサガニ										○	
サンゴ類	ヒユサンゴ						○					
星口動物	スジホシムシ									○	○	
環形動物	ツバサゴカイ									○	○	

注：あくまで主な生息域であり、この表に示す環境に限定されるものではない。

(2) 植物

1) 重要な植物及び群落

植物の状況は、表 3.1.5-5 に示す文献により把握した。重要な種及び群落の選定基準は、表 3.1.5-6～表 3.1.5-9 に示すとおりである。

対象地域における重要な植物は表 3.1.5-10 に示すとおりであり、87 種の重要な種が生育している可能性が考えられる。

対象地域における重要な植物群落は表 3.1.5-11 に示すとおりであり、9 群落の重要な植物群落が生育している可能性が考えられる。

表 3.1.5-5　文献一覧（植物）

番号	文献名	発行元	発行年
1	カーミージーの海の生きものたち	カーミージーの海で遊び隊	平成 31 年
2	しらべにいこう！カーミージーの海	浦添市民里浜ネットワーク	平成 21 年
3	浦添市環境マップ	浦添市市民部環境保全課 HP	平成 28 年
4	浦添市環境マップ 空寿崎の生きものリスト	浦添市市民部環境保全課 HP	－
5	浦添市環境マップ 浦添市生きもの図鑑	浦添市市民部環境保全課 HP	－
6	城間字誌 第一巻「城間の風景」	浦添市城間自治会	平成 12 年
7	那覇港港湾計画資料（その 2）	那覇港管理組合	令和 5 年
8	宜野湾市史 第九巻 資料編 八 自然	宜野湾市教育委員会文化課	平成 12 年
9	宜野湾市自然環境調査報告書	宜野湾市	平成 16 年 平成 17 年 平成 25 年
10※	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書	浦添市土地開発公社	－

※:那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業に係る環境影響評価方法書(令和 5 年 12 月　浦添市土地開発公社、那覇港管理組合)より引用した。

表 3.1.5-6　重要な植物の選定基準

番号	選定基準となる法律・文献等
Ⅰ	文化財保護法（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日）、沖縄県文化財保護条例（昭和 47 年 5 月 15 日条例第 25 号<最終改正>平成 17 年 7 月 26 日）、浦添市文化財保護条例（昭和 48 年 10 月 22 日条例第 24 号<最終改正>平成 8 年 3 月 21 日）、那覇市文化財保護条例（昭和 48 年 4 月 11 日条例第 24 号<最終改正>平成 20 年 3 月 28 日）、宜野湾市文化財保護条例（昭和 62 年 12 月 24 日条例第 23 号最終改正>平成 23 年 12 月 26 日） 【区分】特別：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：県指定天然記念物、市天：市指定天然記念物 ※「令和 5 年度版　文化財課要覧（抜粋版）」を参照
Ⅱ	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日） 【区分】国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
Ⅲ	沖縄県希少野生動植物保護条例(令和元年 10 月 31 日沖縄県条例第 46 号) 【区分】希少：県内希少
Ⅳ	環境省レッドリスト 2020（令和 2 年 環境省）の掲載種 【区分】EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA 類、EN：絶滅危惧ⅠB 類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅴ	改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物第 3 版（菌類編・植物編）-レッドデータおきなわ-（平成 30 年　沖縄県環境部自然保護課）の掲載種 【区分】EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA 類、EN：絶滅危惧ⅠB 類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

表 3.1.5-7　重要な植物群落の選定基準

番号	選定基準となる法律・文献等
Ⅰ	文化財保護法（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号<最終改正>令和 4 年 6 月 17 日）、沖縄県文化財保護条例（昭和 47 年 5 月 15 日条例第 25 号<最終改正>平成 17 年 7 月 26 日）、浦添市文化財保護条例（昭和 48 年 10 月 22 日条例第 24 号<最終改正>平成 8 年 3 月 21 日）、那覇市文化財保護条例（昭和 48 年 4 月 11 日条例第 24 号<最終改正>平成 20 年 3 月 28 日）、宜野湾市文化財保護条例（昭和 62 年 12 月 24 日条例第 23 号<最終改正>平成 23 年 12 月 26 日） 【区分】特別：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：県指定天然記念物、市天：市指定天然記念物 ※令和 5 年度版　文化財課要覧（令和 6 年 3 月　沖縄県）を参照
Ⅱ	第 2 回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書（昭和 53 年 環境庁） 第 3 回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書（昭和 63 年 環境庁） 第 5 回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書（平成 12 年 環境庁） 【区分】A～H（表 3.1.5-8 参照）
Ⅲ	植物群落レッドデータブック(平成 8 年（財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会)の掲載又は同等な植物群落
Ⅳ	日本の植生 II（平成 16 年 環境省）の植生自然度 10、9 に該当する植物群落 【区分】1～10、その他（表 3.1.5-9 参照）

表 3.1.5-8　特定植物群落選定基準

区分	選定基準
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に分布するが、極めてまれな植物群落または個体群
C	比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群
D	砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

出典：第 5 回特定植物群落調査報告書（平成 12 年　環境庁）

表 3.1.5-9　植生自然度判定基準

植生自然度	区分内容	選定基準
10	自然草原	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	自然林	エゾマツートドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区
8	二次林 （自然林に近いもの）	ブナーミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区
7	二次林	クリーミズナラ群集、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区
6	植林地	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林
5	二次草原 （背の高い草原）	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原
4	二次草原 （背の低い草原）	シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落
3	外来種植林 農耕地 （樹園地）	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
2	外来種草原 農耕地 （水田・畑）	外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区
その他	自然裸地	
	開放水域	
	不明地区	

注：植生自然度 10 は単層の自然草原など、植生自然度 9 は多層の自然林などで、群落構造が異なるものの自然性の高さはほぼ同じランクである。植生自然度 8 は自然林に近い二次林、植生自然度 7 は二次林で、この 2 つも類似したランクである。同様に、植生自然度 5(背の高い草原)と植生自然度 4(背の低い草原)、植生自然度 3(外来種植林 農耕地(樹園地))と植生自然度 2(農耕地(外来種草原 農耕地(水田・畑))も、それぞれほぼ同じランクに属する。

出典：日本の植生 II（平成 16 年　環境省）
緑の国勢調査　自然環境保全調査報告書（昭和 51 年　環境庁）
1/2.5 万植生図を基にした植生自然度について(平成 28 年　環境省自然環境局生物多様性センター)

表 3.1.5-10(1)　重要な植物種一覧

分類	種和名	選定基準[注1]					分布状況確認資料[注1]									
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	出典 1	出典 2	出典 3	出典 4	出典 5	出典 6	出典 7	出典 8	出典 9	出典 10
陸上植物	マツバラン				NT				○		○			○	○	
	カレンコウアミシダ					VU								○		
	シマオオタニワタリ				NT									○	○	
	アカウキクサ				EN									○	○	
	ナンゴクデンジソウ				EN							○		○	○	
	ハンゲショウ					EN									○	
	オキナワハイネズ					EN								○		
	コギシギシ				VU									○	○	○
	オキナワマツバボタン				VU	EN										○
	オオツヅラフジ					NT								○	○	
	ニッケイ				NT							○				
	ヒレザンショウ					VU								○		
	オキナワツゲ				VU	VU			○		○			○		
	アワゴケ					CR									○	
	ミズハコベ					EN									○	
	ハリツルマサキ				NT				○	○	○	○		○		○
	クスノハカエデ				VU				○		○			○	○	
	シマサルスベリ				NT									○		
	リュウキュウアセビ				CR	EW								○		
	ケラマツツジ				VU	EN								○		
	イソマツ				VU	EN						○ [注2]				○
	リュウキュウコクタン				NT [注3]					○					○	○

注 1：表中の出典番号は、表 3.1.5-5 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-6 を参照。
注 2：変種ウコンイソマツとして掲載されている。
注 3：別称ヤエヤマコクタンとして掲載されている。
注 4：別称カワヂシャとして掲載されている。

表 3.1.5-10(2)　重要な植物種一覧

分類	種和名	選定基準注1					分布状況確認資料注1									
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	出典 1	出典 2	出典 3	出典 4	出典 5	出典 6	出典 7	出典 8	出典 9	出典 10
陸上植物	キジョラン					VU								○		
	イヌノフグリ				VU									○		
	ハマクワガタ				VU									○		
	カワジサ				NT 注4									○	○ 注4	
	ハクチョウゲ				EN									○		
	ヘツカニガキ					VU								○		
	イソノギク				EN	CR						○				
	オキナワギク				VU	VU						○				
	モクビャッコウ				VU	VU						○		○		
	タイワンアシカキ				NT									○	○	
	ヒメヒラテンツキ					VU									○	
	ヒメホタルイ					VU									○	
	サンカクイ					EN								○	○	
	ヤエヤマヤシ				NT	NT			○		○					
	シラン				NT				○		○			○		
	エダウチヤガラ					VU										○
	アコウネッタイラン				EN	VU								○		
海藻類	ハイコナハダ				NT	NT									○	○
	ジュズフサノリ					NT										○
	ベニモズク					VU										○
	ヌルハダ				DD	VU										○
	エツキヒビロウド					DD							○			○

注1：表中の出典番号は、表 3.1.5-5 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-6 を参照。
注2：変種ウコンイソマツとして掲載されている。
注3：別称ヤエヤマコクタンとして掲載されている。
注4：別称カワヂシャとして掲載されている。

表 3.1.5-10(3)　重要な植物種一覧

分類	種和名	選定基準注1					分布状況確認資料注1									
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	出典 1	出典 2	出典 3	出典 4	出典 5	出典 6	出典 7	出典 8	出典 9	出典 10
海藻類	フイリグサ				DD	NT									○	○
	カタメンキリンサイ				DD	NT				○					○	○
	トサカノリ				NT	DD			○	○	○					
	リュウキュウオゴノリ				NT	NT										○
	ベニゴウシ				DD	VU							○			○
	カラゴロモ					VU										○
	ベニハウチワ					DD										○
	ハナヤナギ				VU	CR+EN										○
	カヤモノリ					DD										○
	ウミボッス				CR+EN	CR+EN										○
	ヤバネモク				NT	NT				○			○	○		○
	コバモク				VU	VU								○		○
	ウミトラノオ					CR+EN										○
	ウミフシナシミドロ				VU	CR+EN							○			
	ホソバロニア				NT	NT										○
	オオネダシグサ				NT	NT				○						
	マガタマモ				NT	NT			○	○	○		○		○	○
	クダネダシグサ					DD										○
	クビレズタ				DD								○			○
	ヒナイワズタ				VU	VU							○			○
	キザミズタ				VU	VU										○
	イチイズタ				VU	VU							○			○

注 1：表中の出典番号は、表 3.1.5-5 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-6 を参照。
注 2：変種ウコンイソマツとして掲載されている。
注 3：別称ヤエヤマコクタンとして掲載されている。
注 4：別称カワヂシャとして掲載されている。

表 3.1.5-10(4)　重要な植物種一覧

分類	種和名	選定基準[注1]					分布状況確認資料[注1]									
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	出典 1	出典 2	出典 3	出典 4	出典 5	出典 6	出典 7	出典 8	出典 9	出典 10
海藻類	コテングノハウチワ				NT	NT										○
	ソリハサボテングサ				NT	NT										○
	ヒロハサボテングサ				NT	NT				○						○
	フササボテングサ				NT	NT							○			○
	ニセハウチワ					DD										○
	ハネモモドキ				DD	NT										○
	カタミズタマ				NT	NT										○
	ウスガサネ				VU	VU							○			○
	ホソエガサ				CR+EN	CR+EN							○			○
	カサノリ				NT	NT	○	○					○			○
海草類	コアマモ					VU		○		○						○
	ホソバウミジグサ					NT							○			
	マツバウミジグサ				NT	VU	○	○		○			○			○
	ウミジグサ				NT	NT		○								○
	ベニアマモ				NT			○	○	○	○		○			○
	リュウキュウアマモ				NT			○					○			○
	シオニラ				NT	NT		○								
	リュウキュウスガモ				NT		○	○		○			○	○		○
	ウミヒルモ				NT		○	○		○			○	○		○
	オオウミヒルモ					EN							○			○
	ヒメウミヒルモ					EN							○			

注 1：表中の出典番号は、表 3.1.5-5 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-6 を参照。
注 2：変種ウコンイソマツとして掲載されている。
注 3：別称ヤエヤマコクタンとして掲載されている。
注 4：別称カワヂシャとして掲載されている。

表 3.1.5-11　重要な植物群落一覧

分類	群落名	選定基準注				分布状況確認資料注
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	出典 10
植物群落	ガジュマル群落		A		9	○
	アダン群落		A・D・H	掲載	9	○
	オオハマボウ群落		A・D・H	掲載	9	○
	クサトベラ群落		A・D・H	掲載	9	○
	キダチハマグルマ群落		D		10	○
	ハマササゲ群落		D		10	○
	コウライシバ群落		D・H	掲載	10	○
	スナヅル群落		D		10	○
	ハイシバ群落		D		10	○

注：表中の出典番号は、表 3.1.5-5 の番号に対応する。選定基準については、表 3.1.5-7 を参照。

2) 植生

対象地域における現存植生図は、図 3.1.5-1 に示すとおりである。

対象地域における植生の分布は少なく、主に市街地、緑の多い住宅地、工場地帯、造成地等の土地利用が占めている。残存する植生としては、シリン川周辺で、ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落、ナガバカニクサーススキ群団、ギンネム群落等が分布している。

3) 特定植物群落等及び巨樹・巨木林

対象地域における特定植物群落等及び巨樹・巨木林は、表 3.1.5-12 及び図 3.1.5-2 に示すとおりである。

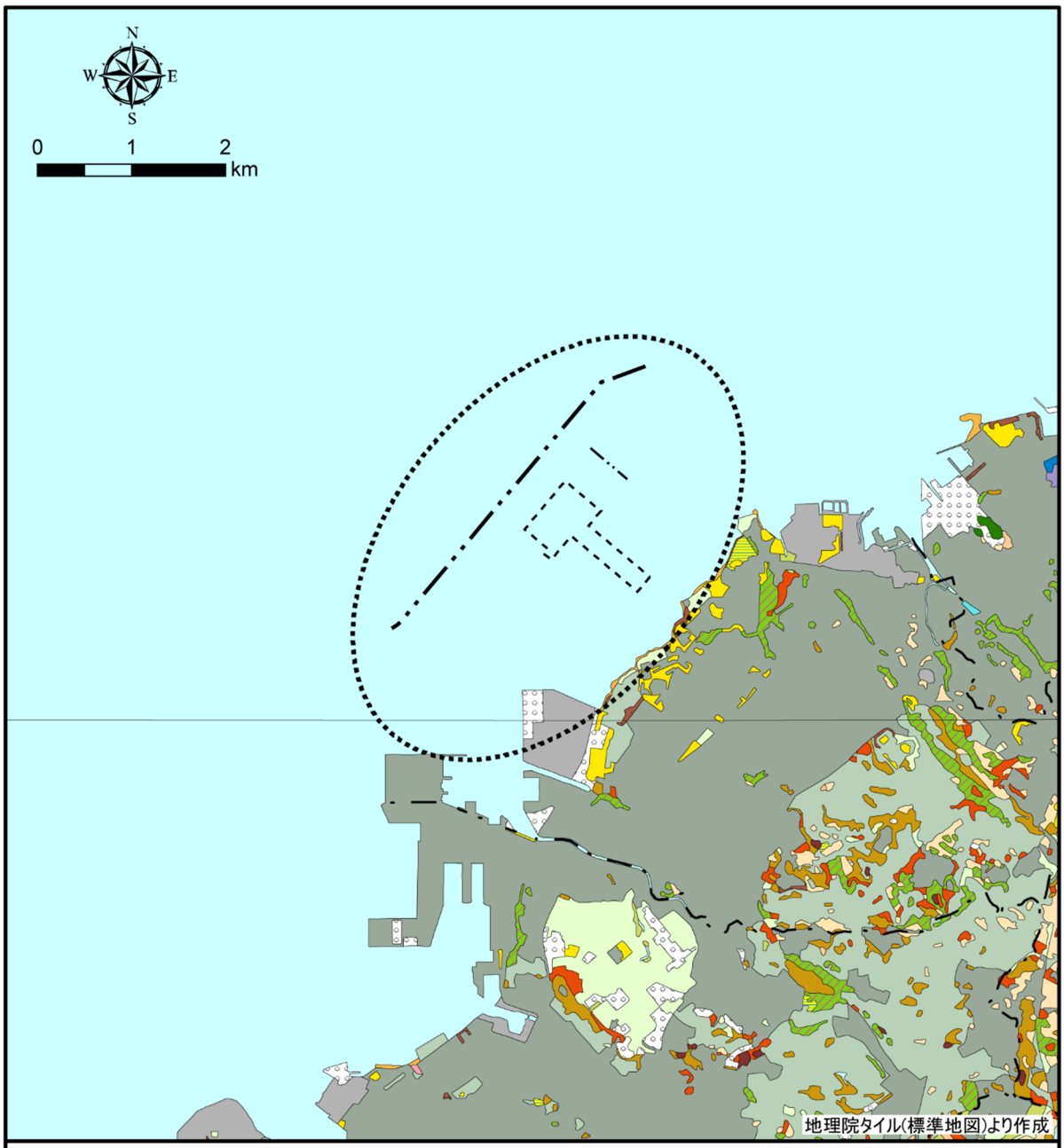
国指定天然記念物では、「首里金城の大アカギ」が、市指定天然記念物では「屋富祖の御願所のガジュマル」、「内間の大アカギ」及び「大謝名メーヌカー淡水紅藻」が分布している。

また、「自然環境保全基礎調査（第 2,3,5 回） 特定植物群落調査」及び「自然環境保全基礎調査（第 4,6,7 回） 巨樹・巨木林調査」によると、対象地域には特定植物群落として「那覇市末吉の植生」、「首里金城町の大アカギ群」が、巨樹・巨木林として「アカギ」、「ガジュマル」が分布している。

表 3.1.5-12 特定植物群落等及び巨樹・巨木林一覧（陸域植物）

区分	名称	所在地
国指定天然記念物	首里金城の大アカギ	那覇市首里金城町 3
市指定天然記念物	屋富祖の御願所のガジュマル	浦添市屋富祖 2-25
市指定天然記念物	内間の大アカギ	浦添市内間 3-28
市指定天然記念物	大謝名メーヌカー淡水紅藻	宜野湾市大謝名 5-11
特定植物群落	那覇市末吉の植生	那覇市末吉
特定植物群落	首里金城町の大アカギ群	那覇市首里金城町
巨樹・巨木林	アカギ（6 本） ※特定植物群落の「首里金城町の大アカギ群」に存在	那覇市末吉
巨樹・巨木林	ガジュマル	那覇市

出典：文化財課要覧（令和 5 年度版）（令和 6 年 3 月更新 沖縄県教育庁文化財課）
自然環境保全基礎調査(第 2,3,5 回) 特定植物群落調査（環境省自然環境局生物多様性センターHP（自然環境調査 Web-GIS））
自然環境保全基礎調査(第 4,6,7 回) 巨樹・巨木林調査（環境省自然環境局生物多様性センターHP（巨樹・巨木林データベース））



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

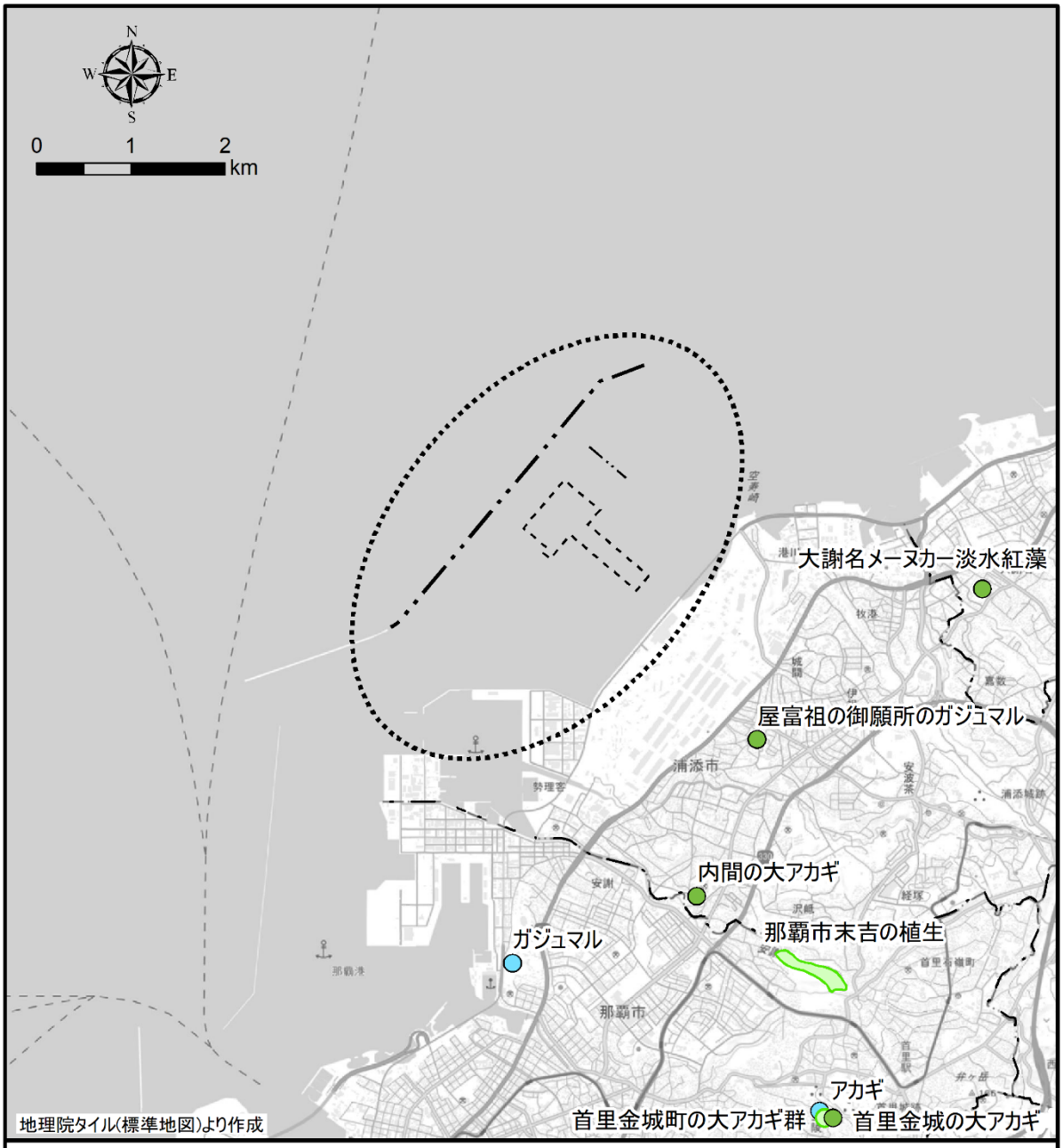
市町村界

ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団
アダン群団
ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落
ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林)
リュウキュウマツ群落(VII)
ナガバカニクサーススキ群団
ヨシクラス
ギンネム群落
モクマオウ類植林
ソウシジュ植林
ゴルフ場・芝地

牧草地
路傍・空地雑草群落
放棄畑雑草群落
畑雑草群落
水田雑草群落
放棄水田雑草群落
市街地
緑の多い住宅地
工場地帯
造成地
開放水域
自然裸地

出典：第 6 回・第 7 回　自然環境保全基礎調査　植生調査（平成 11～16 年度、平成 17 年度～）
（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

図 3.1.5-1　現存植生図



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 指定天然記念物
- 特定植物群落
- 巨樹・巨木林

出典：令和５年度版　文化財課要覧
（令和６年３月更新　沖縄県教育庁文化財課）
第３回　自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査（昭和 59～61 年度）
（環境省自然環境局生物多様性センターHP）
第６回　自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木林調査（平成 11、12 年度）
（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

図 3.1.5-2　重要な植物群落等及び巨樹・巨木林の分布図（陸域）

(3) その他、生物の生息・生育環境

1) 藻場

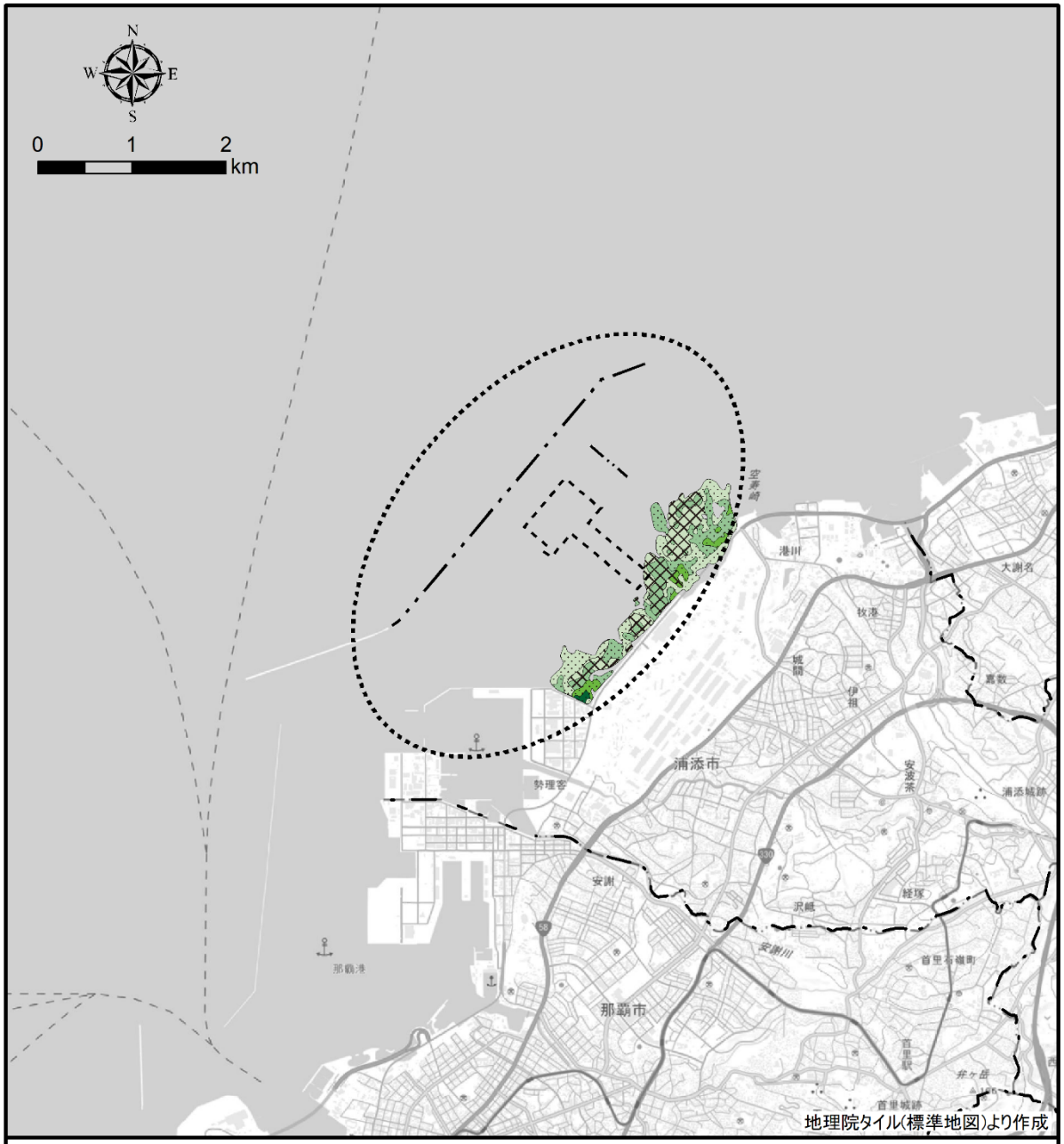
対象地域の藻場の分布状況は、図 3.1.5-3 に示すとおりである。

対象地域における藻場は、事業実施想定区域の浅海域に生育しており、一部に被度30～50%、50%以上の範囲が分布している。

2) 干潟

対象地域の干潟の分布状況は、図 3.1.5-4 に示すとおりである。

対象地域における干潟は、事業実施想定区域の一部に分布している。



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界

藻場

種類

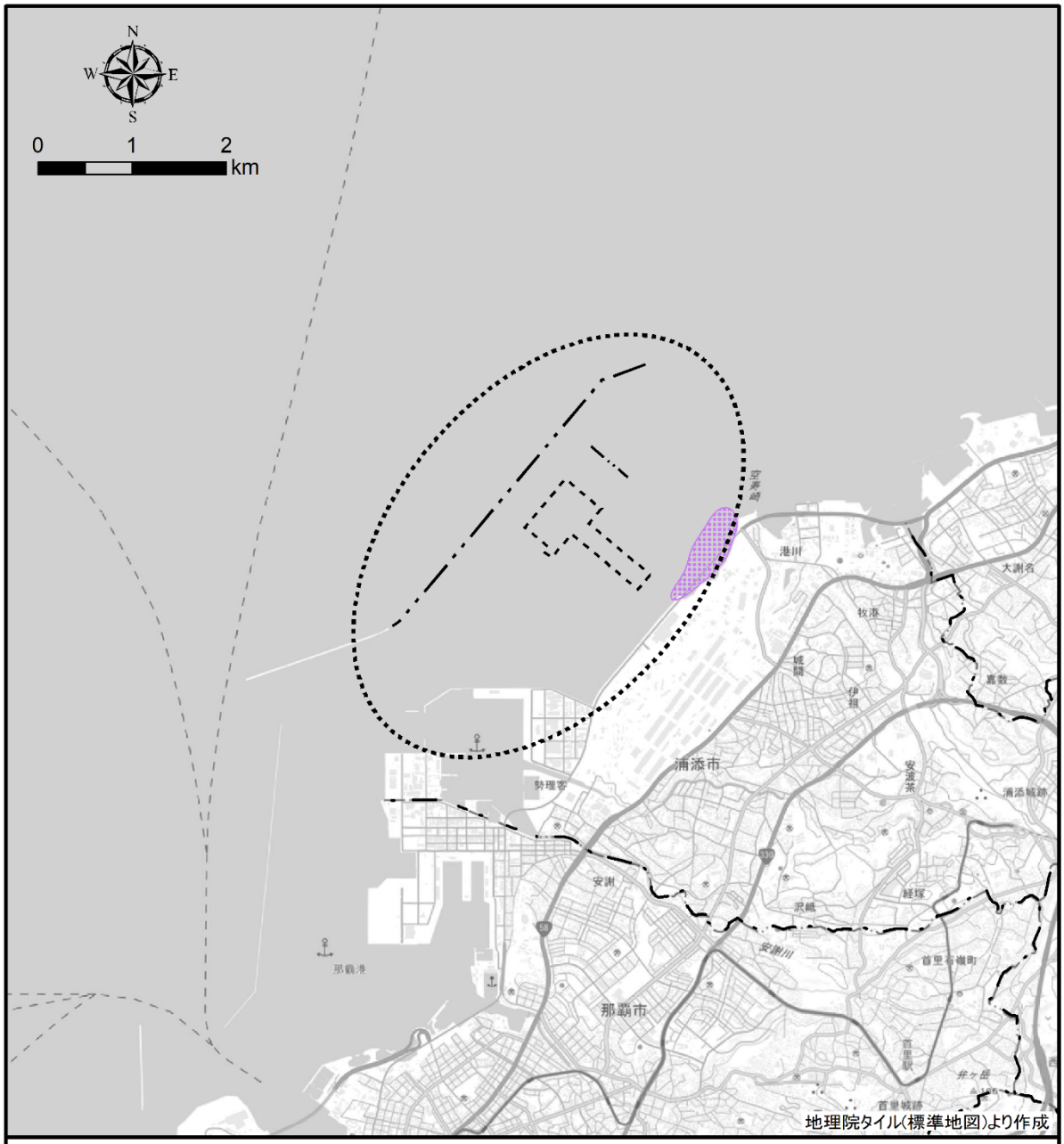
- ホンダワラ類
- 海草類
- 海草類、 ホンダワラ類の混生

被度

- 被度 10% 未満
- 被度 10% 以上～ 30% 未満
- 被度 30% 以上～ 50% 未満
- 被度 50% 以上

出典：那覇港港湾計画資料（その２）（令和５年　那覇港管理組合）

図 3.1.5-3　藻場分布図



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

干潟

出典：第 5 回自然環境保全基礎調査　干潟調査（平成 9～13 年度）
（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

図 3.1.5-4　干潟分布図

3) サンゴ礁

サンゴ礁の分布状況は、表 3.1.5-13 に示す文献により把握した。

(a) 事業実施想定区域の周辺海域における状況

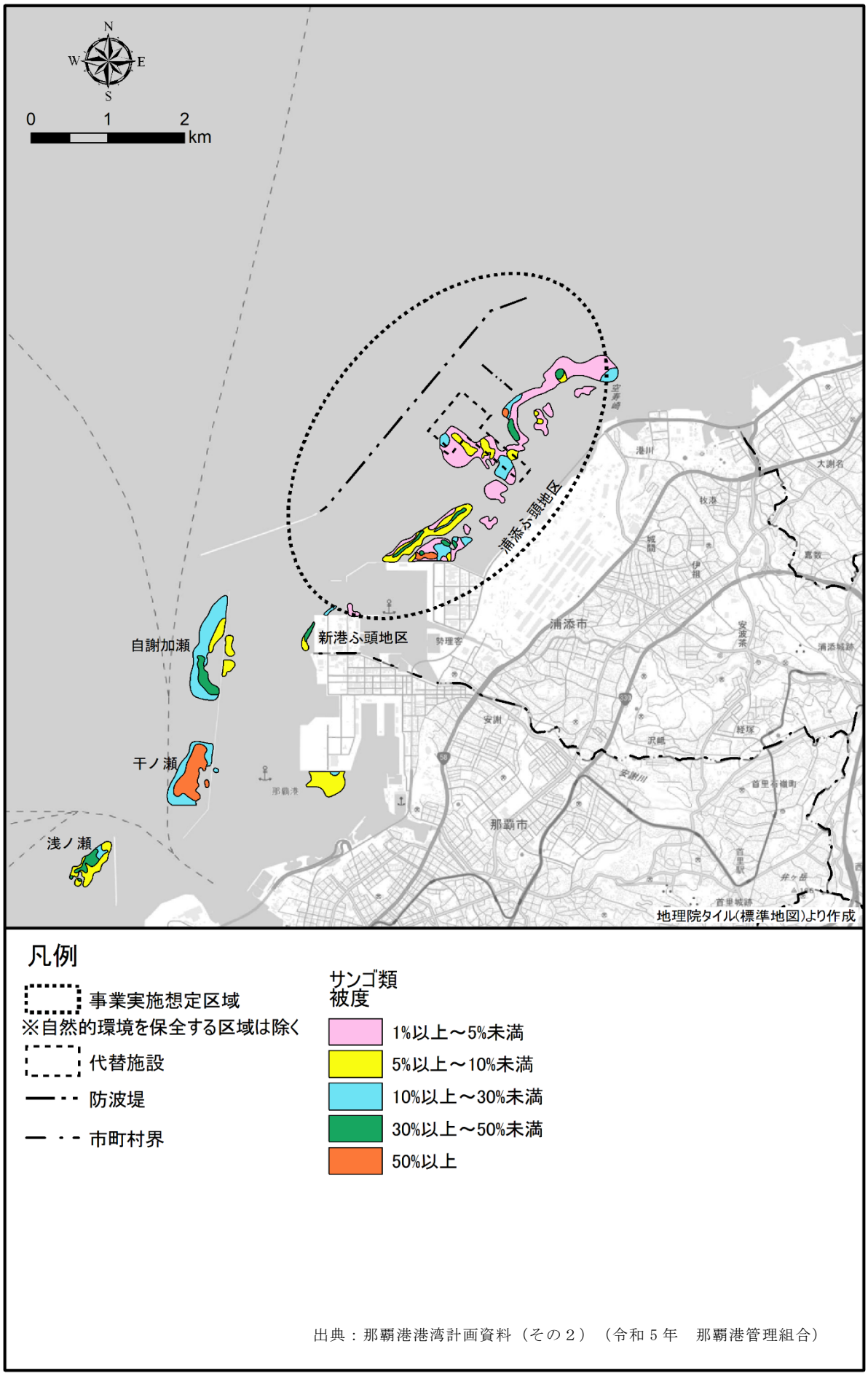
事業実施想定区域の周辺海域では、那覇港港湾区域内でサンゴ類の分布調査が実施されており(文献 1)、対象地域のサンゴ礁の分布状況は図 3.1.5-5 に示すとおりである。

事業実施想定区域の北東側は被度 5%未満の範囲が分布しており、一部に被度 30～50%、50%以上の範囲が分布している。南西側は礁縁部に 30～50%の範囲が分布しているほか、礁池内に被度 50%以上の範囲が分布している。防波堤の沖側の自謝加瀬、干ノ瀬、浅ノ瀬は、サンゴ類の被度が高く、特に干ノ瀬では、被度 50%以上の範囲が分布している。

表 3.1.5-13 文献一覧（サンゴ礁）

番号	文献名	発行元	発行年
1	那覇港港湾計画資料(その２)	那覇港管理組合	令和5(2023)年
2	日本のサンゴ礁	環境省・日本サンゴ礁学会	平成16(2004)年
3	モニタリングサイト1000　サンゴ礁調査[注]	環境省	令和2(2020)年
4	モニタリングサイト1000　サンゴ礁調査報告書(2007年度～2022年度)	環境省自然環境局生物多様性センター	平成19(2008)年～令和5(2023)年
5	川越久史(2017)　モニタリングサイト 1000 からみた 2016 年のサンゴの大規模白化. 日本サンゴ礁学会誌.19: 21-28	日本サンゴ礁学会誌	平成 29(2017)年

注：松本毅、興克樹、長田智史、岩尾研二、梶原健次、吉田稔、木村匡、上野光弘、佐々木哲朗、清本正人、須之部友基、平林勲、目崎拓真、出羽真一、出羽尚子、野島哲提供(2020)。SAN01.zip, http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index.html よりダウンロード



出典：那覇港港湾計画資料（その２）（令和５年　那覇港管理組合）

図 3.1.5-5　サンゴ礁分布図

(b) 事業実施想定区域の周辺海域及び近隣海域におけるサンゴ生息状況の変遷

平成 16（2004）年度から環境省による「モニタリングサイト 1000　サンゴ礁調査」が、図 3.1.5-6 に示す地点で継続的に実施されている。ここでは、事業実施想定区域の周辺海域及びその近隣海域について（対象とする地域は図 3.1.5-6 参照）、地点の概要及びサンゴ被度の変遷を表 3.1.5-14 に整理した。なお、各調査地点におけるサンゴ被度は、表 3.1.5-15 に示したサンゴ被度ランクに変換して示している。

平成 10 年（1998）年に高水温のため起こった大規模白化により、沖縄本島周辺のサンゴは劇的に減少したため（文献 2）、平成 16（2004）年は、大規模白化現象の影響が残り、極めて不良な状態であった。その後、平成 24（2012）年までサンゴ被度は増加傾向となったが、平成 25（2013）年から減少傾向に転じた。平成 28（2016）年、平成 29（2017）年は大規模白化現象が発生し、八重山諸島でサンゴへの大きな影響がみられたが、沖縄島周辺では、白化現象に伴う被害は軽微であった（文献 5）。令和 2（2020）年から事業実施想定区域の周辺海域におけるサンゴ被度は増加傾向にあり、令和 4（2022）年のデータでは、最も被度が高い状況にある。

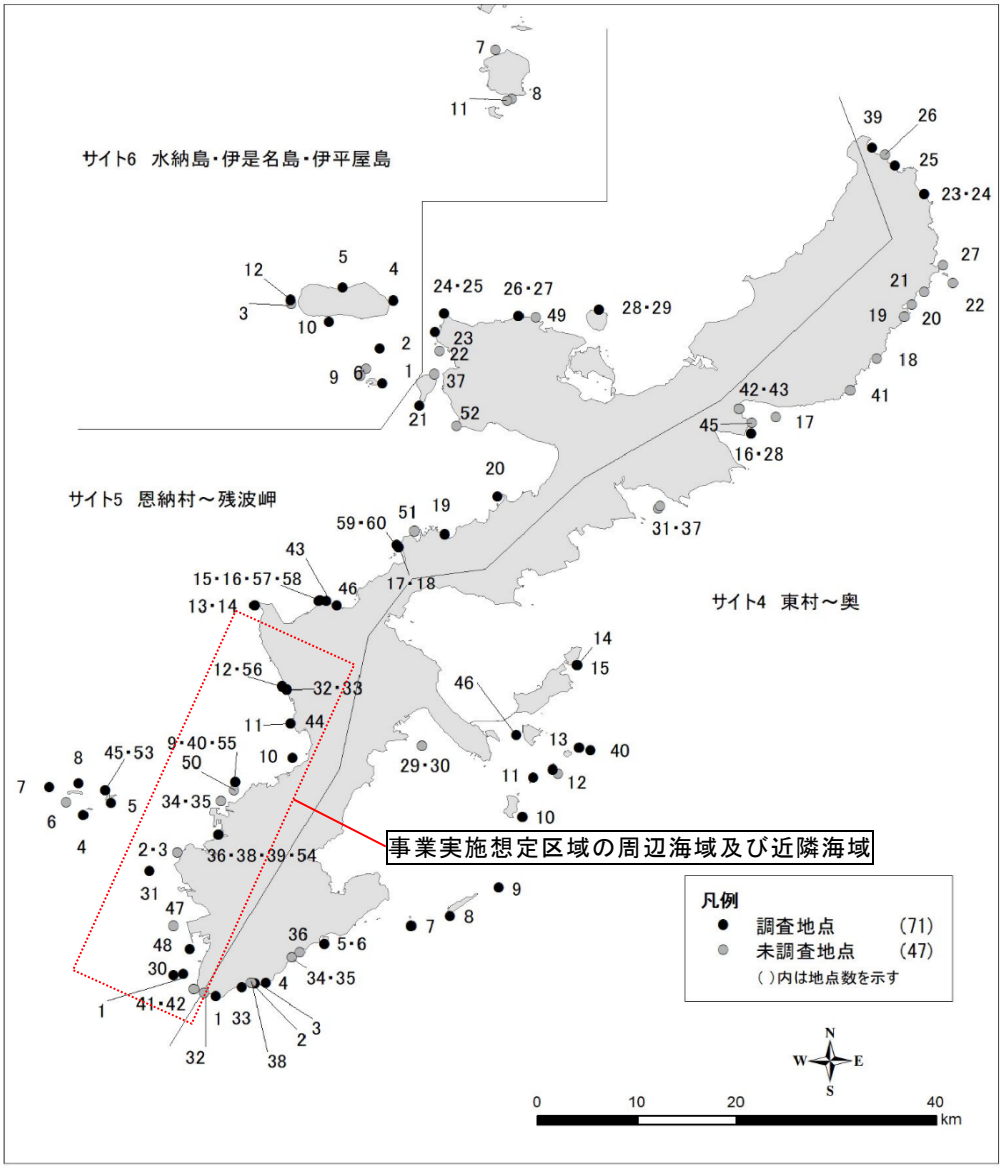


図 3.1.5-6　モニタリングサイト 1000　サンゴ礁調査　調査地点（2022 年）

表 3.1.5-14　事業実施想定区域の周辺海域及び近隣海域におけるサンゴ生息状況の変遷

サイト５：沖縄島西岸			調査年度																		
調査地No.		調査地名	H16 2004年	H17 2005年	H18 2006年	H19 2007年	H20 2008年	H21 2009年	H22 2010年	H23 2011年	H24 2012年	H25 2013年	H26 2014年	H27 2015年	H28 2016年	H29 2017年	H30 2018年	H31/R01 2019年	R02 2020年	R03 2021年	R04 2022年
調査定点	地点1	喜屋武漁港西(礁斜面)	2	3	3	3	3	4	3	3	3	3	2	2	4	3	3	3	4	4	3
	地点9	空寿崎西(座礁船)	1	2	2	3	2	3	2	2	3	3	2	2	2	2	3	2	3	4	5
	地点10	伊佐西	1	3	3	3	3	4	3	3	4	2	2	2	2	3	2	3	4	4	4
	地点12	渡久地西	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	3	3
	地点13	残波岬西(礁池)	－	3	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2
	地点31	大嶺崎大瀬	－	－	－	3	3	4	4	2	3	2	2	2	2	3	2	2	4	3	4
	地点33	水釜(礁斜面)	－	－	－	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
	地点44	砂辺	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	3	3	3	4
自主調査地点	地点11	北谷町宮城海岸	2	2	3	3	4	3	2	3	3	3	2	2	2	－	－	－	－	－	－
	地点14	残波岬西(礁斜面)	1	1	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3
	地点30	喜屋武漁港西トコマサリ礁	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4
	地点32	水釜	－	－	－	3	3	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
	地点34	西洲(礁池)	－	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	地点40	ジャナセ	－	－	－	－	－	－	4	－	2	2	－	2	2	2	3	－	3	4	4
	地点48	糸満港クラントガイ北(礁池)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5	－	4	－	4	4
	地点55	イナンビシ西	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4
	地点56	冨着チンバムグムイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4

注：データファイル「モニタリング 1000 サンゴ礁調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査報告書(2007 年度～2022 年度)（環境省）より作成

表 3.1.5-15　サンゴ被度の区分ランク

ランク	サンゴ被度の範囲	評価
5	80%以上	優良
4	50%以上80%未満	良
3	30%以上50%未満	やや不良
2	10%以上30%未満	不良
1	10%未満	極めて不良

出典：2022 年度 モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査 報告書（環境省）

4）動物プランクトン

動物プランクトンの生息状況は、表 3.1.5-16 に示す文献により把握した。

事業実施想定区域の周辺海域では、那覇港港湾区域内で動物プランクトンの調査が実施されており、対象地域の動物プランクトンの生息状況は表 3.1.5-17 に示すとおりである。

事業実施想定区域には 69～113 種の動物プランクトンが生息している可能性が考えられる。

表 3.1.5-16　文献一覧（動物プランクトン）

番号	文献名	発行元	発行年
1※	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書	浦添市土地開発公社	-
2	那覇港港湾計画資料（その 2）	那覇港管理組合	令和 5 年

※:那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業に係る環境影響評価方法書（令和 5 年 12 月　浦添市土地開発公社、那覇港管理組合）より引用した。

表 3.1.5-17　動物プランクトン調査結果概要

分類	項目		生息状況確認資料[注1]					
			出典 1				出典 2	
動物プランクトン	調査時期		冬季	春季	夏季	秋季	夏季	冬季
	沈殿量（mL/m³）		1.81	0.74	1.03	1.02	—	—
	種類数[注2]	軟体動物門	3	3	3	4	4	3
		節足動物門	58	75	54	75	85	91
		脊索動物門	3	4	5	3	12	5
		そ　の　他	5	9	10	7	12	10
		合　　計	69	91	72	89	113	109
	個体数（個体/m³）	軟体動物門	196	330	446	333	830	14
		節足動物門	2,278	6,490	4,000	5,968	8,333	258
		脊索動物門	33	68	30	209	446	16
		そ　の　他	357	175	590	182	303	14
		合　　計	2,864	7,062	5,066	6,693	9,913	301
	個体数組成比（%）	軟体動物門	6.8	4.7	8.8	5.0	8.4	4.5
		節足動物門	79.5	91.9	79.0	89.2	84.1	85.6
		脊索動物門	1.2	1.0	0.6	3.1	4.5	5.3
		そ　の　他	12.5	2.5	11.6	2.7	3.1	4.6
	主な出現種[注3]と個体数（個体/m³） （　）内は組成比（%）		*Oithona* spp.　(copepodite) 705（24.6） Copepoda　(nauplius) 586（20.5） Polychaeta　(larva) 352（12.3）	Copepoda　(nauplius) 2,627（37.2） *Oithona* spp.　(copepodite) 1,854（26.3） *Oithona oculata* 783（11.1）	Copepoda　(nauplius) 1,409（27.8） Cirripedia　(nauplius) 710（14.0） *Oithona* spp.　(copepodite) 609（12.0） Polychaeta　(larva) 579（11.4）	Copepoda　(nauplius) 1,800（26.9） Cirripedia　(nauplius) 932（13.9） Paracalanidae (copepodite) 928（13.9）	Paracalanidae 2,513（25.3） *Oithona simplex* 1,411（14.2） Oithonidae 1,201（12.1）	Copepoda　(nauplius) 40（13.2） Paracalanidae 34（11.3） Oithonidae 34（11.3）

注 1：表中の出典番号は、表 3.1.5-16 の番号に対応する。
注 2：種類数は総出現種類数を示す。
注 3：主な出現種は各調査地点で組成比 10%以上のものを示した。

5) 植物プランクトン

植物プランクトンの生育状況は、表 3.1.5-18 に示す文献により把握した。

事業実施想定区域の周辺海域では、那覇港港湾区域内で植物プランクトンの調査が実施されており、対象地域の植物プランクトンの生育状況は表 3.1.5-19 に示すとおりである。

事業実施想定区域には 42～89 種の植物プランクトンが生育している可能性が考えられる。

表 3.1.5-18　文献一覧（植物プランクトン）

番号	文献名	発行元	発行年
1※	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書	浦添市土地開発公社	-
2	那覇港港湾計画資料（その 2）	那覇港管理組合	令和 5 年

※:那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業に係る環境影響評価方法書（令和 5 年 12 月　浦添市土地開発公社、那覇港管理組合）より引用した。

表 3.1.5-19　植物プランクトン調査結果概要

分類	項目		生育状況確認資料[注1]					
			出典 1				出典 2	
植物プランクトン	調査時期		冬季	春季	夏季	秋季	夏季	冬季
	沈殿量（mL/L）		0.05	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01
	種類数[注2]	渦鞭毛藻綱	14	19	15	15	10	17
		珪　藻　綱	34	42	42	30	26	66
		そ　の　他	7	8	8	9	6	6
		合　　計	55	69	65	54	42	89
	細胞数（細胞/L）	渦鞭毛藻綱	987	2,853	2,440	4,887	2,060	706
		珪　藻　綱	12,393	18,527	32,247	7,053	18,448	4,680
		そ　の　他	11,500	22,873	4,380	9,840	629	2,281
		合　　計	24,880	44,253	39,067	21,780	21,137	7,667
	細胞数組成比（%）	渦鞭毛藻綱	4.0	6.4	6.2	22.4	9.7	9.2
		珪　藻　綱	49.8	41.9	82.5	32.4	87.3	61.0
		そ　の　他	46.2	51.7	11.2	45.2	3.0	29.8
	主な出現種[注3]と細胞数（細胞/L） （　）内は組成比率（%）		unidentified flagellates 5,860（23.6） Pennales 4,540（18.2） Cryptomonadales 4,273（17.2） *Nitzschia* sp. 2,747（11.0）	unidentified flagellates 17,933（40.5） *Chaetoceros sociale* 6,780（15.3）	*Skeletonema costatm* Sensu lato 16,127（41.3）	unidentified flagellates 5,180（23.8）	*Nitzschia* sp. (chain formation) 13,146（62.2）	Cryptomonadales 764（10.0）

注 1：表中の出典番号は、表 3.1.5-18 の番号に対応する。
注 2：種類数は総出現種類数を示す。
注 3：主な出現種は各調査地点で組成比 10%以上のものを示した。

6) 魚卵・稚仔魚

魚卵・稚仔魚の生息状況は、表 3.1.5-20 に示す文献により把握した。

事業実施想定区域の周辺海域では、那覇港港湾区域内で魚卵・稚仔魚の調査が実施されており、対象地域の魚卵・稚仔魚の生息状況は表 3.1.5-21～表 3.1.5-22 に示すとおりである。

事業実施想定区域には 12～33 種の魚卵、5～88 種の稚仔魚が生息している可能性が考えられる。

表 3.1.5-20　文献一覧（魚卵・稚仔魚）

番号	文献名	発行元	発行年
1※	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書	浦添市土地開発公社	-
2	那覇港港湾計画資料（その２）	那覇港管理組合	令和 5 年

※:那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業に係る環境影響評価方法書（令和 5 年 12 月　浦添市土地開発公社、那覇港管理組合）より引用した。

表 3.1.5-21　魚卵調査結果概要

分類	項目	生息状況確認資料[注1]					
		出典 1				出典 2	
魚卵	調査時期	冬季	春季	夏季	秋季	夏季	冬季
	種類数[注2]	12	27	24	24	33	12
	個　数[注3]	341	1,235	2,196	450	4,764	767
	主な出現種[注4]と個数 （　）内は組成比率(%)	ブダイ科 A 246（72.1） 単脂球形卵　0.65～0.69㎜ 35（10.3）	ブダイ科 A 927（75.0）	ブダイ科 A 747（34.0） 単脂球形卵　0.50～0.54㎜ 476（21.7） 単脂球形卵　0.60～0.64㎜ 439（20.0） 単脂球形卵　0.55～0.59㎜ 231（10.5）	ブダイ科 A 121（27.0） 単脂球形卵　0.60～0.64㎜ 121（26.9） 無脂不整球形卵 0.80～0.90㎜×0.72～0.78㎜ 80（17.8）	単脂球形卵　0.54～0.58㎜ 1,335（28.0） カタクチイワシ科 1,141（24.0） ブダイ科 791（16.6）	ブダイ科 635（82.8）

注 1：表中の出典番号は、表 3.1.5-20 の番号に対応する。
注 2：種類数は総出現種類数を示す。
注 3：個数の単位　出典 1「個/150 ㎥」、出典 2「個/曳網」
注 4：主な出現種は各調査地点で組成比 10%以上のものを示した。
注 5：不明卵に付した数値は卵径範囲を示す。

表 3.1.5-22　稚仔魚調査結果概要

分類	項目	生息状況確認資料[注1]					
		出典 1				出典 2	
稚仔魚	調査時期	冬季	春季	夏季	秋季	夏季	冬季
	種類数[注2]	51	88	42	38	18	5
	個体数[注3]	108	195	54	29	50	20
	主な出現種[注4]と個数 （　）内は組成比率(%)	ヘビギンポ科 A 50（45.8） ハゼ科 A 13（11.6） ハゼ科 D 12（10.6）	ヘビギンポ科 B 23（11.6） ハゼ科 A 22（11.5） ハゼ科 C 20（10.5）	不明ふ化仔魚 23（41.9） ハゼ科 J 7（12.2）	ヘビギンポ科 A 6（21.1） スズメダイ科 F 3（11.2） トウゴロウイワシ科 B 3（10.5）	トウゴロウイワシ科 12（24.2） イソギンポ科 11（21.7） スズメダイ科 7（13.7）	トウゴロウイワシ科 15（72.5）

注 1：表中の出典番号は、表 3.1.5-20 の番号に対応する。
注 2：種類数は総出現種類数を示す。
注 3：個体数の単位　出典 1「個体/150 ㎥」、出典 2「個体/曳網」
注 4：主な出現種は各調査地点で組成比 10%以上のものを示した。

3.1.6 生態系

(1) 陸域生態系

1) 環境類型区分

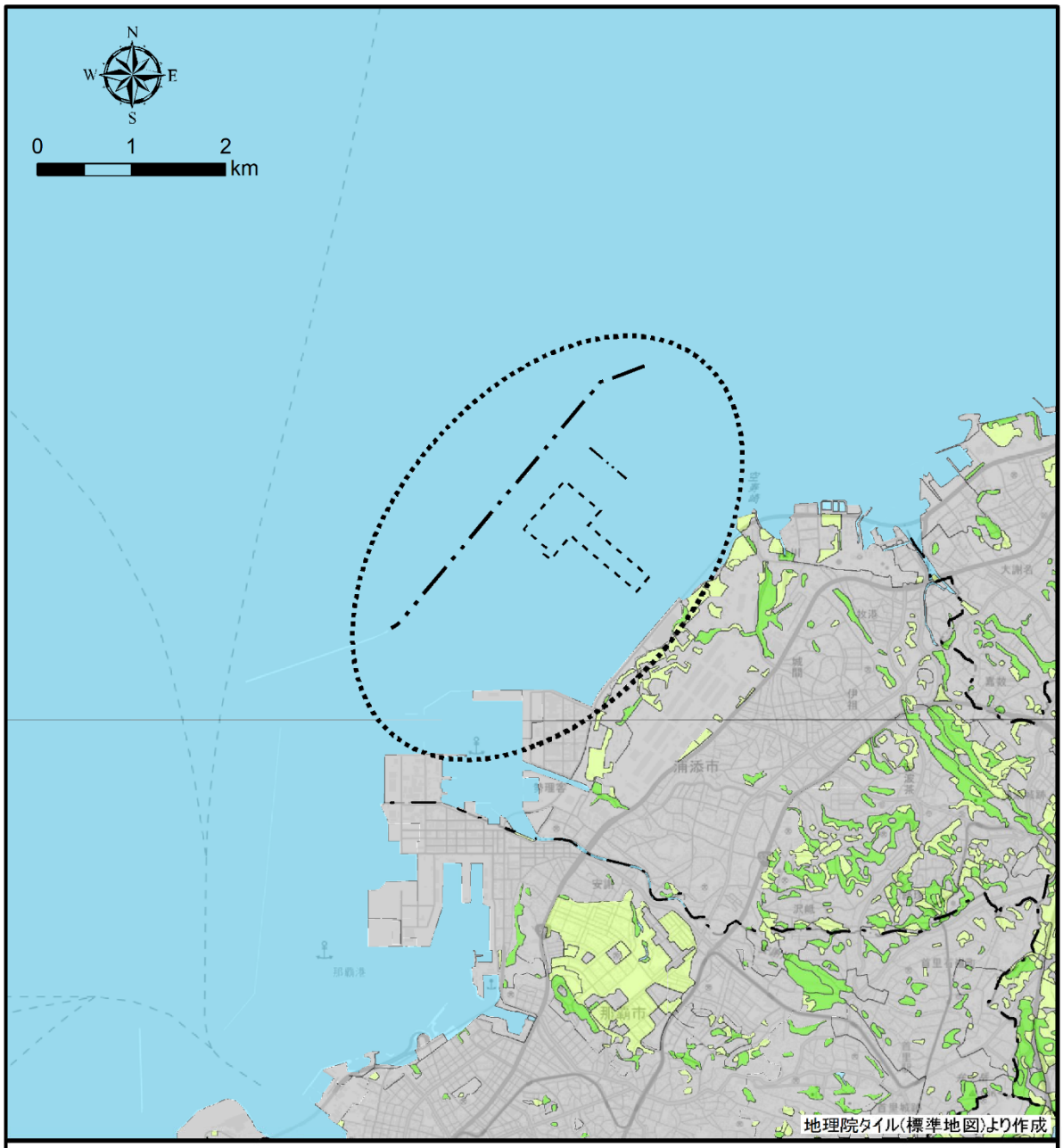
対象地域における陸域生態系の環境類型区分は、表 3.1.6-1 及び図 3.1.6-1 に示すとおり、「森林」「草地」「市街地等」「開放水域」の 4 つの環境類型に区分される。

対象地域においては「市街地等」が大部分を占めており、「森林」「草地」が点在している。

表 3.1.6-1 環境類型区分の概要

環境類型区分	植生区分
森林	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団、ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落、ハドノキーウラジロエノキ群団（二次林）、リュウキュウマツ群落、ギンネム群落、モクマオウ類植林、アダン群落、ソウシジュ植林
草地	ナガバカニクサーススキ群団、ヨシクラス、ゴルフ場・芝地、牧草地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、畑雑草群落、水田雑草群落、放棄水田雑草群落
市街地等	市街地、緑の多い住宅地、工場地帯、造成地、自然裸地
開放水域	開放水域

出典：第 6 回・第 7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査（第 6 回：平成 11～16 年度、第 7 回：平成 17 年度～）（環境省自然環境局生物多様性センターHP） ※現存植生図より作成



凡例

- 事業実施想定区域
  ※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 森林
- 草地
- 市街地等
- 開放水域

出典：第 6 回・第 7 回　自然環境保全基礎調査　植生調査
（第 6 回：平成 11～16 年度、第 7 回：平成 17 年度～）
（環境省自然環境局生物多様性センターHP）
※現存植生図より作成

図 3.1.6-1　環境類型区分図（陸域生態系）

2) 注目種、基盤環境の抽出

文献による動物及び植物の確認種の情報を基に作成した対象地域の陸域生態系模式図を図 3.1.6-2、注目種の選定基準を表 3.1.6-2 に示す。

対象地域においては、上位性注目種として、陸域を利用する鳥類（ツミ）、爬虫類（アカマタ）等を選定した。

また、典型性注目種として、哺乳類（ワタセジネズミ）、両生類（ヒメアマガエル、リュウキュウカジカガエル）、昆虫類（マダラバッタ）、陸産貝類（オキナワウスカワマイマイ）等を選定した。

図 3.1.6-2　陸域生態系模式図

表 3.1.6-2　注目種の選定基準

上位性	生態系を形成する動植物種等において栄養段階の上位に位置し、生態系の撹乱や環境変化等の総合的な影響を指標しやすい種が対象となる。
典型性	対象地域の生態系の中で、各類型環境区分内における動植物種等と基盤的な環境あるいは動植物種等の間の相互連関を代表する動植物種等、生態系の機能に重要な役割を担うような動植物種(例えば、生態系の物質循環に大きな役割を果たしている、現存量や占有面積の大きい植物種、個体数が多い動物種等)動植物種等の多様性を特徴づける種、生態遷移を特徴づける種、回遊魚のように異なる生態系間を移動する種等が対象となる。

出典：環境アセスメント技術ガイド生物の多様性・自然との触れ合い（平成 29 年、日本環境アセスメント協会）

(2) 海域生態系

1) 環境類型区分

対象地域における海域生態系の環境類型区分は、表 3.1.6-3 及び図 3.1.6-3 に示すとおり、「サンゴ分布域」、「海草（藻場）」、「岩盤（干出裸岩、沈水裸岩）」、「礫（礫底）」、「砂（砂底、泥底）」の 5 つの環境類型に区分される。

事業実施想定区域及びその周辺においては、主に海岸に沿って「サンゴ分布域」、「海草（藻場）」、「岩盤（干出裸岩、沈水裸岩）」、「砂（砂底）」が分布しており、一部に「礫（礫底）」が分布している。

表 3.1.6-3 環境類型区分の概要

環境類型区分	区分の概要
サンゴ分布域	主に岩盤や礫等の基質に発達したサンゴ類が連続的に分布する場
海草（藻場）	主に砂質域で海草が群落を形成する場
岩盤（干出裸岩、沈水裸岩）	底質に岩盤が広く広がる場
礫（礫底）	底質に礫分が多く混じる場
砂（砂底、泥底）	底質に礫がほとんど混じらない砂質の場

備考：環境アセスメント技術ガイド 生態系 p.257（平成 14 年、自然環境研究センター）を参考に作成

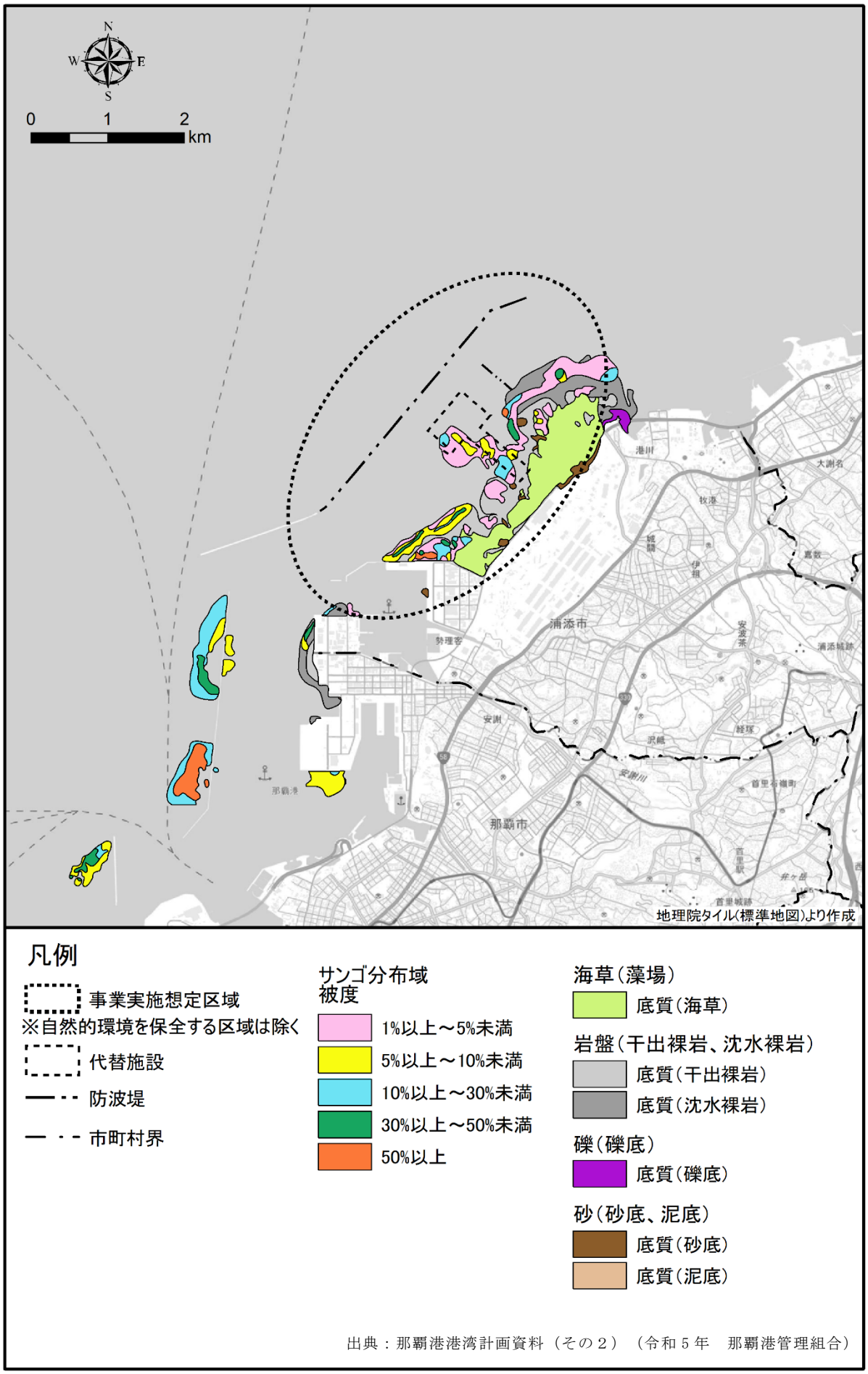


図 3.1.6-3　環境類型区分図（海域生態系）

2) 注目種、基盤環境の抽出

文献による動物及び植物の確認種の情報を基に作成した対象地域の海域生態系模式図は図 3.1.6-4 に示すとおりである(注目種の選定基準については表 3.1.6-2 参照)。

対象地域においては、上位性注目種として、海域を利用する鳥類（ミサゴ、アジサシ類、シギ類、チドリ類）、海中においては魚食性魚類（オキフエダイ、クモウツボ等）を選定した。

また、典型性注目種は、サンゴ分布域、海草（藻場）、岩盤（干出裸岩、沈水裸岩）、礫（礫底）、砂（砂底、泥底）の 5 つの基盤環境ごとに、魚類、甲殻類、貝類、底生生物他、海草藻類、サンゴ類についてそれぞれ選定した。

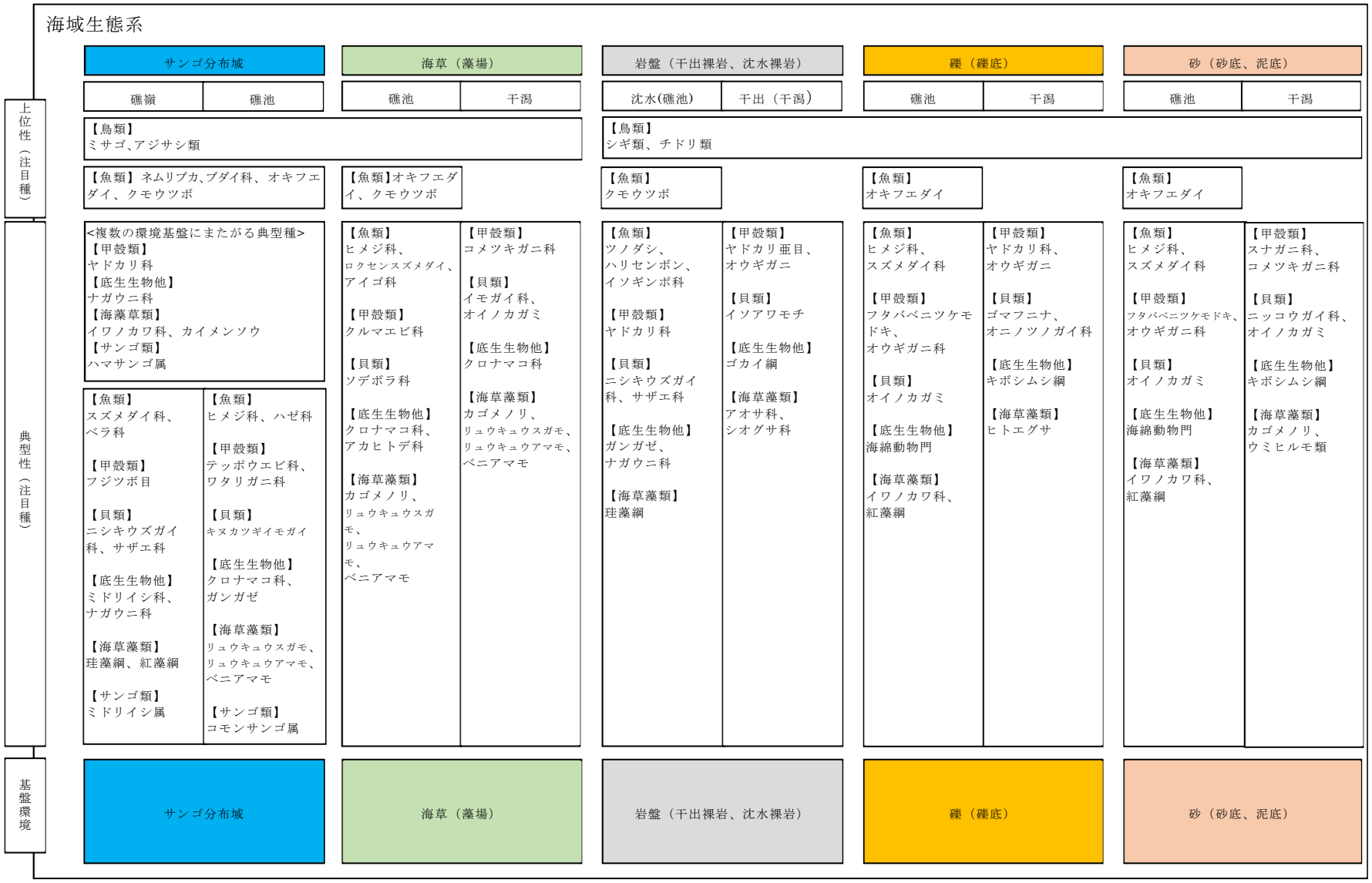


図 3.1.6-4　海域生態系模式図

3.1.7 景観

(1) 景観資源の状況

対象地域の景観資源は表 3.1.7-1 に示す文献により把握した。

景観資源の一覧は、表 3.1.7-2 及び図 3.1.7-1 に示すとおりである。

対象地域において、海域には東シナ海、海岸、サンゴ礁や干潟が分布し、陸域には海成段丘、石灰岩堤や天然記念物の巨樹、名勝の他、緑地、河川・水辺が分布している。

表 3.1.7-1　文献一覧（景観資源）

番号	資料名	発行元	発行年月
1	第3回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図（平成元年）	環境省自然環境局生物多様性センターHP	-
2	第5回自然環境保全基礎調査　藻場･干潟･サンゴ礁調査（平成9～13年度）	環境省自然環境局生物多様性センターHP	-
3	令和5年度版　文化財課要覧	沖縄県教育庁文化財課	令和6年3月
4	浦添市景観まちづくり計画	浦添市美らまち推進課	平成20年3月
5	浦添市環境マップ	浦添市市民部環境保全課HP	-
6	宜野湾市景観計画	宜野湾市建設部都市計画課	平成27年11月
7	那覇市観光資源データベース	那覇市経済観光部観光課HP	-
8	那覇市景観計画	那覇市都市計画部都市計画課都市デザイン室	平成23年5月
9	那覇市公園・緑地配置図	那覇市都市みらい部公園管理課	令和2年12月

表 3.1.7-2　景観資源一覧

番号	景観区分	名称	出典番号
1	地形地質	海成段丘	1
2	地形地質	石灰岩堤	5、6
3	地形地質	ポットホール状地形	5
4	自然景観	干潟	2
5	自然景観	東シナ海、海岸、サンゴ礁	2、5、6
6	自然景観	自然緑地	4
7	河川・水辺	牧港川	4、5
8	河川・水辺	小湾川	4、5
9	河川・水辺	安謝川	4、5
10	河川・水辺	シリン川	4、5
11	河川・水辺	東シナ海・海岸線	6
12	河川・水辺	宇地泊川	6
13	天然記念物（植物）	屋富祖の御願所のガジュマル	3
14	天然記念物（植物）	内間の大アカギ	3
15	天然記念物（植物）	大謝名メーヌカー淡水紅藻	3
16	史跡・名勝	波上	3
17	景勝地（自然）	波の上ビーチ	8
18	緑地	浦添断層崖の緑地	4
19	緑地	シリン川沿いの緑地	4
20	緑地	浦添市南部丘陵地の緑地	4
21	緑地	浦添市南東部の斜面緑地	4
22	緑地	小湾川中流域の斜面緑地	4
23	緑地	（浦添市）河口部の緑地	4
24	緑地	大山湿地	6
25	緑地	斜面緑地（伊佐～大謝名）	6
26	緑地	宇地泊川の河畔林・周辺樹林地	6
27	公園・緑地	天久緑地	8
28	公園・緑地	末吉公園、高平山	7、8
29	公園・緑地	虎頭公園（とぅらじこうえん）	7、8、9
30	公園・緑地	弁ケ岳公園	8、9
31	公園・緑地	首里崎山公園	8、9
32	公園・緑地	首里城公園	8、9
33	公園・緑地	末吉公園及び末吉風致地区	8、9
34	公園・緑地	安謝緑地	8、9
35	公園・緑地	旭ヶ丘公園	8、9
36	公園・緑地	辻・若狭緑地	8、9
37	公園・緑地	若狭公園	8、9

注 1：表中の番号は、図 3.1.7-1 に対応する。
注 2：出典番号は、表 3.1.7-1 に対応する。

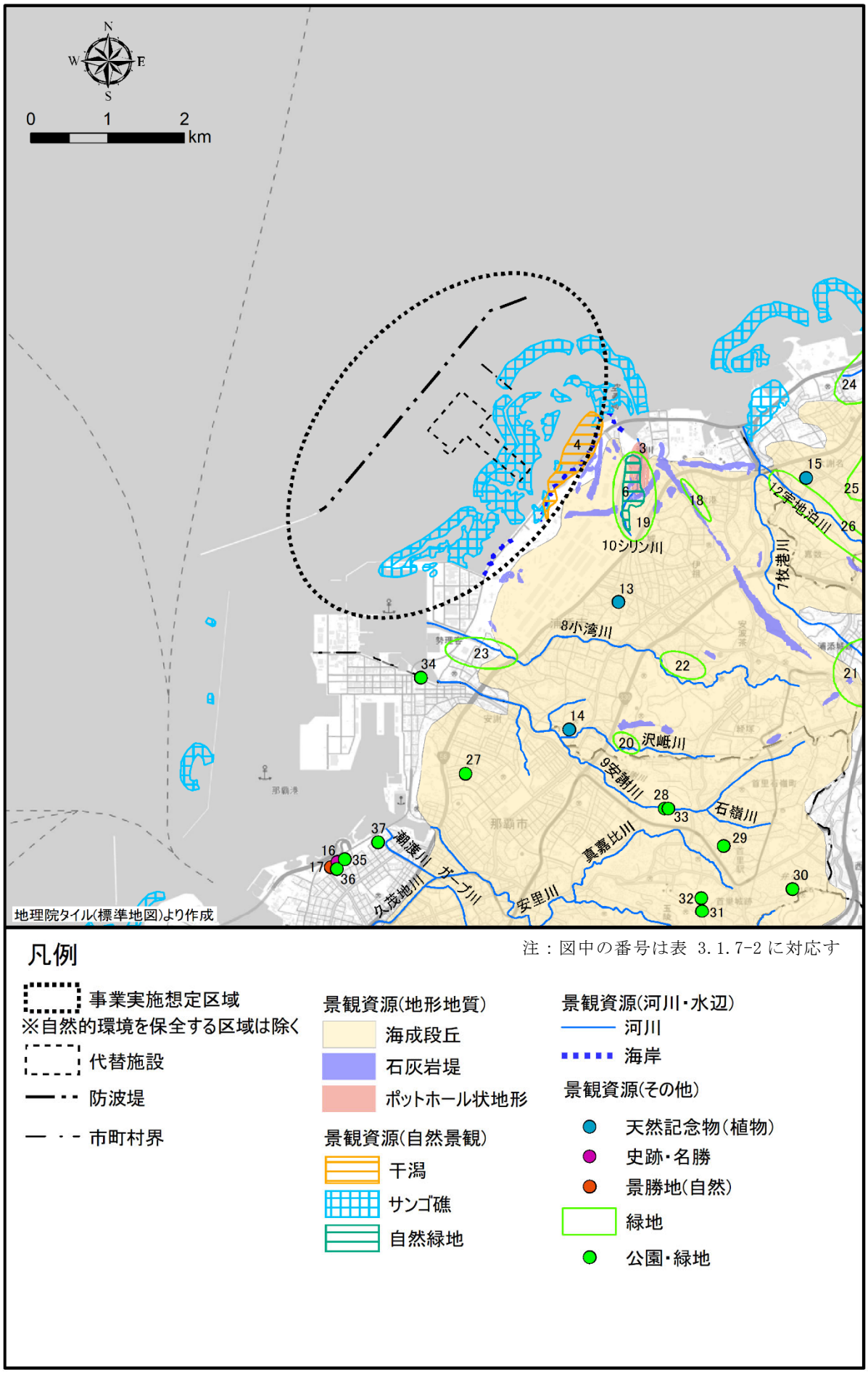


図 3.1.7-1　景観資源の分布図

(2) 主要な眺望点の状況

対象地域の主要な眺望点は、表 3.1.7-3 に示す文献により把握した。

主要な眺望点一覧は、表 3.1.7-4 及び図 3.1.7-2 に示すとおりである。

対象地域には、公園展望台等の 11 箇所が分布し、事業実施想定区域には、「サンエー浦添西海岸　PARCO CITY　展望デッキ」が存在している。

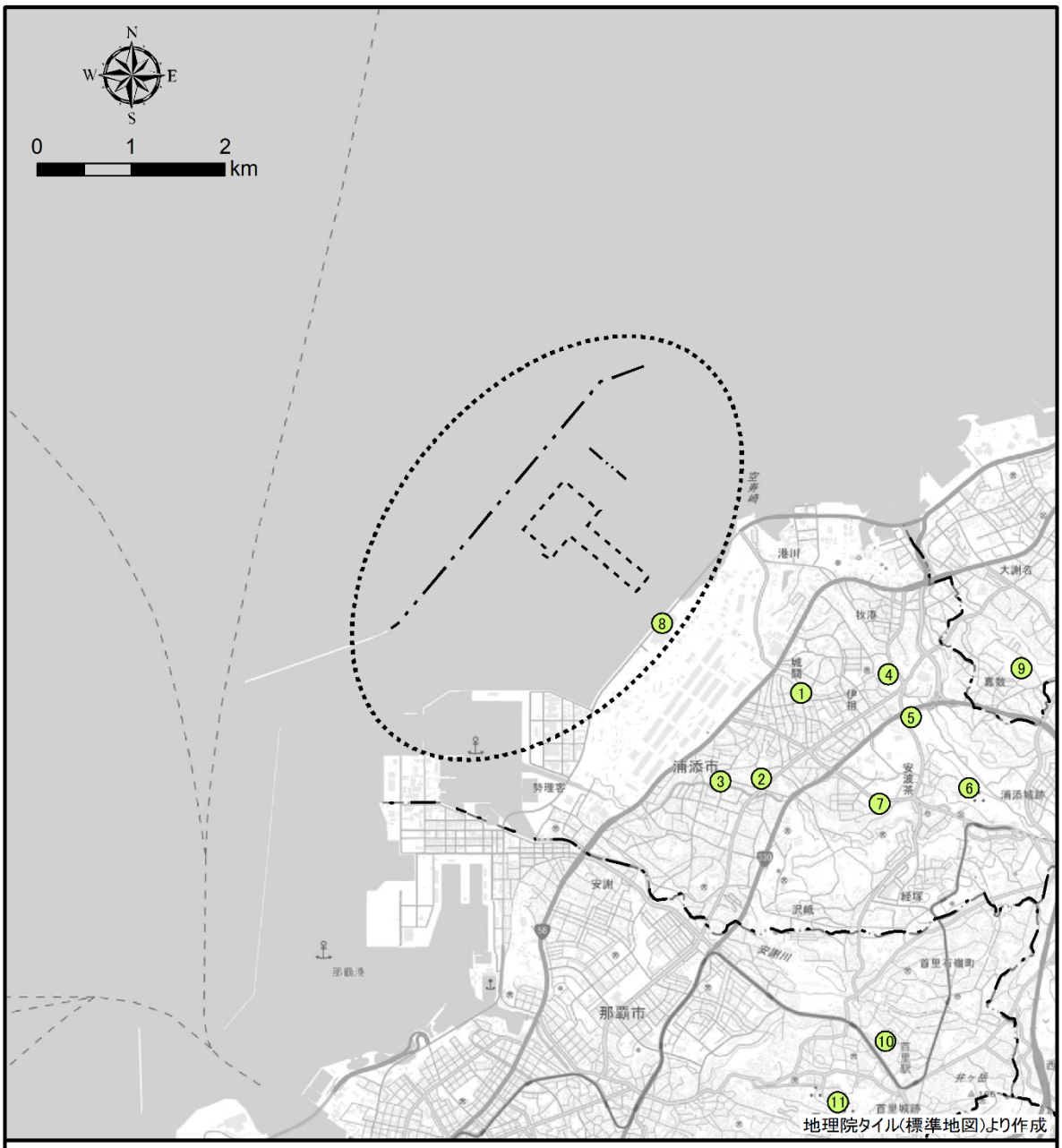
表 3.1.7-3　文献一覧（主要な眺望点）

番号	資料名	発行元	発行年月
1	浦添市環境マップ	浦添市市民部環境保全課 HP	-
2	うらそえナビ	浦添市観光協会 HP	-
3	ぎのわんガイドマップ	宜野湾市市民経済部商工農水課 HP	-
4	宜野湾を巡る	宜野湾市観光振興協会 HP	-
5	那覇市景観計画	那覇市都市計画部都市計画課都市デザイン室	平成 23 年 5 月
6	那覇市観光資源データベース	那覇市経済観光部観光課 HP	-
7	NAHANAVI	那覇市観光協会 HP	-
8	那覇市公式ホームページ	那覇市都市みらい部公園管理課 HP	-

表 3.1.7-4　主要な眺望点一覧

番号	市名	名称	出典番号
1	浦添市	泉小公園の展望台	1
2	浦添市	宮城公園の展望台	1
3	浦添市	ひまわり公園の展望台	1
4	浦添市	伊祖公園の展望台	1
5	浦添市	浦添大公園の展望台	1
6	浦添市	浦添城址（浦添グスク・ようどれ館そば展望広場）	1、2
7	浦添市	浦添市役所(9 階展望フロア)	1
8	浦添市	サンエー浦添西海岸 PARCO CITY 展望デッキ	2
9	宜野湾市	嘉数高台公園展望台	3、4
10	那覇市	虎頭公園の展望台	5、6、8
11	那覇市	首里城（東のアザナ、西のアザナ、広福門広場、京の内）	5、7

注 1：表中の番号は、図 3.1.7-2 に対応する。
注 2：出典番号は、表 3.1.7-3 に対応する。
備考：“アザナ”とは、島言葉で“物見台”を意味する。



凡例

注：図中の番号は表 3.1.7-4 に対応す

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

眺望点

図 3.1.7-2　主要な眺望点の分布図

3.1.8 人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象地域の人と自然との触れ合いの活動の場は、表 3.1.8-1 に示す文献により把握した。

対象地域における人と自然との触れ合いの活動の場は表 3.1.8-2、図 3.1.8-1 に示すとおりである。

対象地域には、釣り・浜遊びや散策・自然観察の場等の 25 箇所が分布し、事業実施想定区域には、「西洲」が存在している。

表 3.1.8-1　文献一覧（人と自然との触れ合いの活動の場）

番号	資料名	発行元	発行年月
1	浦添市環境マップ	浦添市市民部環境保全課 HP	-
2	浦添市ウォーキングマップ	浦添市教育委員会教育部文化スポーツ振興課 HP	-
3	ぎのわんガイドマップ	宜野湾市市民経済部商工農水課 HP	-
4	宜野湾を巡る	宜野湾市観光振興協会 HP	-
5	那覇市観光資源データベース	那覇市経済観光部観光課 HP	-
6	NAHANAVI	那覇市観光協会 HP	-
7	那覇市公式ホームページ	那覇市都市みらい部公園管理課 HP	-
8	浦添市市勢要覧 2018	浦添市	2018 年 3 月
9	ちゅらぶらり（観光サイト/宜野湾市）	宜野湾市 HP	-

表 3.1.8-2　人と自然との触れ合いの活動の場一覧

番号	市名	区分	名称	出典番号
1	浦添市	釣り・浜遊び	牧港漁港	1、8
2	浦添市	釣り・浜遊び	牧港海岸、空寿崎、カーミージー	1、8
3	浦添市	釣り・浜遊び	西洲	1
4	浦添市	散策	シーサー通りを通るコース	2
5	浦添市	散策	内間の大アカギを通るコース	2
6	浦添市	散策	川沿を歩く住宅街コース	2
7	浦添市	散策	サンパークにぎわいコース	2
8	浦添市	散策	58 号線と鳳凰木の並木道コース	2
9	浦添市	散策	ANA SPORTS PARK 浦添を通るコース	2
10	浦添市	散策	伊祖公園の散歩道	1
11	浦添市	散策	浦添大公園の散策路	1
12	浦添市	自然観察	伊祖公園の桜	1
13	浦添市	自然観察	浦添大公園の自然観察林	1
14	浦添市	川遊び	あじさい公園の小湾川に沿った親水護岸	1
15	浦添市	川遊び	内間西公園の安謝川に沿った親水護岸	1
16	宜野湾市	浜遊び	トロピカルビーチ	3、4、9
17	宜野湾市	散策	ぎのわん海浜公園	3、4、9
18	那覇市	浜遊び	波の上ビーチ	5
19	那覇市	散策・自然観察	末吉公園	5、6
20	那覇市	散策・自然観察	虎頭公園	5、7
21	那覇市	散策・自然観察	新都心公園	5
22	那覇市	散策・自然観察	松山公園	6
23	那覇市	散策・自然観察	首里城公園	6
24	那覇市	散策・自然観察	泊港	6
25	那覇市	自然観察	首里金城の大アカギ	5

注 1：表中の番号は、図 3.1.8-1 に対応する。
注 2：出典番号は、表 3.1.8-1 に対応する。

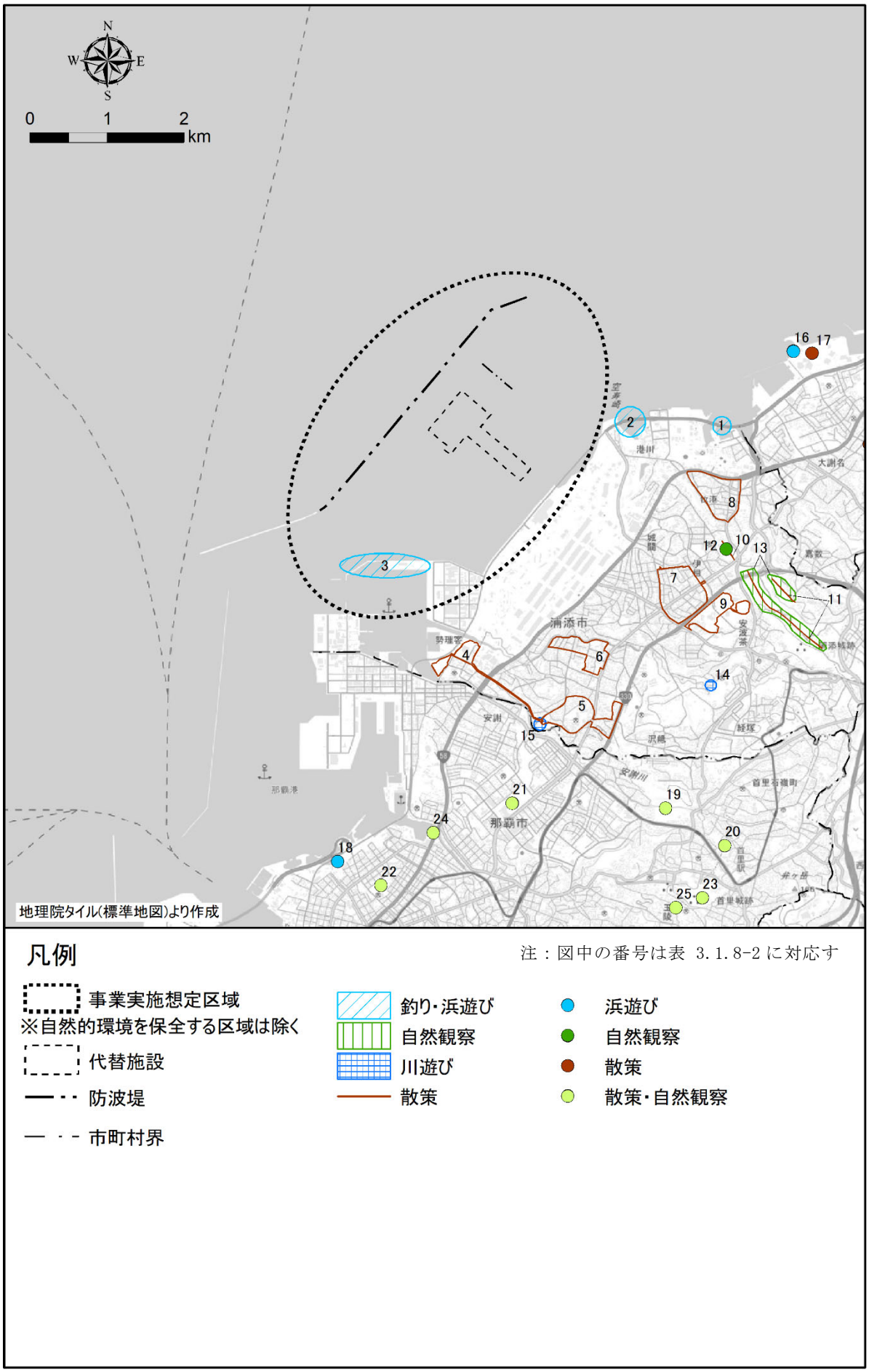


図 3.1.8-1　人と自然との触れ合いの活動の場の分布図

3.1.9 歴史的・文化的環境

(1) 文化財等

対象地域における指定文化財は、表 3.1.9-1 及び図 3.1.9-1 に示すとおりである。

対象地域においては、指定文化財 71 件が分布しているが、事業実施想定区域には存在していない。

表 3.1.9-1(1)　指定文化財一覧

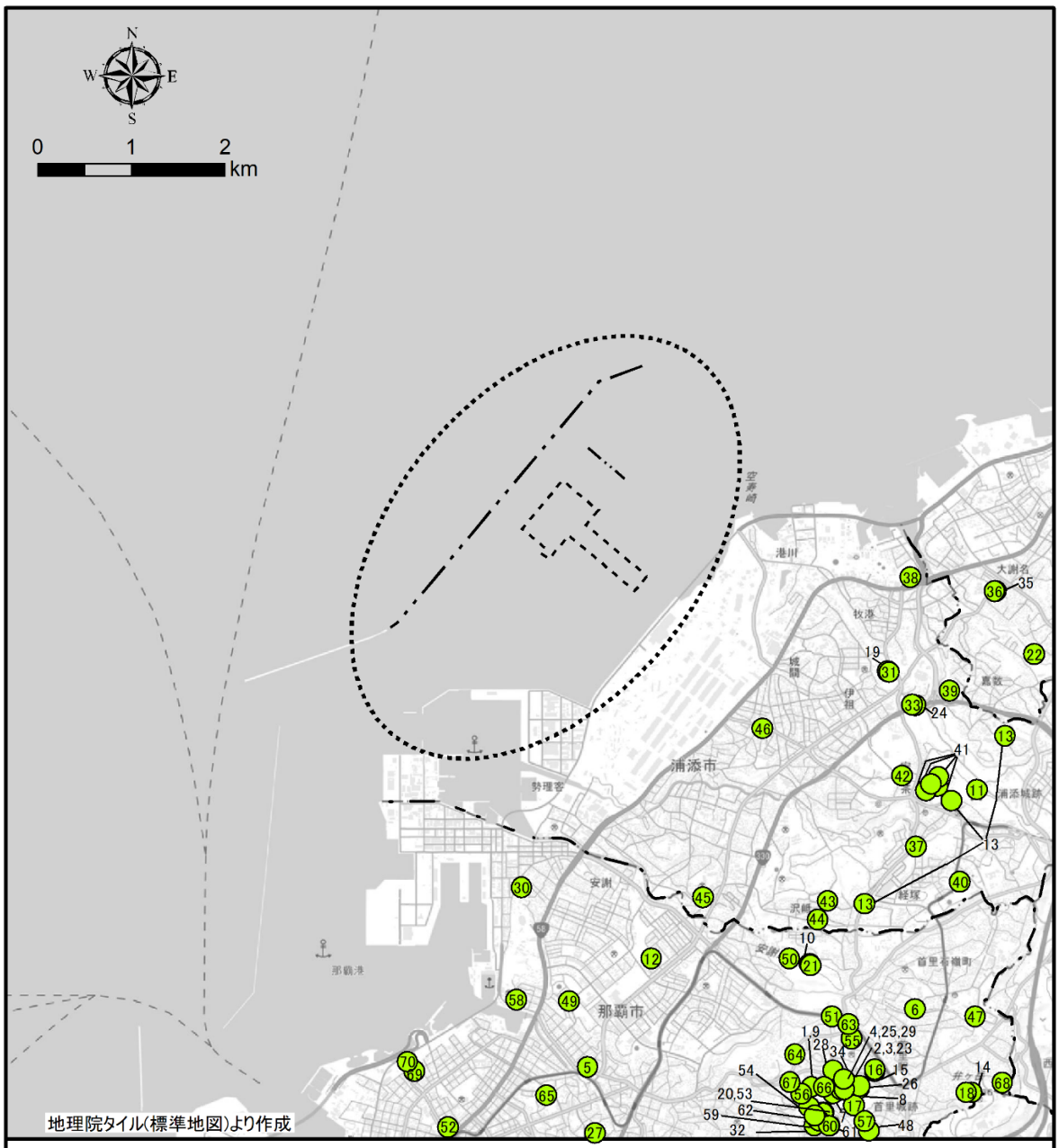
番号	市名	種類	種別	名称
1	那覇市	国指定	国宝(建造物)	玉陵
2	那覇市	国指定	重要文化財(建造物)	旧円覚寺放生橋
3	那覇市	国指定	重要文化財(建造物)	天女橋
4	那覇市	国指定	重要文化財(建造物)	園比屋武御嶽石門
5	那覇市	国指定	重要文化財(建造物)	旧崇元寺第一門及び石牆
6	那覇市	国指定	重要文化財(建造物)	伊江御殿墓
7	那覇市	国指定	記念物(史跡)	首里城跡
8	那覇市	国指定	記念物(史跡)	円覚寺跡
9	那覇市	国指定	記念物(史跡)	玉陵
10	那覇市	国指定	記念物(史跡)	末吉宮跡
11	浦添市	国指定	記念物(史跡)	浦添城跡
12	那覇市	国指定	記念物(史跡)	銘苅墓跡群
13	浦添市	国指定	記念物(史跡)	中頭方西海道及び普天満参詣道
14	那覇市	国指定	記念物(史跡・名勝)	弁之御嶽
15	那覇市	国指定	記念物(名勝)	伊江殿内庭園
16	那覇市	国指定	記念物(名勝)	伊江御殿別邸庭園
17	那覇市	国指定	記念物(名勝)	首里城書院・鎖之間庭園
18	那覇市	国指定	記念物(名勝)	アマミクヌムイ
19	浦添市	国指定	記念物(名勝)	アマミクヌムイ
20	那覇市	国指定	天然記念物	首里金城の大アカギ
21	那覇市	県指定	有形文化財(建造物)	末吉宮磴道
22	宜野湾市	県指定	有形文化財(建造物)	小禄墓
23	那覇市	県指定	有形文化財(建造物)	龍淵橋
24	浦添市	県指定	有形文化財(建造物)	伊祖の高御墓
25	那覇市	県指定	有形文化財(建造物)	旧首里城守礼門
26	那覇市	県指定	有形文化財(建造物)	旧円覚寺総門
27	那覇市	県指定	有形文化財(建造物)	壺屋の荒焼のぼり窯
28	那覇市	県指定	記念物(史跡)	龍潭及びその周辺
29	那覇市	県指定	記念物(史跡)	園比屋武御嶽
30	那覇市	県指定	記念物(史跡)	崎樋川貝塚
31	浦添市	県指定	記念物(史跡)	伊祖城跡
32	那覇市	県指定	記念物(史跡・名勝)	首里金城町石畳道
33	浦添市	県指定	記念物(史跡)	浦添貝塚
34	那覇市	県指定	記念物(史跡)	国学・首里聖廟石垣

注：表中の番号は、図 3.1.9-1 に対応する。
出典：令和 5 年度　文化財課要覧（令和 6 年 3 月　沖縄県教育庁文化財課）
浦添市の指定文化財一覧（浦添市役所 HP）
宜野湾市の文化財一覧（宜野湾市役所 HP）
那覇市内指定文化財一覧（那覇市役所 HP）

表 3.1.9-1(2)　指定文化財一覧

番号	市名	種類	種別	名称
35	宜野湾市	市指定	史跡	大謝名メーヌカー
36	宜野湾市	市指定	天然記念物(植物)	大謝名メーヌカー淡水紅藻
37	浦添市	市指定	史跡	経塚の碑
38	浦添市	市指定	史跡	牧港テラブのガマ
39	浦添市	市指定	史跡	チヂフチャー洞穴遺跡
40	浦添市	市指定	史跡	玉城朝薫の墓(邊土名の墓)
41	浦添市	市指定	史跡	仲間拝所群(仲間樋川・仲間火ヌ神・クバサーヌ御嶽・仲間ンティラ)
42	浦添市	市指定	史跡	安波茶樋川
43	浦添市	市指定	史跡	浦添御殿の墓
44	浦添市	市指定	史跡	沢岻イリヌカー
45	浦添市	市指定	天然記念物(植物)	内間の大アカギ
46	浦添市	市指定	天然記念物(植物)	屋富祖の御願所のガジュマル
47	那覇市	市指定	建造物	読谷山御殿の墓
48	那覇市	市指定	史跡	雨乞嶽
49	那覇市	市指定	史跡	与那覇勢頭豊見親逗留旧跡碑
50	那覇市	市指定	史跡	宜野湾御殿の墓及び墓域
51	那覇市	市指定	史跡	宝口樋川
52	那覇市	市指定	史跡	上天妃宮跡の石門
53	那覇市	市指定	史跡	金城大樋川
54	那覇市	市指定	史跡	仲之川
55	那覇市	市指定	史跡	安谷川
56	那覇市	市指定	史跡	寒水川樋川
57	那覇市	市指定	史跡	崎山御嶽
58	那覇市	市指定	史跡	泊外人墓地
59	那覇市	市指定	史跡	新垣ヌカー
60	那覇市	市指定	史跡	上ヌ東門ガー
61	那覇市	市指定	史跡	下ヌ東門ガー
62	那覇市	市指定	史跡	潮汲川
63	那覇市	市指定	史跡	加良川(取付道路を含む)
64	那覇市	市指定	史跡	さくの川
65	那覇市	市指定	史跡	渡嘉敷三良の墓
66	那覇市	市指定	史跡	旧天界寺の井戸
67	那覇市	市指定	史跡	美連嶽
68	那覇市	市指定	史跡	火立毛
69	那覇市	市指定	史跡	臺灣遭害者之墓
70	那覇市	市指定	史跡・名勝	波上
71	宜野湾市	市指定	天然記念物(動物)	ウデナガサワダムシ※

※：宜野湾市内全域、地域を定めず指定。
注：表中の番号は、図 3.1.9-1 に対応する。
出典：令和 5 年度　文化財課要覧（令和 6 年 3 月　沖縄県教育庁文化財課）
浦添市の指定文化財一覧（浦添市役所 HP）
宜野湾市の文化財一覧（宜野湾市役所 HP）
那覇市内指定文化財一覧（那覇市役所 HP）



凡例

注：図中の番号は、表 3.1.9-1 に対応する。

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

指定文化財

出典：令和５年度　文化財課要覧（令和６年３月　沖縄県教育庁文化財課）
浦添市の指定文化財一覧（浦添市役所 HP）
宜野湾市の文化財一覧（宜野湾市役所 HP）
那覇市内指定文化財一覧（那覇市役所 HP）

図 3.1.9-1　指定文化財の分布図

(2) 埋蔵文化財包蔵地

対象地域における埋蔵文化財包蔵地は表 3.1.9-2 及び図 3.1.9-2 に示すとおりである。

対象地域においては、埋蔵文化財包蔵地が 184 件分布しているが、事業実施想定区域には存在していない。

表 3.1.9-2(1) 埋蔵文化財包蔵地一覧(浦添市)

番号	名称	種別	市名
1120	浦添貝塚	貝塚	浦添市
1121	仲西貝塚	貝塚	浦添市
1122	横竹貝塚	貝塚	浦添市
1123	牧港貝塚	貝塚	浦添市
1124	牧港第二貝塚	貝塚	浦添市
1125	嘉門貝塚	貝塚	浦添市
1126	親富祖遺跡	集落跡	浦添市
1127	第二親富祖遺跡	集落跡	浦添市
1128	チヂフチャー洞穴遺跡	洞穴遺跡	浦添市
1129	浦添城跡	グスク	浦添市
1130	伊祖城跡	グスク	浦添市
1131	内間遺跡	集落跡	浦添市
1132	沢岻遺跡	集落跡	浦添市
1133	真久原遺跡	集落跡	浦添市
1134	コウグスク	グスク	浦添市
1135	ジングスク	グスク	浦添市
1136	グスクジョー	信仰･祭祀遺跡	浦添市
1138	当山洞穴遺跡	洞穴遺跡	浦添市
1139	宮城ノロ殿散布地	散布地	浦添市
1140	龍福寺跡	信仰･祭祀遺跡	浦添市
1141	当山東原遺跡	集落跡	浦添市
1142	浦添番所跡	政庁跡	浦添市
1143	城間近世墓群	墓地	浦添市
1145	内間西原近世墓群	墓地	浦添市
1146	宜野湾ノロ墓	墓地	浦添市
1147	チヂフチャー近世墓群	墓地	浦添市
1148	伊祖の入め御拝領墓	墓地	浦添市
1149	浦添ようどれ	墓地/戦争遺跡	浦添市
1151	下港川貝塚	貝塚	浦添市
	港川貝塚	貝塚	浦添市
	港川遺跡群	散布地	浦添市
	第二下港川遺跡	散布地	浦添市
	城間第一洞穴遺跡	洞穴遺跡	浦添市
	城間第二洞穴遺跡	洞穴遺跡	浦添市
1152	浦添原遺跡	生産遺跡	浦添市
1153	安波茶津マタ原近世墓群	墓地	浦添市
1154	安波茶橋	産業･土木遺跡	浦添市
1155	伊祖の高御墓	墓地	浦添市

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-2 に対応する。
出典：沖縄県土地利用規制現況図　説明書（令和 5 年 3 月　沖縄県）

表 3.1.9-2(2)　埋蔵文化財包蔵地一覧(浦添市)

番号	名称	種別	市名
1156	伊祖古島	墓地	浦添市
1157	伊祖真久原近世墓群	墓地	浦添市
1160	経塚の碑	信仰･祭祀遺跡	浦添市
1162	小湾遺跡	集落跡	浦添市
1163	城間東空寿近世墓群	墓地	浦添市
1164	東空寿遺跡	散布地	浦添市
1165	城間遺跡	生産遺跡	浦添市
1167	城間淑口原近世墓群	墓地	浦添市
1168	城間嵩下原近世墓群	墓地	浦添市
1170	勢理客立山原近世墓群	墓地	浦添市
1171	浦添御殿墓	墓地	浦添市
1172	沢岻沢岻原近世墓群	墓地	浦添市
1173	沢岻端川原近世墓群	墓地	浦添市
1174	沢岻前原近世墓群	墓地	浦添市
1175	沢岻アガリヒージャー	集落跡	浦添市
1176	当山の石畳道	産業･土木遺跡	浦添市
1177	古屋敷跡	集落跡	浦添市
1180	西原の古島	集落跡	浦添市
1181	仲西ソミザ原近世墓群	墓地	浦添市
1182	仲間後原近世墓群	墓地	浦添市
1183	仲間稲マタ原近世墓群	墓地	浦添市
1190	前田・経塚近世墓群	墓地	浦添市
1191	玉城朝薫の墓（邊土名家の墓）	墓地	浦添市
1192	牧港遺跡	生産遺跡	浦添市
1194	牧港上野原近世墓群	墓地	浦添市
1195	牧港橋	産業･土木遺跡	浦添市
1196	港川越地原遺跡	貝塚	浦添市
1197	港川越地原近世墓群	墓地	浦添市
1198	亀瀬遺物散布地	散布地	浦添市
1199	港川崎原近世墓群	墓地	浦添市
2596	屋富祖露原古墓群	墓	浦添市
2614	安波茶前原古墓群	墓	浦添市

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-2 に対応する。
出典：沖縄県土地利用規制現況図　説明書（令和 5 年 3 月　沖縄県）

表 3.1.9-2(3)　埋蔵文化財包蔵地一覧(宜野湾市)

番号	名称	種別	市名
962	大山樋川原遺物散布地	散布地	宜野湾市
963	大山二重海岸石器散布地	散布地	宜野湾市
971	真志喜大川原第一遺跡	生産遺跡	宜野湾市
972	真志喜大川原第二遺跡	散布地	宜野湾市
973	真志喜大川原第三遺跡	生産遺跡	宜野湾市
974	真志喜大川原第四遺跡	集落跡	宜野湾市
975	真志喜荒地原第一遺跡	散布地	宜野湾市
976	真志喜荒地原第二遺跡	散布地	宜野湾市
977	真志喜グスクヌハナ遺跡	包蔵地	宜野湾市
978	真志喜グスクヌハナ南遺跡	散布地	宜野湾市
979	真志喜グスクヌハナ東遺跡	散布地	宜野湾市
981	真志喜安座間原第一遺跡	墓地/集落跡/貝塚	宜野湾市
982	真志喜安座間原第二遺跡	墓地/集落跡/貝塚	宜野湾市
983	真志喜地先石器散布地	散布地	宜野湾市
986	真志喜森川原遺跡	集落跡/信仰･祭祀遺跡/グスク	宜野湾市
989	真志喜蔵当原遺跡	散布地	宜野湾市
990	真志喜森川原第二遺跡	集落跡	宜野湾市
991	真志喜ノロ殿内拝所遺跡	集落跡/信仰･祭祀遺跡	宜野湾市
992	真志喜石川第一遺跡	集落跡	宜野湾市
993	真志喜石川第二遺跡	包蔵地	宜野湾市
994	真志喜地先外来陶磁器散布地	散布地	宜野湾市
995	真志喜製立原古墓群	墓地	宜野湾市
996	真志喜荒地原古墓群	墓地	宜野湾市
997	真志喜グスクヌハナ古墓群	墓地	宜野湾市
999	大謝名洞穴遺跡	洞穴遺跡	宜野湾市
1001	大謝名前原遺物散布地	散布地	宜野湾市
1002	大謝名黄金森グスク遺跡	グスク	宜野湾市
1003	大謝名原古瓦散布地	散布地	宜野湾市
1004	大謝名カンジャーガマ岩陰遺跡	生産遺跡	宜野湾市
1006	大謝名東原古墓群	墓地	宜野湾市
1007	嘉数比屋良川流域古墓群	墓地	宜野湾市
1009	宇地泊遺物散布地	散布地	宜野湾市
1010	宇地泊ヒートゥモー遺跡	散布地	宜野湾市
1011	宇地泊兼久原遺跡	集落跡/貝塚/墓地/生産遺跡	宜野湾市
1012	宇地泊兼久原第二遺跡	包蔵地/生産遺跡	宜野湾市
1013	宇地泊兼久原第三遺跡	集落跡	宜野湾市
1014	宇地泊西原丘陵古墓群	墓地	宜野湾市
1015	宇地泊東原古墓群	墓地	宜野湾市
1016	嘉数テラガマ洞穴遺跡	洞穴遺跡/墓地	宜野湾市
1017	嘉数前原遺跡	洞穴遺跡	宜野湾市
1020	嘉数内城原洞穴遺跡	洞穴遺跡	宜野湾市
1021	嘉数内城原遺跡	包蔵地	宜野湾市
1022	嘉数ウィーグスク遺跡	グスク/信仰･祭祀遺跡	宜野湾市
1023	嘉数トゥンヤマ遺跡	散布地	宜野湾市
1024	嘉数ウチグスク遺跡	散布地	宜野湾市
1025	嘉数後原・内城原古墓群	墓地	宜野湾市

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-2 に対応する。
出典：沖縄県土地利用規制現況図　説明書（令和 5 年 3 月　沖縄県）

表 3.1.9-2(4)　埋蔵文化財包蔵地一覧(宜野湾市、那覇市)

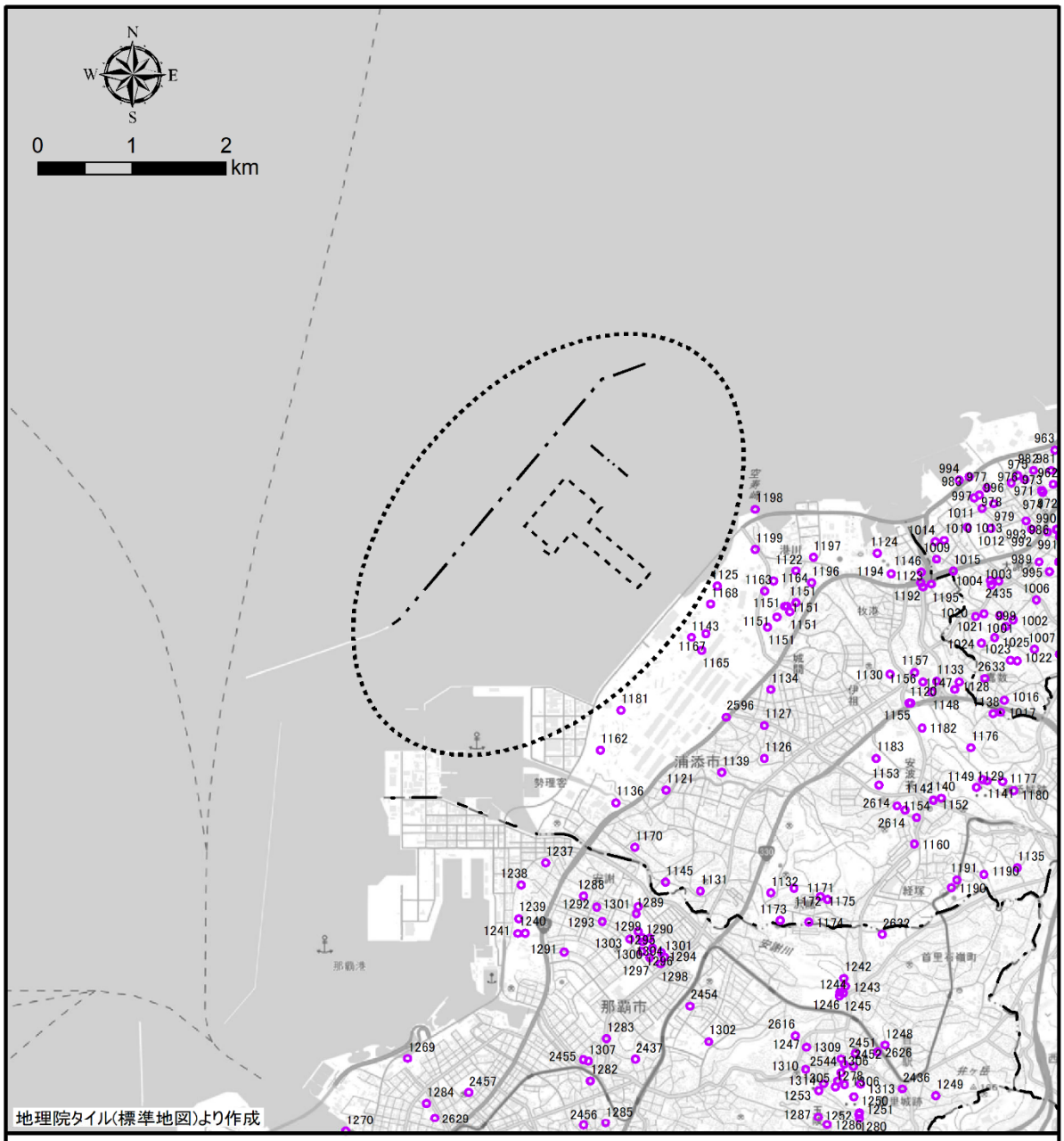
番号	名称	種別	市名
2435	大謝名世持留遺跡	集落跡	宜野湾市
2633	嘉数同原遺跡	集落跡	宜野湾市
1237	ギリチ原貝塚	貝塚	那覇市
1238	崎樋川貝塚	貝塚	那覇市
1239	天久グスク	グスク	那覇市
1240	天久遺跡	集落跡	那覇市
1241	天久貝塚	貝塚	那覇市
1242	末吉町鹿化石出土地Ａ地点	包蔵地	那覇市
1243	末吉町鹿化石出土地Ｂ地点	包蔵地	那覇市
1244	首里西森遺物散布地Ａ地点	散布地	那覇市
1245	首里西森遺物散布地Ｂ地点	散布地	那覇市
1246	首里西森遺物散布地Ｃ地点	包蔵地	那覇市
1247	山川貝塚	貝塚	那覇市
1248	虎頭山石器出土地	包蔵地	那覇市
1249	鳥堀古瓦窯跡	生産遺跡	那覇市
1250	首里城跡	グスク	那覇市
1251	崎山遺跡	包蔵地	那覇市
1252	崎山御嶽遺跡	集落跡	那覇市
1253	玉陵南側洞穴遺跡	洞穴遺跡	那覇市
1269	波上洞穴遺跡	洞穴遺跡/墓地	那覇市
1270	三重グスク	グスク	那覇市
1278	綾門大道跡	グスク	那覇市
1280	首里崎山古墓群	墓地	那覇市
1282	牧志御願東方遺跡	包蔵地	那覇市
1283	安里神無良川古墓群	墓地	那覇市
1284	ハナグスク	グスク	那覇市
1285	壺屋古窯群	生産遺跡	那覇市
1286	首里旧金城村跡（調査地点１）	集落跡	那覇市
1287	首里旧金城村跡（調査地点２）	集落跡	那覇市
1288	安謝西原古墓群	墓地	那覇市
1289	安謝東原遺跡	貝塚	那覇市
1290	安謝東原南遺跡	包蔵地	那覇市
1291	旧天久村古井戸遺跡	集落跡	那覇市
1292	安謝前原遺跡	包蔵地	那覇市
1293	ナーチュー毛古墓群	墓地	那覇市
1294	ヒヤジョー毛遺跡	集落跡/貝塚/墓地	那覇市
1295	銘苅直緑原遺跡	集落跡	那覇市
1296	銘苅原南遺跡	包蔵地	那覇市
1297	名護松尾原北遺跡	包蔵地	那覇市
1298	名護松尾原南遺跡	生産遺跡	那覇市
1299	スグルクガー北西遺跡	散布地	那覇市
1300	スグルクガー遺物散布地	散布地	那覇市
1301	銘苅古墓群南地区	墓地	那覇市
	銘苅古墓群北地区	墓地	那覇市

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-2 に対応する。
出典：沖縄県土地利用規制現況図　説明書（令和５年３月　沖縄県）

表 3.1.9-2(5)　埋蔵文化財包蔵地一覧(那覇市)

番号	名称	種別	市名
1302	真嘉比・古島古墓群	墓地	那覇市
1303	安謝前東原遺跡	集落跡	那覇市
1304	銘苅原遺跡	集落跡	那覇市
1305	御細工所跡	生産遺跡	那覇市
1306	ハンタン山	散布地	那覇市
	龍潭	散布地	那覇市
1307	崇元寺跡	社寺跡	那覇市
1309	宝口古窯跡	生産遺跡	那覇市
1310	山川瓦窯跡	生産遺跡	那覇市
1313	円覚寺跡	寺社跡	那覇市
1314	天界寺跡	信仰･祭祀遺跡	那覇市
2436	首里鳥小堀村跡	集落跡	那覇市
2437	安里羽佐間原古墓群	墓地	那覇市
2451	首里当蔵村跡	集落跡	那覇市
2452	首里当蔵旧水路	その他(水路)	那覇市
2454	真嘉比２丁目壕	戦争遺跡	那覇市
2455	泊・崇元寺西方遺跡	集落跡	那覇市
2456	牧志松尾山古墓群	墓地	那覇市
2457	沖縄県立沖縄病院跡	その他(病院跡)	那覇市
2544	首里当蔵旧水路	水路	那覇市
2616	首里山川町の石畳道	交通遺跡	那覇市
2626	首里赤平村跡	集落跡	那覇市
2629	久米村跡	集落跡	那覇市
2632	前田・経塚近世墓群（首里大名地区）	墓、その他の遺跡	那覇市

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-2 に対応する。
出典：沖縄県土地利用規制現況図　説明書（令和５年３月　沖縄県）



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

注：図中の番号は、出典資料より引用し、表 3.1.9-2 に対応する。

埋蔵文化財包蔵地

出典：沖縄県土地利用規制現況図　説明書（令和５年３月　沖縄県）

図 3.1.9-2　埋蔵文化財包蔵地の分布図

(3) 御嶽、拝所等の場の状況

対象地域における御嶽、拝所等の場の状況は表 3.1.9-3 及び図 3.1.9-3 に示すとおりである。

対象地域には、御嶽、拝所等が 91 箇所分布しているが、事業実施想定区域には存在していない。

表 3.1.9-3(1) 御嶽、拝所等一覧

番号	名称	市名	備考
1	アガリヌ御嶽	浦添市	
2	後ヌ御嶽	浦添市	
3	①シマ之嶽	浦添市	
	②デーグガマ(渡嘉敷嶽)	浦添市	
	③大城嶽	浦添市	
	④小城嶽(為朝岩一帯)	浦添市	
4	久場下嶽(クバサヌ御嶽)	浦添市	
5	伊祖の嶽(伊祖城内)	浦添市	
6	伊祖の高御墓	浦添市	
8	長堂之嶽	浦添市	
9	友盛嶽	浦添市	
10	クバ御嶽	浦添市	
11	フエシジ之御嶽	浦添市	
12	カニマン御嶽	浦添市	
13	クボー御嶽	浦添市	
14	中之御嶽	浦添市	
7	ヒートゥジー	宜野湾市	
8	黄金宮	宜野湾市	
9	ウィーヌヤマ	宜野湾市	
1	御内原ノマモノ内ノ御嶽	那覇市	消滅
	キャウノ内ノ前ノ御ミヤ首里ノ御イベ	那覇市	消滅
	キャウノ内ノ御嶽	那覇市	消滅
	真玉城ノ御嶽	那覇市	消滅
	寄内ノ御嶽	那覇市	
	アカタ御ヂャウノ御嶽	那覇市	
2	ミモノ内御嶽	那覇市	消滅
3	見上森ノ御イベ	那覇市	
4	内金城之大嶽	那覇市	
5	内金城之小嶽	那覇市	
6	メヅラダケノ御イベ	那覇市	
7	キミコイシ嶽	那覇市	

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-3 に対応する。
出典：土地保全図付属資料（沖縄県）（平成 6 年 3 月　国土庁土地局）

表 3.1.9-3(2)　御嶽、拝所等一覧

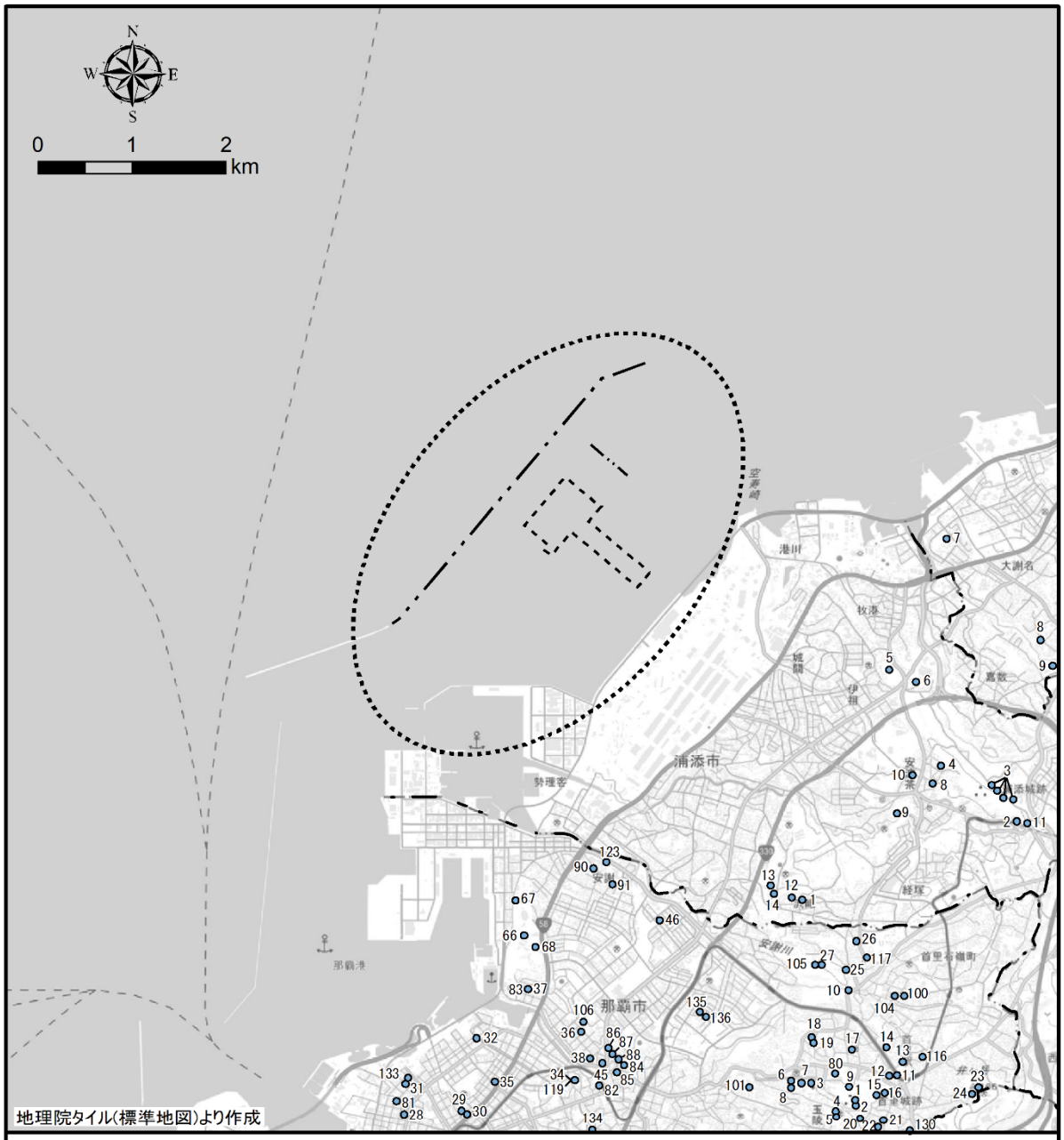
番号	名称	市名	備考
8	真和志森	那覇市	
9	ソノヒヤブノ御イベ	那覇市	
10	西森ノ御イベ	那覇市	
11	クムデ森ノ御イベ	那覇市	
12	アスイ森ノ御イベ	那覇市	
13	アモトダケノ御イベ	那覇市	
14	白金ダケノ御イベ	那覇市	
15	国中城ノアマフレダケノ御イベ	那覇市	
16	アカス森ノ御イベ	那覇市	
17	安谷川ノ嶽	那覇市	
18	中里大嶽	那覇市	
19	中里小嶽	那覇市	
20	崎山ノ嶽	那覇市	
21	末衛増嶽	那覇市	
22	雨乞ノ嶽	那覇市	
23	冕大嶽	那覇市	
24	冕小嶽ノ御イベ	那覇市	
25	上之嶽	那覇市	
26	下之嶽	那覇市	
27	樫木之嶽	那覇市	
28	コバヅカサ	那覇市	
29	内金宮嶽	那覇市	
30	財之神嶽	那覇市	
31	当間森	那覇市	
32	アカツラ	那覇市	
34	牧志之嶽	那覇市	
35	イベガマ	那覇市	
36	ヤカン森	那覇市	
37	オシアゲ森	那覇市	
38	崇元寺之嶽	那覇市	
45	オキナワノ嶽	那覇市	
46	多和田之嶽	那覇市	
66	天久之嶽	那覇市	
67	潮花ツカサ	那覇市	
68	天久之小嶽	那覇市	
80	カナヒヤンウタキ	那覇市	
81	獅子屋ウタキ	那覇市	

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-3 に対応する。
出典：土地保全図付属資料（沖縄県）（平成 6 年 3 月　国土庁土地局）

表 3.1.9-3(3)　御嶽、拝所等一覧

番号	名称	市名	備考
82	東ノウタキ	那覇市	
83	黄金ウタキ	那覇市	
84	上ヌウタキ	那覇市	
85	マーチューウタキ	那覇市	
86	御吟味ウタキ	那覇市	
87	碁打ウタキ	那覇市	
88	里主所ウタキ	那覇市	
90	ウタキ	那覇市	
91	東ヌウタキ	那覇市	
100	殿の毛	那覇市	
101	殿の前	那覇市	
104	火の神	那覇市	
105	荒神	那覇市	
106	泊大あむ火神	那覇市	
116	ビジュル毛	那覇市	
117	土帝君	那覇市	
119	土帝君	那覇市	
123	ビジュル	那覇市	
130	チュンナー瀬小	那覇市	
133	ハンキヌウガン	那覇市	
134	西之宮	那覇市	
135	西ノ殿内	那覇市	
136	東ノ殿内小	那覇市	

注：表中の番号は、出典資料より引用し、図 3.1.9-3 に対応する。
出典：土地保全図付属資料（沖縄県）（平成 6 年 3 月　国土庁土地局）



凡例

注：図中の番号は、出典資料より引用し、表 3.1.9-3 に対応する。

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

御嶽、拝所等

出典：土地保全図付属資料（沖縄県）（平成 6 年 3 月　国土庁土地局）

図 3.1.9-3　御嶽、拝所等の場の分布図

(4) 湧水等

対象地域における湧水等は表 3.1.9-4 及び図 3.1.9-4 に示すとおりである。

対象地域には、内陸部を中心に 143 箇所の湧水等が分布しているが、事業実施想定区域には存在していない。

表 3.1.9-4(1)　湧水等の分布

番号	市名	名称	所在地
1	浦添市	安波茶樋川	浦添市安波茶 2-5
2	浦添市	赤皿ガー	浦添市安波茶 3-8
3	浦添市	クシヌカー	浦添市伊祖
4	浦添市	ニーヌファヌカー	浦添市伊祖
5	浦添市	伊波ガー	浦添市伊祖
6	浦添市	上ヌカー	浦添市伊祖
7	浦添市	伊祖メーヌカー	浦添市伊祖 4-13
8	浦添市	屋富祖前ヌ井泉	浦添市屋富祖 3-1
9	浦添市	屋富祖の井戸	浦添市屋富祖 3-31
10	浦添市	ヨヘナガー	浦添市屋富祖
11	浦添市	蛍の小径	浦添市宮城
12	浦添市	ドゥンチガー	浦添市宮城 1-16
13	浦添市	宮城の拝所	浦添市宮城 2-28
14	浦添市	夫婦ガー	浦添市経塚
15	浦添市	宮古井	浦添市経塚
16	浦添市	古井	浦添市経塚
17	浦添市	御殿井	浦添市経塚
18	浦添市	西の井	浦添市経塚
19	浦添市	龍巻井ガー	浦添市経塚 652-1
20	浦添市	シール川湧神	浦添市港川
21	浦添市	大川	浦添市勢理客
22	浦添市	ウビガー	浦添市勢理客
23	浦添市	ヒージャー	浦添市勢理客
24	浦添市	川端井戸	浦添市前田
25	浦添市	ティーダウカー	浦添市前田
26	浦添市	仲新屋ヌ前ヌ川	浦添市前田
27	浦添市	前田の井戸	浦添市前田
28	浦添市	メーヌハルガー	浦添市前田
29	浦添市	井の大人川	浦添市字前田 693 番地付近
30	浦添市	大平の井戸	浦添市大平 1-2
31	浦添市	ハンタガー	浦添市沢岻
32	浦添市	沢岻樋川	浦添市沢岻 1-46
33	浦添市	アガリヒージャーガー	浦添市沢岻
34	浦添市	チブガー	浦添市沢岻
35	浦添市	沢岻イリヌカー	浦添市沢岻 1-12-19
36	浦添市	カガンウカー	浦添市仲間
37	浦添市	アトゥガー	浦添市仲間 1-13
38	浦添市	仲間樋川	浦添市仲間 2-44
39	浦添市	仲西ウフガー	浦添市仲西 1-10
40	浦添市	当山東ガー	浦添市当山

出典：浦添市環境マップ（浦添市市民部環境保全課 HP）
浦添の湧き水、浦添市湧き水 MAP（湧き水 fun 倶楽部 HP）
湧水保全ポータルサイト（環境省水・大気環境局水環境課/土壌環境課 HP）
なは MAP（那覇市役所 HP）
ぎのわんの文化財（宜野湾市教育委員会文化課）
宜野湾市　観光スポット（宜野湾市役所 HP）

表 3.1.9-4(2)　湧水等の分布

番号	市名	名称	所在地
41	浦添市	当山ソージガー	浦添市当山 1-12
42	浦添市	当山ウフカー	浦添市当山 3-8
43	浦添市	当山ガー	浦添市当山三丁目
44	浦添市	牧港ガー	浦添市牧港 2-44-1
45	浦添市	立津ガー	浦添市牧港 2-5-10
46	浦添市	イージュンガー	浦添市小湾
47	浦添市	シマヌカー	浦添市小湾
48	浦添市	カチラガー	浦添市内間
49	宜野湾市	アガリガー	宜野湾市嘉数
50	宜野湾市	ヒージャーガー	宜野湾市嘉数
51	宜野湾市	ミーガー	宜野湾市嘉数
52	宜野湾市	カンガー	宜野湾市真志喜
53	宜野湾市	シチャヌカー	宜野湾市真志喜
54	宜野湾市	森の川（ムンヌカー）	宜野湾市真志喜一丁目
55	宜野湾市	ミジカシモーガー	宜野湾市大山六丁目
56	宜野湾市	メンダカリヒージャーガー	宜野湾市大山六丁目
57	宜野湾市	ウシアミシガー	宜野湾市大謝名
58	宜野湾市	大謝名メーヌカー	宜野湾市大謝名五丁目
59	那覇市	ナカヌカー（中ヌカー）	那覇市字安謝 47
60	那覇市	アガリヌカー	那覇市安謝 2-22 付近
61	那覇市	西ヌカー	那覇市字安謝 55 付近
62	那覇市	イリヌカー	那覇市字安謝 80 付近
63	那覇市	村ガー	那覇市字安里 69 付近
64	那覇市	ヌール井戸	那覇市字安里 130
65	那覇市	カンラ井戸（神無良川）	那覇市字安里 164 付近
66	那覇市	ミーク井戸	那覇市字安里 24 付近
67	那覇市	村ガー	那覇市字大道 26 付近
68	那覇市	村ガー	那覇市字大道 117 付近
69	那覇市	ティージクンガー	那覇市鏡水 306-2 付近
70	那覇市	ぬーるがあ	那覇市古島 2-19-11 付近
71	那覇市	海苔川	那覇市首里寒川町 1-24
72	那覇市	原井戸	那覇市首里寒川町 1-56 付近
73	那覇市	寒水（スンガー）樋川	那覇市首里寒川町 1-56 付近
74	那覇市	加良川	那覇市首里儀保町 2-8 付近
75	那覇市	儀保川	那覇市首里儀保町 4-45-3 付近
76	那覇市	宝口樋川	那覇市首里儀保町 4-71-2 付近
77	那覇市	久場川井戸	那覇市首里久場川町 2-18-2
78	那覇市	禰覇井戸	那覇市首里金城町 2-17
79	那覇市	潮汲川	那覇市首里金城町 2-51 付近
80	那覇市	仲之川	那覇市首里金城町 2-11

出典：浦添市環境マップ（浦添市市民部環境保全課 HP）
浦添の湧き水、浦添市湧き水 MAP（湧き水 fun 倶楽部 HP）
湧水保全ポータルサイト（環境省水・大気環境局水環境課/土壌環境課 HP）
なは MAP（那覇市役所 HP）
ぎのわんの文化財（宜野湾市教育委員会文化課）
宜野湾市　観光スポット（宜野湾市役所 HP）

表 3.1.9-4(3)　湧水等の分布

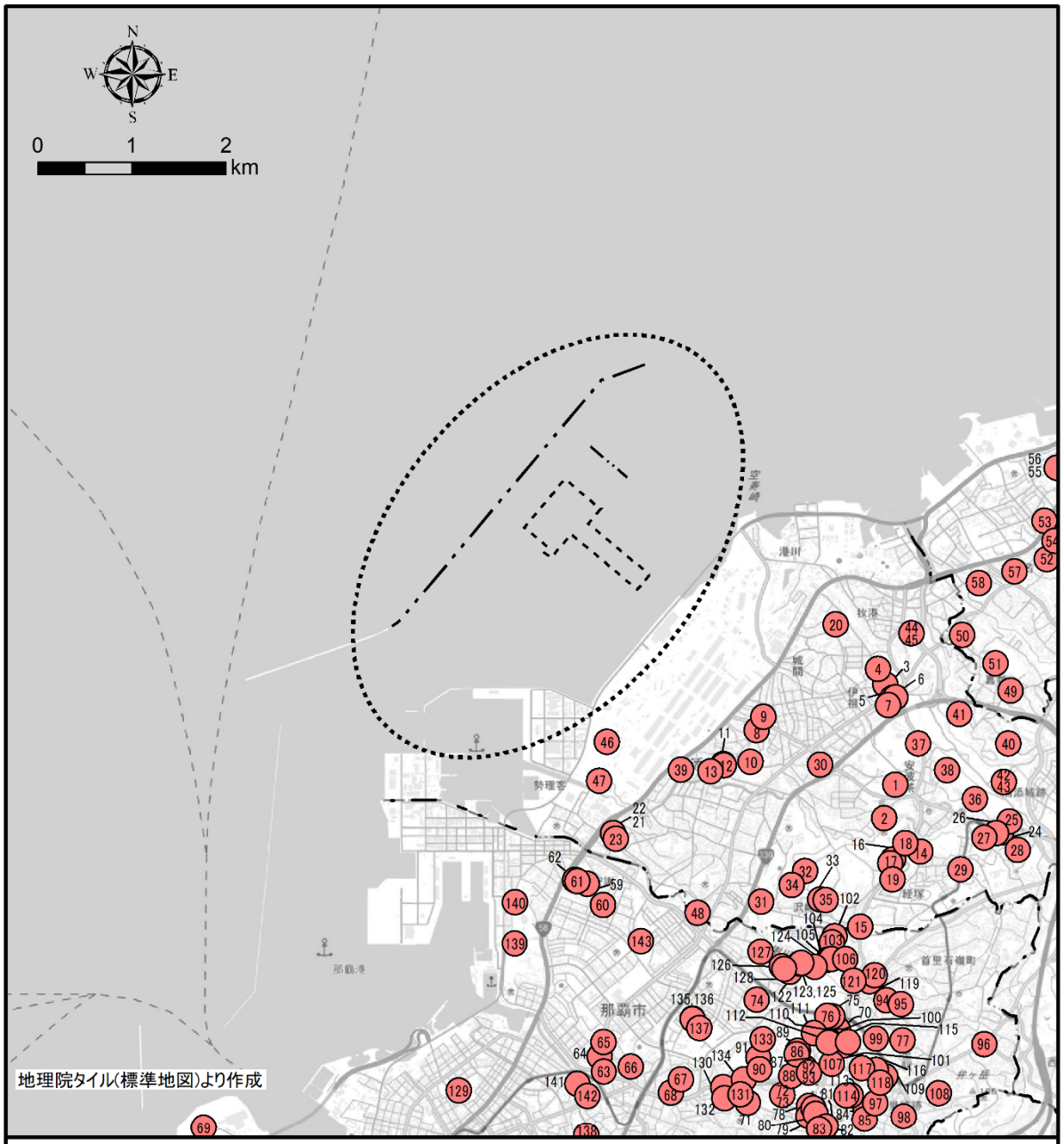
番号	市名	名称	所在地
81	那覇市	金城大樋川（ウフヒジャー）	那覇市首里金城町 2-6 付近
82	那覇市	上ヌ東門ガー	那覇市首里金城町 3-38 付近
83	那覇市	下ヌ東門ガー	那覇市首里金城町 3-59 付近
84	那覇市	大工廻井戸	那覇市首里崎山町 1-1-3 付近
85	那覇市	崎山樋川	那覇市首里崎山町 1 丁目(崎山公園)
86	那覇市	さくの川	那覇市首里山川町 1 丁目 89
87	那覇市	幸地ガー	那覇市首里山川町 1-37 付近
88	那覇市	大飩井戸	那覇市首里山川町 1-53 付近
89	那覇市	山川樋川	那覇市首里山川町 1-88 付近
90	那覇市	上ヌカー	那覇市首里山川町 3-21 付近
91	那覇市	下ヌカー	那覇市首里山川町 3-41 付近
92	那覇市	新井戸	那覇市首里真和志町 2-30 付近
93	那覇市	内の井戸	那覇市首里真和志町 2-44 付近
94	那覇市	西の井戸	那覇市首里石嶺町 1-14-1 付近
95	那覇市	村ガー	那覇市首里石嶺町 1-41 付近
96	那覇市	瀧泉	那覇市首里石嶺町 2-193-22 付近
97	那覇市	赤田寒水川	那覇市首里赤田町 1-39-2 付近
98	那覇市	メーチンジャーガー	那覇市首里赤田町 2-62-3 付近
99	那覇市	ミンジャー井戸	那覇市首里赤平町 2-15-1 付近
100	那覇市	峯間川	那覇市首里大中町 1-59-1
101	那覇市	安谷川	那覇市首里大中町 1-61
102	那覇市	泉井戸	那覇市首里大名町 1-228 付近
103	那覇市	平良樋川（ナディガー）	那覇市首里大名町 1-229-1 付近
104	那覇市	マージガー	那覇市首里大名町 1-313 付近
105	那覇市	カブイカー小（グワー）	那覇市首里大名町 1-317 付近
106	那覇市	運天ガー	那覇市首里大名町 2-66 付近
107	那覇市	大和井戸	那覇市首里池端町 5 丁目
108	那覇市	瓦屋井戸	那覇市首里鳥堀町 4-50 付近
109	那覇市	新井戸（ミーガー）	那覇市首里汀良町 1-42 付近
110	那覇市	世果報御井小	那覇市首里桃原町 15-3
111	那覇市	ウチンガー	那覇市首里桃原町 2-63 付近
112	那覇市	佐司笠樋川	那覇市首里桃原町 15-3
113	那覇市	寒水川樋川	那覇市首里当蔵 3 丁目（首里城内）
114	那覇市	瑞泉龍樋（首里城内）	那覇市首里当蔵 3 丁目（首里城内）
115	那覇市	板井戸	那覇市首里当蔵町 1-41 付近
116	那覇市	ヤマノカー	那覇市首里当蔵町 2-22-4 付近
117	那覇市	瀬戸井戸	那覇市首里当蔵町 2-36 付近
118	那覇市	天王寺井戸	那覇市首里当蔵町 2-8-2
119	那覇市	新井戸	那覇市首里平良町 1-11 付近
120	那覇市	ナークガー	那覇市首里平良町 1-46 付近

出典：浦添市環境マップ（浦添市市民部環境保全課 HP）
浦添の湧き水、浦添市湧き水 MAP（湧き水 fun 倶楽部 HP）
湧水保全ポータルサイト（環境省水・大気環境局水環境課/土壌環境課 HP）
なは MAP（那覇市役所 HP）
ぎのわんの文化財（宜野湾市教育委員会文化課）
宜野湾市　観光スポット（宜野湾市役所 HP）

表 3.1.9-4(4)　湧水等の分布

番号	市名	名称	所在地
121	那覇市	サントーガー	那覇市首里平良町 2-43 付近
122	那覇市	東ヌ樋川(アガリヌカー)	那覇市首里末吉町 1-113
123	那覇市	産御井戸(臍見井戸)	那覇市末吉公園内
124	那覇市	子の方御井戸	那覇市末吉公園内
125	那覇市	辺戸御井戸	那覇市末吉公園内
126	那覇市	末吉大樋川（イリヌカー）	那覇市首里末吉町 2-117
127	那覇市	イリヌハルヌカー	那覇市首里末吉町 2-140 付近
128	那覇市	中の泉	那覇市首里末吉町 2-77-3 付近
129	那覇市	ユーナヌカー	那覇市松山 1-17
130	那覇市	サーターヤースカーグァー	那覇市字松川 14 付近
131	那覇市	メーヌカー	那覇市字松川 39 付近
132	那覇市	前ヌカーグァー跡	那覇市松川 3-7-8
133	那覇市	村ガー	那覇市松島 1-8-7 付近
134	那覇市	松川樋川	那覇市字松川 40 付近
135	那覇市	西ヌカー	那覇市字真嘉比 15 付近
136	那覇市	中ヌカー	那覇市字真嘉比 35 付近
137	那覇市	東ヌカー	那覇市字真嘉比 72 付近
138	那覇市	番所ガー	那覇市壷屋 1-9-33
139	那覇市	坂中(フィラナカ)樋川	那覇市字天久 1174 付近
140	那覇市	崎樋川(洞樋川)	那覇市字天久 1186 付近
141	那覇市	ムラガー	那覇市牧志 2-12-15 付近
142	那覇市	東ヌカー	那覇市牧志 2-9-2 付近
143	那覇市	スグルクガー	那覇市銘苅 2-10

出典：浦添市環境マップ（浦添市市民部環境保全課 HP）
浦添の湧き水、浦添市湧き水 MAP（湧き水 fun 倶楽部 HP）
湧水保全ポータルサイト（環境省水・大気環境局水環境課/土壌環境課 HP）
なは MAP（那覇市役所 HP）
ぎのわんの文化財（宜野湾市教育委員会文化課）
宜野湾市　観光スポット（宜野湾市役所 HP）



凡例

注：図中の番号は、表 3.1.9-4 に対応する。

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

代替施設

防波堤

市町村界

湧水等

出典：浦添市環境マップ（浦添市市民部環境保全課 HP）
浦添の湧き水、浦添市湧き水 MAP（湧き水 fun 倶楽部 HP）
湧水保全ポータルサイト（環境省水・大気環境局水環境課/土壌環境課 HP）
なは MAP（那覇市役所 HP）
ぎのわんの文化財（宜野湾市教育委員会文化課）
宜野湾市　観光スポット（宜野湾市役所 HP）

図 3.1.9-4　湧水等の分布図

(5) 洞穴等

対象地域における洞穴等は表 3.1.9-5 及び図 3.1.9-5 に示すとおりである。

対象地域には、内陸部を中心に 59 箇所の洞穴等が分布しているが、事業実施想定区域には存在していない。

表 3.1.9-5(1)　洞穴等の分布

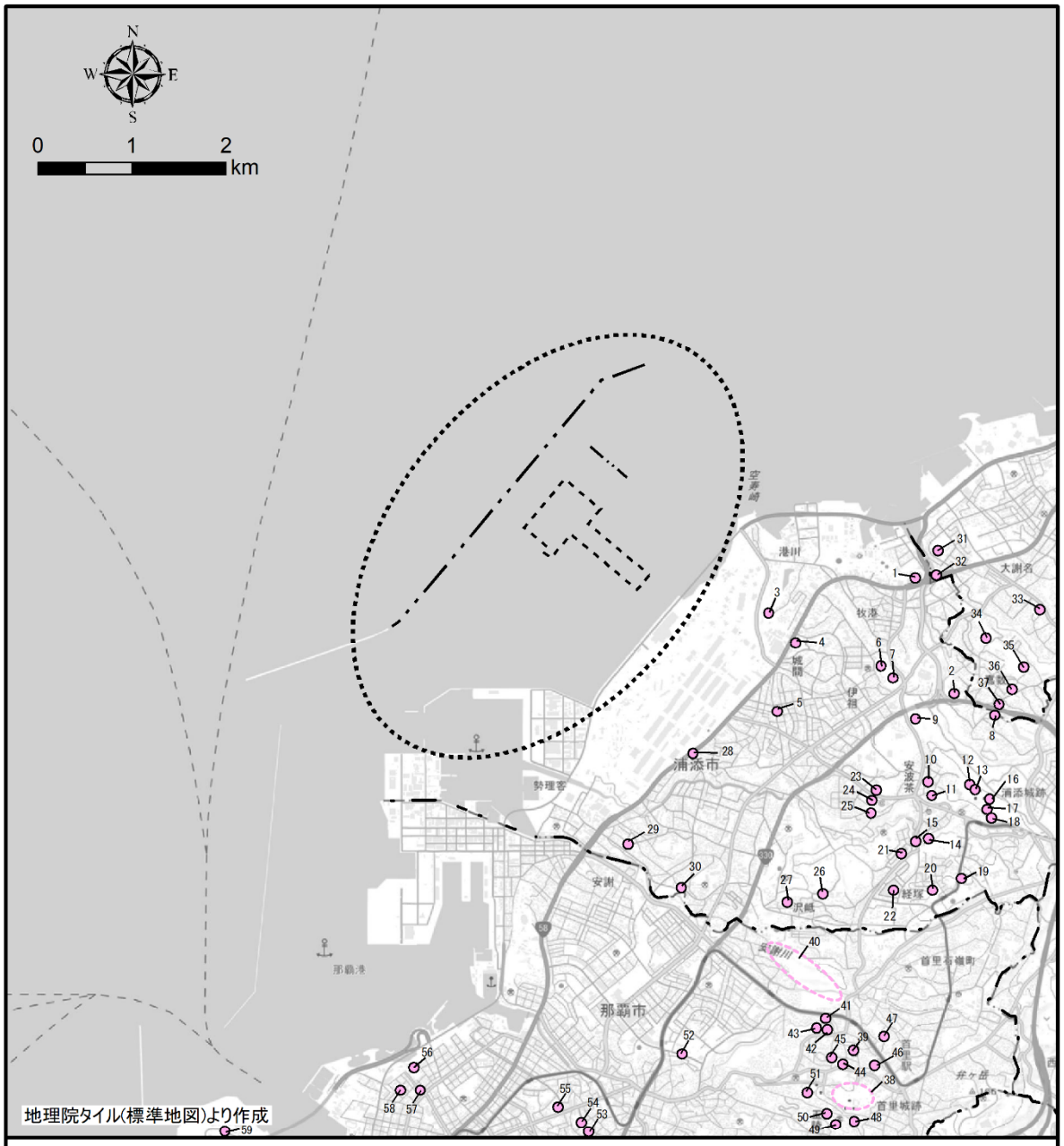
番号	名称	市名	所在地	種別	形態	有無
1	牧港テラブのガマ	浦添市	牧港	住民避難	自然洞穴	有り
2	チヂフチャーガマ	浦添市	牧港	住民避難	自然洞穴	有り
3	ウマジガマ	浦添市	港川	住民避難	自然洞穴	不明
4	城間洞	浦添市	城間	住民避難	自然洞穴	不明
5	城間の壕	浦添市	城間	不明	人工壕	不明
6	21 大隊第 3 中隊の壕	浦添市	伊祖	陣地	人工壕	有り
7	伊祖公園の陣地壕	浦添市	伊祖	陣地	人工壕	有り
8	嘉数の病院壕	浦添市	当山	陣地	人工(一部自然)壕	有り
9	浦添大公園内の陣地壕	浦添市	仲間	陣地	人工(一部自然)壕	有り
10	ナカマンディラ	浦添市	仲間	不明	人工(一部自然)壕	不明
11	仲間の壕	浦添市	仲間	不明	人工壕	不明
12	仲間の住民避難壕群（シーマノウタキ、6 班の壕）	浦添市	仲間	住民避難+陣地	人工(一部自然)壕	有り
13	ディークガマ	浦添市	仲間	住民避難+陣地	人工(一部自然)壕	有り
14	仲間の住民避難壕	浦添市	仲間	住民避難	人工(一部自然)壕	不明
15	仲間後原の陣地壕	浦添市	仲間	陣地	人工壕	有り
16	前田高地壕群	浦添市	前田	陣地	人工壕	有り
17	浦添城跡南側斜面壕群（乾パン壕）	浦添市	前田	陣地	人工壕	有り
18	浦添城跡南側斜面壕群（糧食・兵員壕）	浦添市	前田	陣地	人工壕	有り
19	前田の陣地壕	浦添市	前田	陣地	人工壕	不明
20	真知堂壕	浦添市	前田	陣地	人工壕	不明
21	経塚の陣地壕	浦添市	経塚	不明	人工壕	不明
22	経塚の壕	浦添市	経塚	陣地	人工壕	有り
23	津マタ原の壕群	浦添市	安波茶	住民避難	人工壕	有り
24	安波茶壕跡	浦添市	安波茶	陣地	人工壕	有り
25	独立機関銃第十四大隊本部供養塔近くの壕	浦添市	安波茶	陣地	人工壕	有り
26	沢岻の陣地壕	浦添市	沢岻	陣地	人工壕	不明
27	クビリ山の壕	浦添市	沢岻	陣地	人工壕	有り
28	宮城のティラブヌガマ	浦添市	宮城	陣地	人工(一部自然)壕	有り
29	勢理客の壕	浦添市	勢理客	不明	人工壕	不明
30	カンジャーガマ	浦添市	内間	不明	人工(一部自然)壕	有り
31	宇地泊陣地	宜野湾市	宇地泊	陣地	構築物+人工壕	有り
32	メーヌガマ	宜野湾市	宇地泊	住民避難	自然洞穴	不明
33	ドンドンガマ	宜野湾市	大謝名	住民避難	自然洞穴	不明
34	おもと園近くの障地壕	宜野湾市	嘉数	陣地	人工壕	有り
35	嘉数高台のトーチカ・陣地壕	宜野湾市	嘉数	陣地+トーチカ	構築物+人工壕	有り
36	アガリガー	宜野湾市	嘉数	住戻避難	自然洞穴	不明
37	テラガマ	宜野湾市	嘉数	住民避難	自然洞穴	有り

出典：沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　中部編（平成元年 3 月　沖縄県立埋蔵文化財センター）
沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　本島周辺離島及び那覇市編（平成 16 年 3 月　沖縄県立埋蔵文化財センター）

表 3.1.9-5(2)　洞穴等の分布

番号	名称	市名	所在地	種別	形態	有無
38	第 32 軍司令部壕と周辺遺跡	那覇市	首里当蔵町	陣地+その他	人工壕+構築物	－
39	安谷川御嶽のガマ	那覇市	首里当蔵町	住民避難	自然壕	－
40	首里末吉の山陣地と周辺遺跡	那覇市	首里末吉町	陣地+住民避難	自然壕+人工壕	－
41	宝口樋川対岸の壕	那覇市	首里桃原町	陣地	人工壕	－
42	首里桃原町２丁目の壕（亥の方の壕）	那覇市	首里桃原町	陣地+住民避難	自然壕+人工壕	－
43	首里桃原町２丁目の壕（戌の方の壕）	那覇市	首里桃原町	住民避難	自然壕+人工壕	－
44	中城御殿の弾痕のある石垣とガマ	那覇市	首里大中町	その他	自然壕+建造物	－
45	池端町民の防空壕群	那覇市	首里大中町	住民避難	人工壕	－
46	真嘉比川沿いの壕	那覇市	首里汀良町	住民避難	人工壕	－
47	虎瀬山公園の陣地跡	那覇市	首里赤平町	陣地	人工壕	－
48	崎山御嶽南側の壕群	那覇市	首里崎山町	不明	人工壕	－
49	仲村渠山の壕	那覇市	首里金城町	住民避難	自然壕	－
50	金城町大アカギ北側の壕	那覇市	首里金城町	住民避難	人工壕	－
51	玉陵南側の壕群	那覇市	首里金城町	不明	自然壕+人工壕	－
52	真嘉比壕跡	那覇市	真嘉比	陣地	人工壕	－
53	てんぷら坂の壕	那覇市	牧志	住民避難	人工壕	－
54	希望丘公園陣地跡	那覇市	牧志	陣地+住民避難	自然壕	－
55	緑丘公園陣地跡	那覇市	牧志	陣地	人工壕	－
56	旭ヶ丘公園の陣地跡	那覇市	若狭	陣地	人工壕	－
57	千人ガマ跡	那覇市	辻	住民避難	自然壕	－
58	辻原墓地避難地	那覇市	辻	住民避難	人工壕	－
59	崎原灯台跡の壕	那覇市	鏡水	住民避難	人工壕	－

出典：沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　中部編（平成元年３月　沖縄県立埋蔵文化財センター）
沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　本島周辺離島及び那覇市編（平成 16 年３月　沖縄県立埋蔵文化財センター）



凡例

注：図中の番号は、表 3.1.9-5 に対応する。

- 事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く
- 代替施設
- 防波堤
- 市町村界
- 洞穴

出典：沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　中部編（平成元年３月　沖縄県立埋蔵文化財センター）
沖縄県戦争遺跡詳細分布調査　本当周辺離島及び那覇市編
（平成 16 年３月　沖縄県立埋蔵文化財センター）

図 3.1.9-5　洞穴等の分布図

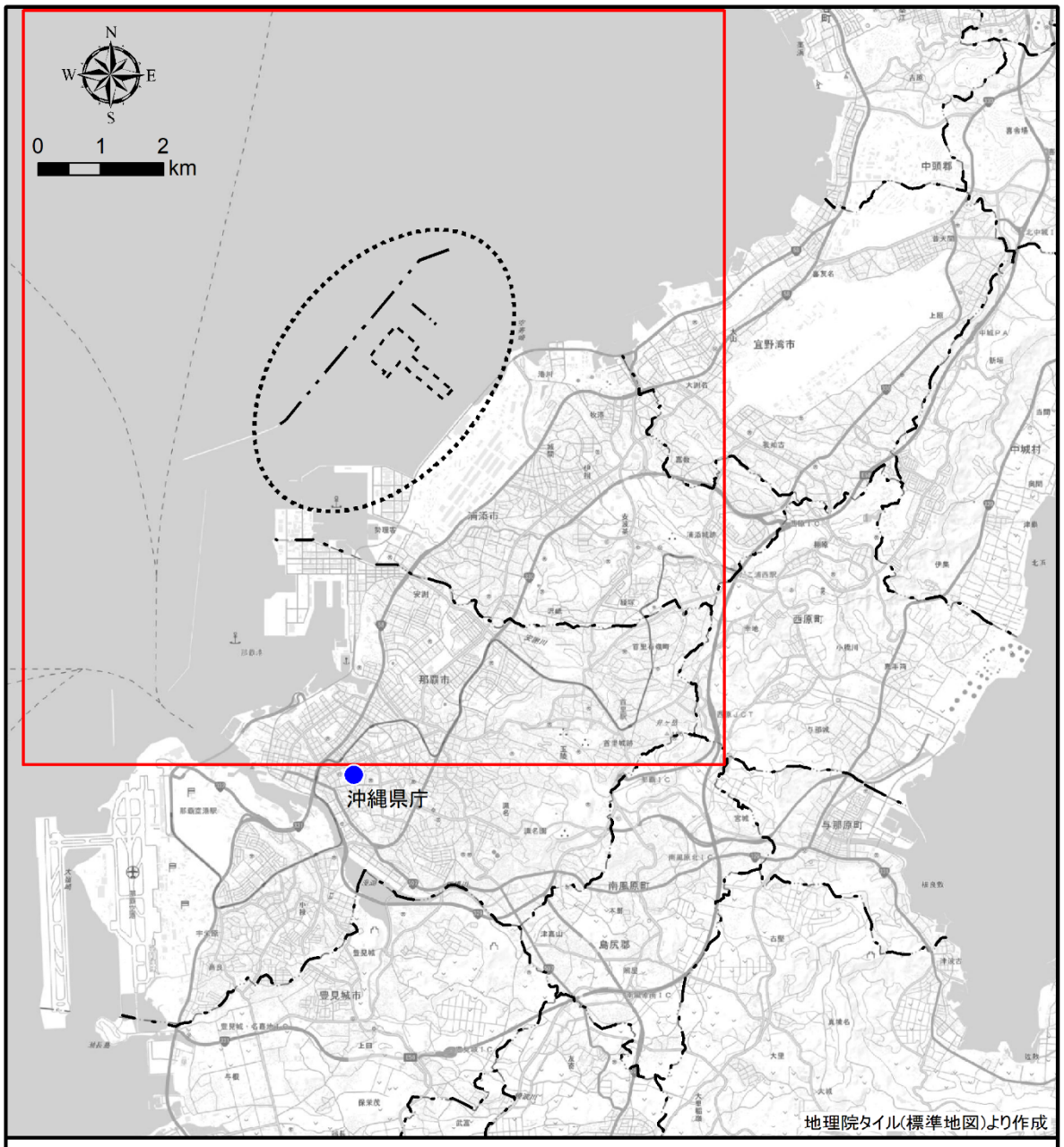
3.1.10 一般環境中の放射性物質

(1) 放射線の量

対象地域周辺における空間線量モニタリングポストは、事業実施想定区域から南の約 6km 先に位置する沖縄県庁に設置されている。

モニタリングポストの位置は図 3.1.10-1 に示すとおりである。

沖縄県庁では、大気中の放射線量－空間放射線量率(μSv/h)が常時測定されており、「令和 5 年度大気環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会　令和 6 年 2 月資料」(環境省ホームページ)より、令和 4 年度における年平均の空間放射線量率は、0.043μSv/h である。



凡例

事業実施想定区域
※自然的環境を保全する区域は除く

モニタリングポスト

代替施設

防波堤

市町村界

対象地域

備考：対象地域内にはモニタリングポストがなく、対象地域外のデータを使用しているため、広域の図面を使用。

出典：放射線モニタリング情報（原子力規制委員会 HP）

図 3.1.10-1　空間線量モニタリングポスト位置図